

佐賀市文化財調査報告書第29集

ほん むら
本 村 遺 跡

—— 1・2 区の調査 ——

平成 2 年 3 月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

久保泉東部地区における農業基盤整備事業は昭和60年に起工され、平成元年度で5年目をむかえます。この事業に伴い昭和63年度までに泉遺跡（昭和60年）、泉三本栗遺跡（昭和61年）、上和泉遺跡（昭和62年）の3遺跡の調査を行いました。

本年度は、南宿遺跡と本村遺跡の調査を行い、ここに本村遺跡（1・2区）の発掘調査報告書を刊行することになりました。

本村遺跡は古墳時代と中世の集落跡です。主な出土遺物には、古墳時代の土師器（甕・埴・高坏）と、鎌倉時代から室町時代にかけての土師器（小皿・坏・鍋）、瓦器（小皿・碗）、輸入磁器（皿・碗）、陶器（甕・壺）などがあります。主な検出遺構では、古墳時代の竪穴住居・井戸・土壇や、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物・井戸・土壇・土壇墓・溝などがあります。なかでも中世遺跡は、方形の溝に区画された内部に掘立柱建物と井戸が配置されていて土豪層の居館か屋敷跡と考えられ、当時の集落のありかたを研究するうえで貴重な資料となるものと思われます。

この報告書が、市民のみなさんの歴史学習や研究資料として、おおいに利用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたってご協力いただいた地元の方々に深く感謝いたします次第です。

平成2年3月

佐賀市教育委員会
教育長 山田 清人

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成元年度に実施した本村遺跡（1区・2区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	2039・3055・5024	遺 跡 略 号	HMR-1・2
調 査 地	久保泉町 大字下和泉 字本村	開 発 面 積	600,000㎡
調査対象面積	18,400㎡	調査実施面積	4,800㎡
遺跡調査番号	0105	調 査 期 間	平成元年6月6日～同年10月13日

4. 発掘調査及び整理事業・報告書作成の分担は以下の通り。

表土除去	有限会社江下建設
空中写真	有限会社空中写真企画
全体遺構実測	新栄地研工業有限会社
遺構写真	西田巖・前田達男
個別遺構実測	西田巖・前田達男・副島カスミ・友添丸子・原京子・龍由美子
遺物復元	鬼崎玲子・浜田糸子・式町幸子
遺物実測	西田巖・前田達男・浜田糸子・浜野里美・式町幸子
製図	西田巖・前田達男・式町幸子
5. 今回の調査区においては市教委が実施した調査区と、佐賀県教育委員会が実施した筑後川下流導水事業に伴う調査区が重複している。県教委の調査区については平成2年度以降に報告書が刊行される予定であるが、本書においても一部の遺構については記述する。
6. 調査においては徳永貞紹・谷沢仁氏（県教委文化課）の御支援・御協力を受け、遺物の一部については徳永・天本洋一氏の御教示を受けた。
7. 調査・整理記録類及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（本庄町大字本庄1121番地）で一括保管している。巻末の収藏品目録を参照されたい。
8. 本書の執筆・編集は、西田の支援を受け、前田がこれにあたった。

本文目次

I. 序 説	1	(3) 井戸と出土遺物	31
1. 調査にいたる経過	1	(4) 土壌と出土遺物	38
2. 調査の組織	1	(5) 土壌墓と出土遺物	40
II. 遺跡の位置と環境	2	(6) 方形周溝状遺構と出土遺物	42
1. 遺跡の位置	2	(7) 溝と出土遺物	43
2. 歴史的環境	2	(8) その他の遺構と出土遺物	46
III. 調査の概要	4	V. 調査の記録 — 2区—	48
IV. 調査の記録 — 1区—	6	1. 中世の遺構と遺物	48
1. 古墳時代の遺構と遺物	6	(1) 溝と出土遺物	48
(1) 竪穴住居と出土遺物	6	(2) 掘立柱建物と出土遺物	51
(2) 土壌と出土遺物	10	(3) 井戸と出土遺物	51
(3) 井戸と出土遺物	12	(4) 土壌と出土遺物	53
2. 中世の遺構と遺物	15	(5) 土壌墓と出土遺物	55
(1) 方形区画の溝と出土遺物	15	VI. 小 結	56
(2) 掘立柱建物と出土遺物	22		

挿図目次

Fig. 1 本村遺跡周辺主要遺跡分布図	2	Fig. 13 SD101・102土層断面実測図	16
Fig. 2 本村遺跡調査区設定図	3	Fig. 14 SD101・102出土遺物実測図	17
Fig. 3 本村遺跡1区遺構配置図	5	Fig. 15 方形区画II実測図	19
Fig. 4 SH180実測図	6	Fig. 16 SD104・117・112・118土層断面実測図	20
Fig. 5 SH180出土遺物実測図	7	Fig. 17 SD104・117・118出土遺物実測図	21
Fig. 6 SH181実測図	7	Fig. 18 SB024・150・151実測図	24
Fig. 7 SH181出土遺物実測図	9	Fig. 19 SB152・156・052・041・022・023実測図	25
Fig. 8 SK161・162実測図	10	Fig. 20 掘立柱建物出土遺物実測図	26
Fig. 9 SK161・162出土遺物実測図	11	Fig. 21 SB049・040・021・159実測図	27
Fig. 10 SE177実測図	12	Fig. 22 SB157・158・153・020実測図	28
Fig. 11 SE177出土遺物実測図	13	Fig. 23 SB155・154実測図	29
Fig. 12 方形区画I実測図	15	Fig. 24 SE001・003実測図	31

Fig. 25	SE001・003・006出土遺物実測図…32	Fig. 40	SD160土層断面図……………44
Fig. 26	SE006・007実測図……………33	Fig. 41	SD160出土遺物実測図……………45
Fig. 27	SE007出土遺物実測図……………34	Fig. 42	P1001実測図……………46
Fig. 28	SE120・122・123実測図……………35	Fig. 43	P1001出土遺物実測図……………46
Fig. 29	SE120・121・123実測図……………36	Fig. 44	本村遺跡2区遺構配置図……………47
Fig. 30	SE134-174実測図……………37	Fig. 45	SD208土層断面図……………48
Fig. 31	SE134出土遺物実測図……………38	Fig. 46	SD208出土遺物実測図……………49
Fig. 32	SK141実測図……………38	Fig. 47	SB234実測図……………50
Fig. 33	SK141出土遺物実測図……………39	Fig. 48	SE211実測図……………51
Fig. 34	SK172・173実測図……………40	Fig. 49	SE211出土遺物実測図……………52
Fig. 35	SP170・171実測図……………41	Fig. 50	SK224実測図……………53
Fig. 36	SP170出土遺物実測図……………41	Fig. 51	SK224出土遺物実測図……………54
Fig. 37	SR164実測図……………42	Fig. 52	SP232実測図……………55
Fig. 38	SR164出土遺物実測図……………43	Fig. 53	SP232出土遺物実測図……………55
Fig. 39	SD114出土遺物実測図……………44		

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類は以下のとおり。

SA：棚列	SB：掘立柱建物	SC：箱式石棺墓・石蓋土墳墓	SD：溝	SE：井戸	SH：竪穴住居	SJ：甕棺墓
SK：土墳	SP：土墳墓・木棺墓	SR：方形周溝状遺構	SS：支石墓	ST：古墳	SX：不明遺構	P：小穴・柱穴

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはm単位とした。
3. 特に注記のないかぎり、表示した方位はすべて座標北（G. N）である。遺構の方位角を表示する場合は30°単位でこれを行なう。
4. 遺物実測図のうち、断面を黒ヌキにしている容器類は、須恵質土器を表現している。
5. 容器類の保存状態のうち、「完存」とは破損の認められない完形状態を示し、「完形」とは破片の復元によって完形状態にあるものをいう。
6. 本書に使用した遺物番号は、調査区ごとの連番号とし、収蔵品目録中のⅠ種資料目録番号と合致させている。

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

昭和60年に久保泉東部地区における農業基盤整備事業が起工され、耕作土の下に長年保存されてきた当地区の埋蔵文化財は破壊の危機に曝される状況となった。これにさきだち、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・佐賀市土地改良課・佐賀市教育委員会の四者で、埋蔵文化財の保護に関する協議が行なわれた。その結果、工事施工前年度の秋に行われる確認調査結果に基づき、四者の協議のうえ、工事に際してどうしても削平される部分について発掘調査を行い、埋蔵文化財の記録保存を図ることとなった。

久保泉東部地区の平成元年度施工区では、確認調査の結果、本村遺跡において18,400㎡にわたり遺跡が確認され、工事に際してどうしても削平される5,966㎡について発掘調査が行われることとなった。工区の状況により調査区を6区に分割し、1・2区(4,800㎡)を農林部委託により調査を実施した。調査記録・出土遺物の整理作業及び報告書作成は、平成元年9月から平成2年3月にかけて佐賀市文化財資料館で実施した。3・4・5・6区については佐賀市文化財調査報告書第28集を参照されたい。

2. 調査組織

以下に述べる体制で調査を行った。調査に関しては、天候不順等の困難が生じたが、多くの人々の協力と激励で、無事に調査終了したことをここに感謝したい。

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課
社会教育課長 古川靖邦

課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

前田達男（調査担当）

嘱託員 西田巖（調査担当）

発掘作業員 原ケサ代、武藤ツル代、山本江美子、木塚トシ子、亀川すみえ、副島かすみ、友添丸子、原京子、宮地富子、龍由美子、中尾清子、松本のり子、畑瀬弘、緒方多美子、緒方敏子、下村保枝、原ナミ子、森田ツルヨ、小林澄子、小林恵子、小林摂子、小出香澄、千住フジ子、角田千代乃、角田絹子、富永ツヤ子、内村美里、内田和子、納富ミサオ、野田セキ子、野田富子、野田美智子、中牟田テル子、深町俊子、小山和枝、香月信子、江口淳子

調査協力 地元各位、佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、佐賀市土地改良課、久保泉土地改良区

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

本村遺跡は、佐賀市北東端部にあたり神埼町との市町境に接する。久保泉町大字下和泉字本村・一本松・二本松・永屋に所在し、佐賀市中心部の佐賀市役所より北西約7kmに位置する。

北には脊振山系が東西に連なり、南には沖積平野が広がり、東西には標高6～8m程度の微高地が続く。今回調査を行なった地点は、脊振山系から派生した帯隈山の南方に位置し、周辺は水田地帯で、そこに高畑が点在する。遺跡はこの削平をまぬがれた高畑を中心に遺存し、標高6～7mで遺構が検出された。

2. 歴史的環境

脊振山麓及びそこから広がる平野部にかけて遺跡が密集するが、佐賀市域においては発掘調査例は少ない。ここでは久保泉地区において調査が行われ、その概要がつかめる遺跡について

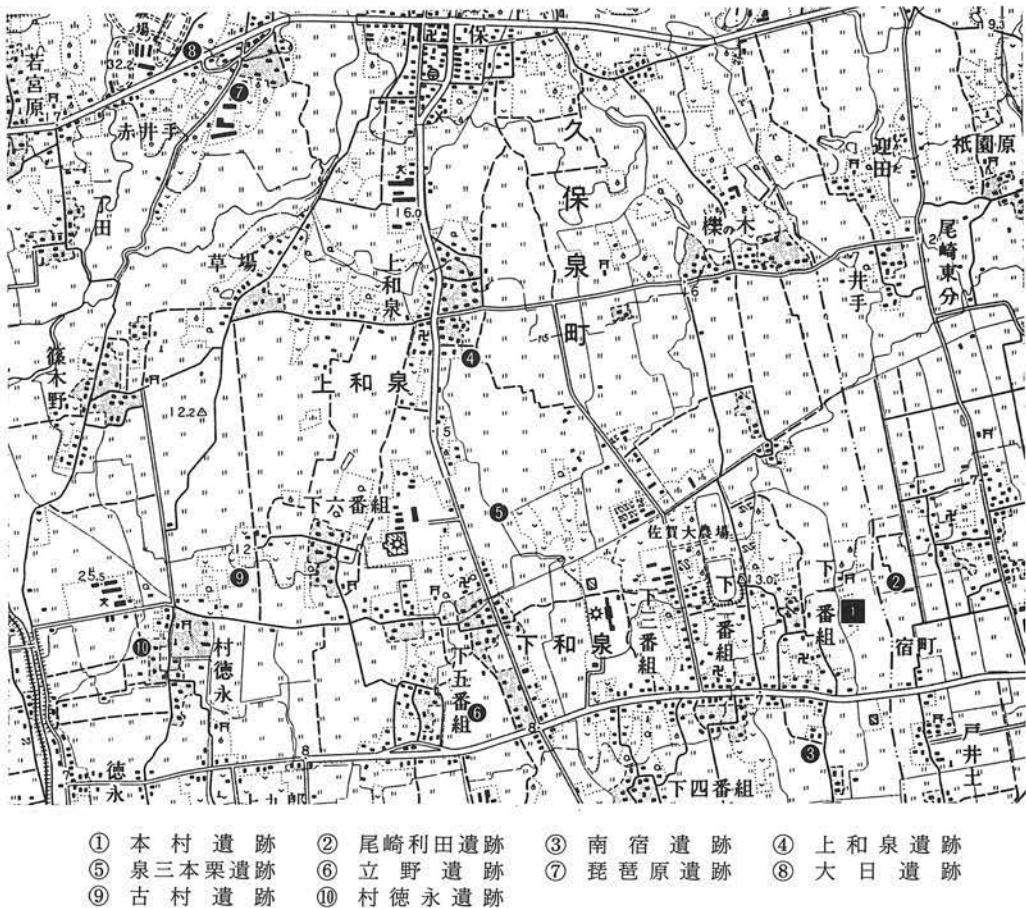


Fig. 1 本村遺跡周辺主要遺跡分布図 ($S = 1/25,000$)

ふれることにしたい。なお、参考文献についてはVI章を参照されたい。縄文時代遺跡の調査はほとんどなく、晩期の村徳永遺跡がある。弥生時代では堅穴住居等を検出した集落遺跡として琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・立野遺跡・南宿遺跡があり、さらに多数の掘立柱建物が検出された村徳永遺跡は注目される。近代的方法による古墳の調査例はほとんどなく、古墳時代の集落遺跡では琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・古村遺跡がある。古代遺跡としては掘立柱建物群が検出された大日遺跡、集落遺跡としては上和泉遺跡・古村遺跡がある。中世遺跡としては泉三本栗遺跡・立野遺跡・村徳永遺跡がある。これら久保泉地区の遺跡に加えて、神埼町尾崎利田遺跡は今回の本村遺跡調査区の東方500mの地点で調査が行なわれ、その遺構・遺物の内容は本村遺跡の今回の成果と合わせて、両遺跡が本来同一のものであったことを窺わせる。

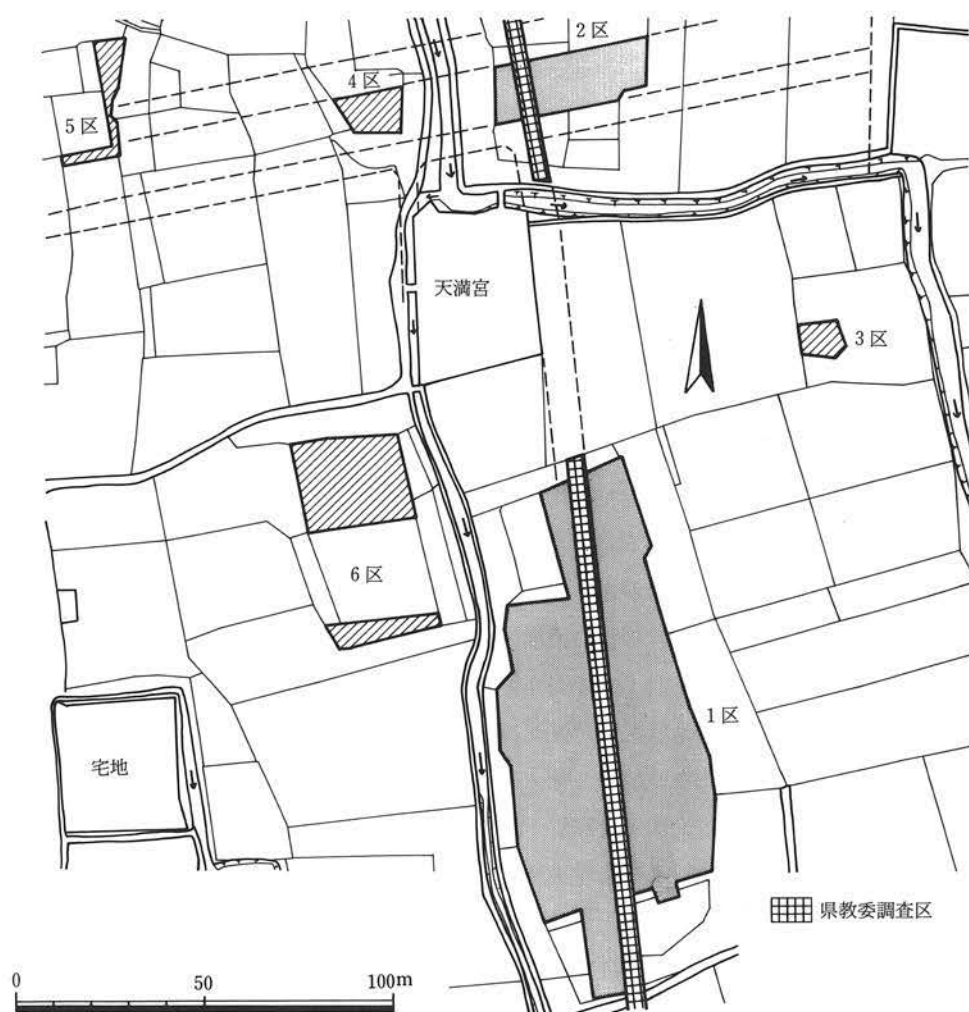


Fig. 2 本村遺跡調査区設定図 (S = 1/2,000)

III. 調査の概要

平成元年度における本村遺跡の調査は、佐賀市教育委員会以外に、同時期に佐賀県教育委員会による発掘調査も行なわれていて、1・2区において両教委の調査区が重複している。調査区の設定は Fig. 2 に図示したとおりである。

発掘調査は、1区の機械力による表土の除去作業から開始した。調査区の現況は高畑で、予想以上に表土が厚く、また調査区が比較的に広いこともあって、排土の搬出には苦慮した。表土は、上層が厚さ20～30cmの耕作土、下層は厚さ50～80cmの褐色土である。この褐色土はごく少数の近世遺物が混入していて、近世のある時期に盛土により高畑が造成されたものと考えられる。表土を除去すると遺物包含層は存在せず、直下に遺構検出面が現れた。表土除去後、調査区全面に5m方眼測量杭を国土座標第II系を基準として設定し、人力による掘削及び記録作業に入った。検出面は黄褐色～褐色砂質土で形成され、その下層は黄色あるいは青灰色の粘土層である。遺構はこうした検出面に黒褐色ないし暗褐色の有機質土が落込んだ状態で、その判別は比較的に容易であった。遺構・遺物は古墳時代のものと中世のものに分かれる。古墳時代の遺構としては、竪穴住居2棟・土壇5基・井戸1基を検出した。遺物は古式土師器の高坏・埴・甕等で比較的にとまった資料を得た。中世の遺構としては、2ヶ所で大きく方形に区画する溝を検出し、それに伴うと考えられる多数の柱穴・土壇・井戸を検出した。柱穴の組合せを現地で検討した結果、掘立柱建物19棟と柵列2条を確認した。他に方形周溝状遺構・井戸・土壇・土壇墓・土器埋納遺構と考えられるものを検出した。遺物は土師器・瓦器・黒色土器・須恵質土器・陶磁器・石製の各種の容器類を主体に出土した。全体で検出した遺構は、方形区画の溝7条・その他の溝11条・掘立柱建物19棟・柵列2条・方形周溝状遺構1基・竪穴住居2棟・井戸46基・土壇55基・土壇墓2基・土器埋納遺構と考えられるもの1基である。土壇には、性格不明のもの・土壇墓の可能性のあるもの・土器溜と考えられるものがある。一部に平安時代にかかる遺構・遺物もあるが、中世の遺構・遺物に包括して記述する。

2区の調査は、1区に引続き表土の除去作業から開始し、1区の調査の終了間際から同様の方法で調査を行なった。遺跡の状況は1区とほぼ同様であるが、中世の遺構・遺物のみが検出された。遺構は、溝2条・掘立柱建物1棟・井戸5基・土壇9基・土壇墓1基を検出した。遺物は、土師器・瓦器・須恵質土器・陶磁器・石製の各種の容器類を主体に出土した。

また、1・2区の周辺に位置する本村遺跡3・4・6区でも中世の遺構・遺物が検出され、特に6区では、掘立柱建物とともに、土壇墓に副葬された国産とみられる小形の柄鏡が出土している。さきに調査が行われた神埼町尾崎利田遺跡の成果ともあわせて、この地域に古墳時代及び中世遺跡が広がることが確認された。今次調査区の西に位置する本村地区の集落内における試掘結果を考慮すると、今次調査区はこの遺跡の西端近くに位置するものとする。

IV. 調査の記録 — 1 区 —

1. 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居と出土遺物

SH180竪穴住居 (Fig. 4)

AJ-17・18、AK-16・17・18、AL-17区画にかけて検出した竪穴住居である。北側の隅を SD160 に切れ、破壊されている。東南壁長5.7m・西南壁長5.8m・東北壁現存長4.2m・西北壁現存長5.1mで、ほぼ正方形になる平面形をなす。壁の高さは0.1m前後残存している。埋土は2層に大別される。下層はやや締まった暗褐色砂質土で、これは床面をととのえる為の整地層と考えられる。その上に有機質の黒褐色土が部分的に堆積して、これは竪穴住居廃棄後の自然堆積

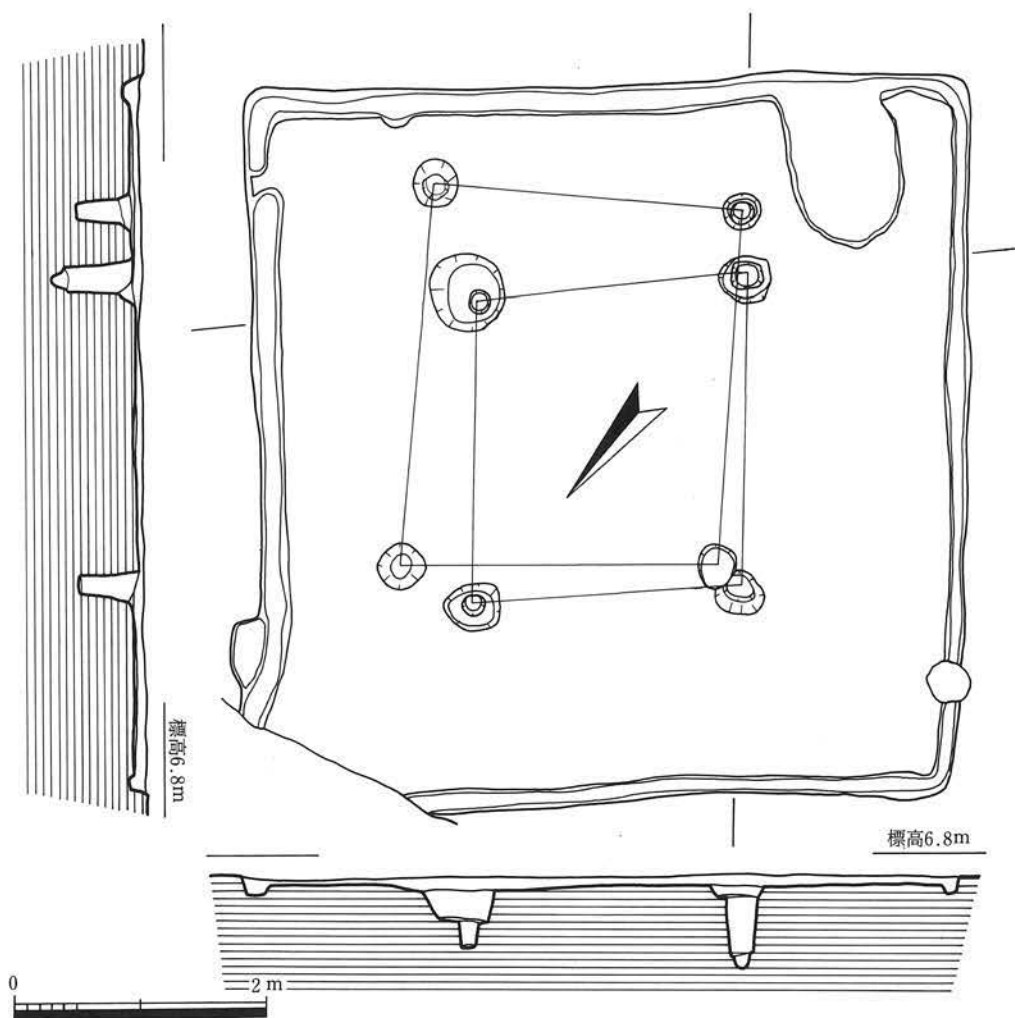


Fig. 4 SH180 実測図 (S = $\frac{1}{60}$)

土であろう。ほぼ全周に壁溝がまわる。溝は幅0.1~0.2m・深さ0.1m前後である。4本柱になるものと考えられるが、2組で8個の柱穴が検出され1回以上の建替えが行なわれた確率が高い。柱穴はいずれも円形で、径0.3~0.6m・深さ0.4~0.6mで、基底面において検出された。

SH180出土遺物 (Fig. 5)

図示できるもの2点を示す。黒褐色土からの出土である。

高坏 (306)

復元口径17.8cmを計り、脚部を失う。坏部のほぼ中位でやや屈曲し、口縁付近で外反する。器表面が荒れている為、内外面とも調整不明。

鉢 (307)

復元口径14.2cmを計る。口縁付近をやや肥厚させ、体部は内下方にのび、尖底状の丸底にな

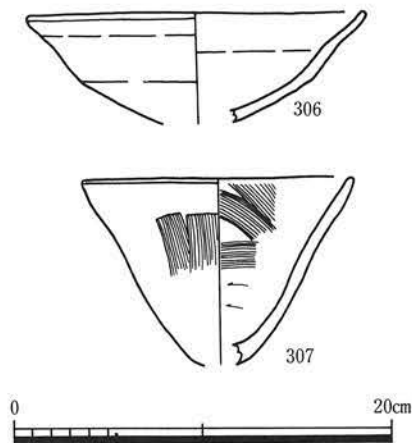


Fig. 5 SH180 出土遺物実測図 (S = 1/4)

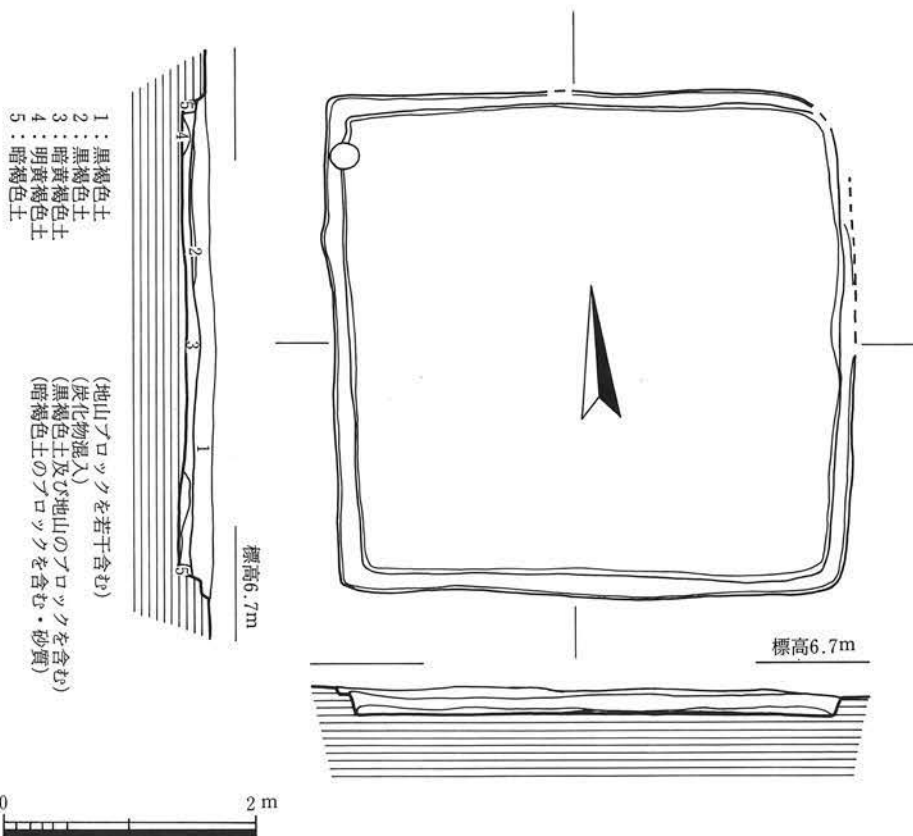


Fig. 6 SH181 実測図 (S = 1/60)

るものと思われる。口縁部は横ナデ調整。体部外面上位は縦方向のハケ目調整、下位はナデ調整。内面上位は横～斜方向のハケ目調整、下位は横方向のヘラ削り調整を施す。

SH181 竪穴住居 (Fig. 6)

AJ-9・10、AK-9・10区画にかけて検出した竪穴住居である。北壁長4.1m・南壁長4.0m・東壁長3.9m・西壁長3.9mを計り、ほぼ正方形の平面形をなす。壁の高さは0.2m前後残存している。埋土は5層に分層される。第1層は廃棄後の自然堆積土で、多量の遺物を含む。第2層は有機質土で、床面上に形成された生活汚染の痕跡と考えられる。第3・4層は床面をととのえる為の整地層である。第5層は床面において壁溝を形成し、ほぼ全周をまわる。床面及び基底面においても支柱穴と思われるものは検出されなかった。

SH181 出土遺物 (Fig. 7)

器種のわかるものの13点を図示する。高坏・埴・鉢・甕がある。309・314は床面直上で出土し、他は第1層中から出土した。

高坏 (308・309・310・311・312・313)

308・309・310・311・312は坏部、313は脚部破片である。坏部はいずれもやや下位の部分で屈曲するもので、311以外は段を形成する。312以外は口縁下端からわずかに内湾し、308以外は口縁端部を丸く収める。308は復元口径15.8cmをはかる。口縁端部は平坦に仕上げる。口縁部付近は内外面ともに横ナデ調整。外面下位はナデ調整、内面は調整不明。309は復元口径18.2cmを計る。口縁部付近は内外面ともに横ナデ調整。他は内外面ともに横方向のヘラミガキ調整。310は復元口径18.8cmを計る。内外面ともに、口縁部付近は横ナデ調整、他は横方向のヘラミガキ調整。311は復元口径21.8cmを計る。屈曲部で段を形成するかわりに、ゆるく沈線状の凹みをめぐらす。外面上位は横方向のハケ目調整、下位はナデ調整。内面は上位は横ナデ調整、下位は横方向のハケ目調整。312は復元口径21.6cmを計る。口縁部はやや外反する。外面は、上位ハケ目の後横ナデ調整、下位は縦方向のハケ目調整。内面は、上位は横ナデ調整、下位はナデ調整。313は外面縦方向のハケ目調整。内面は上位ナデ調整、下位は横ナデ調整。

埴 (314・315)

314はやや小形で復元口径7.8cm・器高6.9cm。頸部内外面横ナデ調整。胴部外面ナデ調整、内面指頭による押圧。315は復元口径8.8cm・器高8.7cmを計る。頸部と胴部の境には凹みをめぐらす。頸部内外面ともに横ナデ調整。胴部外面は、上位ハケ目の後ナデ消し、下位ナデ調整。内面は指頭による押圧。

鉢 (316・317)

316は復元口径12.6cm、口縁付近でやや肥厚する。丸底になるものと思われる。口縁部付近は横ナデ調整。体部外面は斜方向のハケ目調整、内面はナデ調整。317は復元口径17.3cm。口縁部付近は内外面ともに横ナデ調整。体部外面は斜方向のハケ目調整、内面はナデ調整。

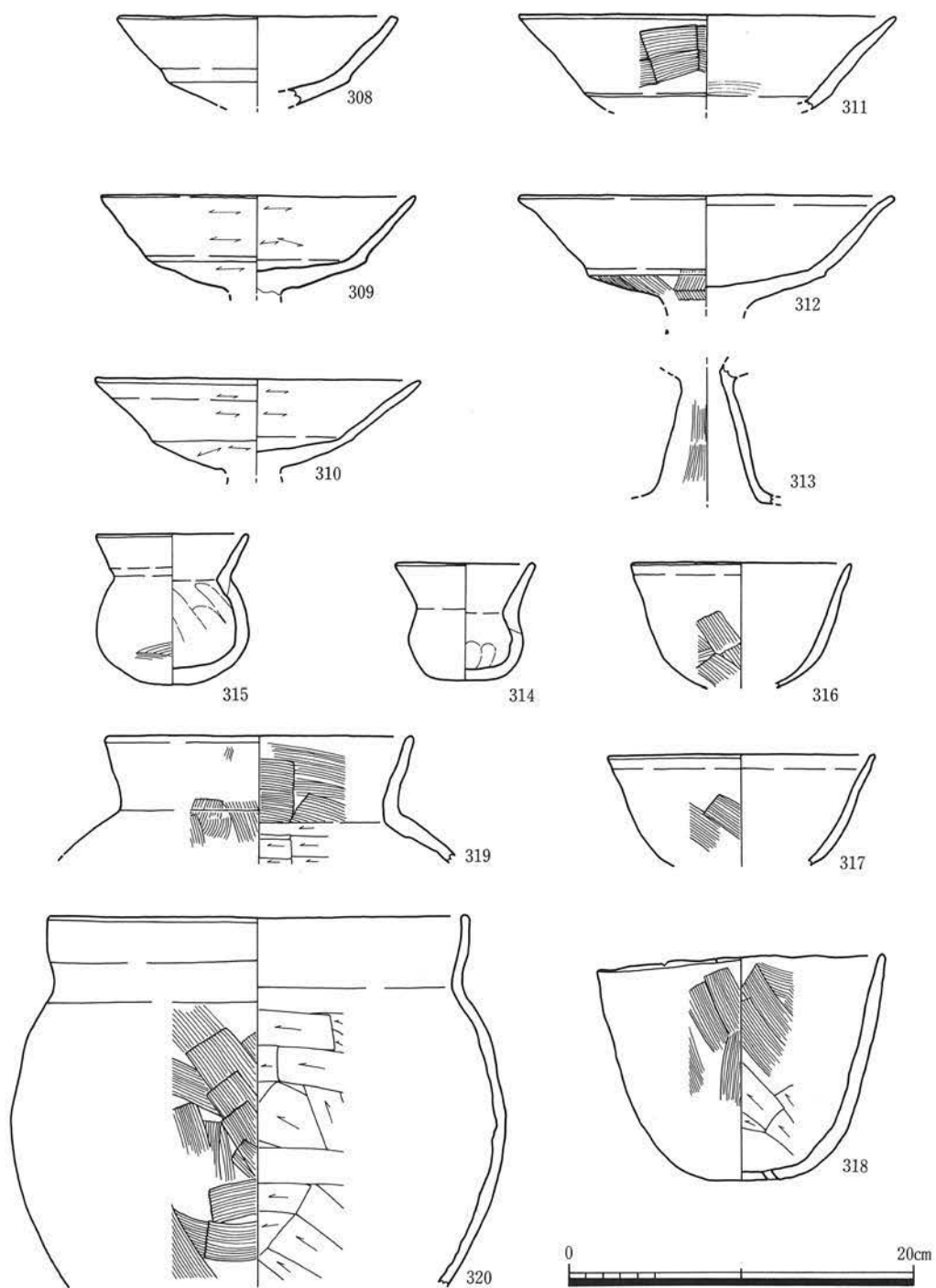


Fig. 7 SH180 出土遺物実測図 (S = ¼)

甕 (318・319・320)

318・320は体部に黒班を持つ。318は口径16.5cm・器高13.3cmを計る小形の甕である。口縁から内下方に直にのび平丸底の底部を持つ。底部には径5mmほどの穿孔がある。体部外面は斜～縦方向のハケ目調整を施し、下位から底部にかけてナデ調整。内面は上位斜方向のハケ目調整、下位は斜方向のヘラ削り。319は復元口径17.6cm。頸部外面はハケ目の後横ナデ調整、内面は横方向のハケ目調整。胴部外面は縦～斜方向のハケ目調整、内面は頸部直下から横方向のヘラ削りを施す。320は復元口径24.6cmを計る。頸部と胴部の境は不明瞭である。頸部外面はナデ調整、内面は横ナデ調整。胴部外面は斜～横方向のハケ目調整、内面は横方向のヘラ削り。

(2) 土壌と出土遺物

古墳時代の土壌は5基検出したが、紙数の制約により、良好な状態の2基を報告する。

SK161土壌 (Fig. 8)

AI-16区画に検出した。長軸2.1m・短軸1.1m・深さ0.25～0.35mを計り、長楕円形の平面形をなす。壁の立上がりはきつく、底面は舟底状を呈す。埋土は暗褐色砂質土。中央より土師器がまとまった状態で出土した。底面より浮いた状態であり、土壌が埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

SK161出土遺物 (Fig. 9-236・237・238・239)

図示できるものが4点ある。236は高坏で脚部を失う。復元口径19.4cmを計る。坏部の下位で屈曲し口縁にかけて外反する。端部は丸い。外面上位はハケ目の後ナデ調整、下位はナデ調整。

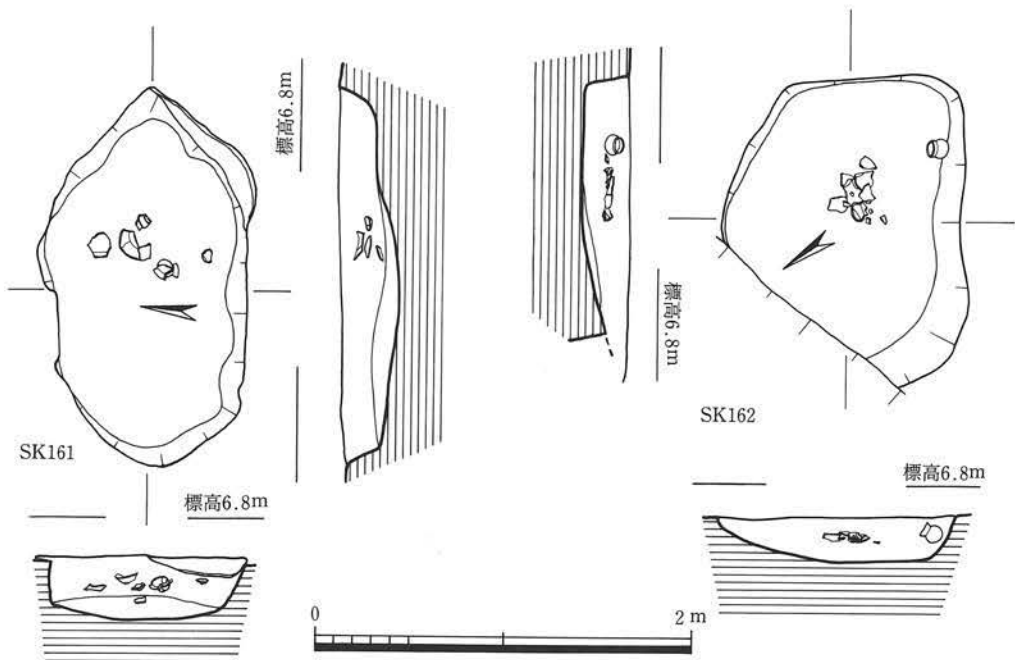


Fig. 8 SK161・SK162 実測図 (S = 1/40)

内面上位は横ナデ調整、下位は斜方向のハケ目調整。237・238・239は小形の埴。237・238は頸部やや下位で屈曲し頸は絞まる。237は復元口径8.6cm。頸部は内外面ともに横ナデ調整。胴部外面は上位縦方向のハケ目調整、下位はナデ調整。内面は指頭による押圧。238は口径9.0cm・器高9.2cm。頸部外面はハケ目の後ナデ調整、内面は横ナデ調整。胴部外面上位は縦方向のハケ目調整、下位は横方向のハケ目調整。内面は指頭による押圧。239は頸部外面ハケ目の後ナデ調整、内面は斜方向のハケ目調整。胴部外面は上位縦方向のハケ目調整、下位は多方向からのハケ目調整。内面は指頭による押圧。237・239は体部に黒班を持つ。

SK162土壙 (Fig. 8)

AL-18区画に検出した。北側をSD160に切られ、破壊されている。長軸現存長1.6m・短軸1.3mで、平面形は不定形な隅丸台形状をなすものと考えられる。埋土は暗褐色砂質土。深さは0.1~0.25mで壁はややきつく立上がる。底面はゆるいレンズ状を示す。底面より浮いた状態で土師器がまとまって出土している。埋没の過程で投棄されたものと考えられる。

SK162出土遺物 (Fig. 9 - 240・241・242)

図示できるものが3点ある。242は小形の埴で、口径16.2cm・器高8.4cm。頸部下位でわずかに段をなして屈曲し、頸は絞まる。頸部外面は横ナデ調整、内面はナデ調整。胴部外面上位は斜方向のハケ目調整、下位はナデ調整。内面は指頭による押圧。240は甕で、復元口径16.2cmを計る。頸部下位で屈曲し、頸は絞まる。頸部内外面ともに横ナデ調整。胴部外面は上位で斜~縦方向のハケ目調整、中位はナデ調整。内面は頸部直下より横~斜方向のヘラ削りを施す。241は

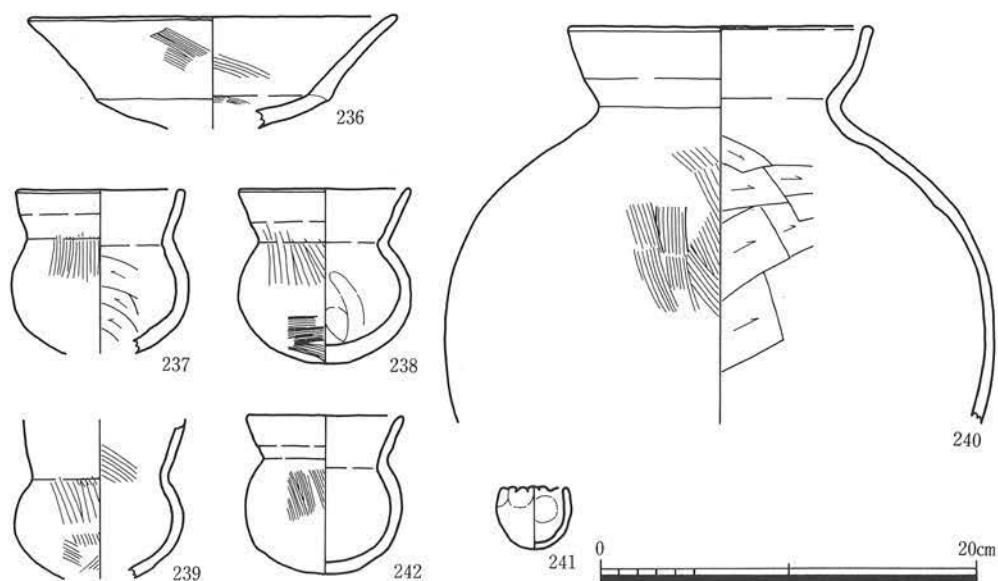


Fig. 9 SK161・SK162 出土遺物実測図 (S = 1/4)

手捏土器で完存品。口径3.6cm・器高3.3cm。63・64は体部に黒班を持つ。

(3) 井戸と出土遺物

SE177井戸 (Fig. 10)

AL-16区画に検出した。底面で激しく湧水した為、井戸と判断した。長径1.8m・短径1.3m・深さ1.3mで不整楕円の平面形をなす。断面は逆台形状で、壁はきつく立上がり、底面は平坦である。埋土は6層に大別され、すべて自然堆積によるものと考えられる。第6層から多量の土師器が出土した。

SE177出土遺物 (Fig. 11)

すべて第6層から出土した遺物である。図示できるものが20点ある。器種は高坏・埴・鉢・甕・手捏土器・匙形土製品。

高坏 (280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290)

11点ある。290はほぼ完形。280・281・282・283・284・285は坏部のみ、286・287・288・289は脚部のみ残存する。282の坏部は深みのあるもので、他の坏部は浅く口縁が上外方に大きく開く。282坏部の屈曲が不明瞭なもの(280)・明瞭に段をなしているもの(281・283・284・285)・段の代わりに沈線をめぐらすもの(282・284)がある。脚部では脚端部が大きく外下方に開きラッパ状をなすもの(290)・筒部が細く屈曲し脚端部が外方へのびるもの(286・287)・筒部が太く屈曲し脚端部があまりのびないもの(288・289)がある。どれも筒部はやや膨らみを持つ。

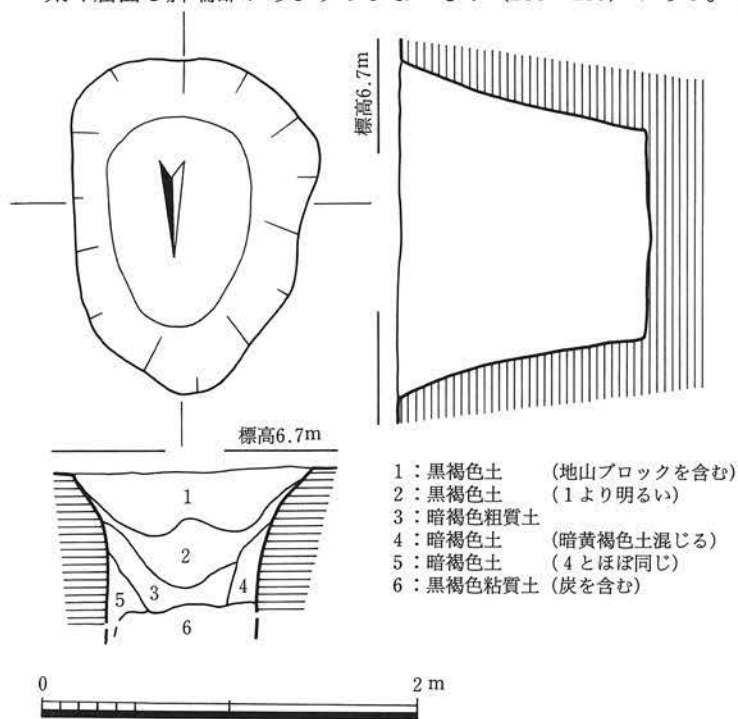


Fig. 10 SE177 実測図 (S = $\frac{1}{40}$)

280は復元口径17.8cm。外面は上位ナデ調整、下位は斜～横方向のハケ目調整。内面はナデ調整。281は復元口径17.8cm。口縁部付近は内外面ともに横ナデ調整。坏部外面上位一部に斜方向のハケ目が残る。下位は横ナデ調整。内面は調整不明瞭。282は口径18.4cm。口縁部付近は内外面とも横ナデ調整。外面上位は斜方向のハケ目調整、下位はハケ目の後ナデ調整。内面上位は横方向のハケ目調整、下位はナデ調整。283は復元口径18.0cm。器表面が荒れている

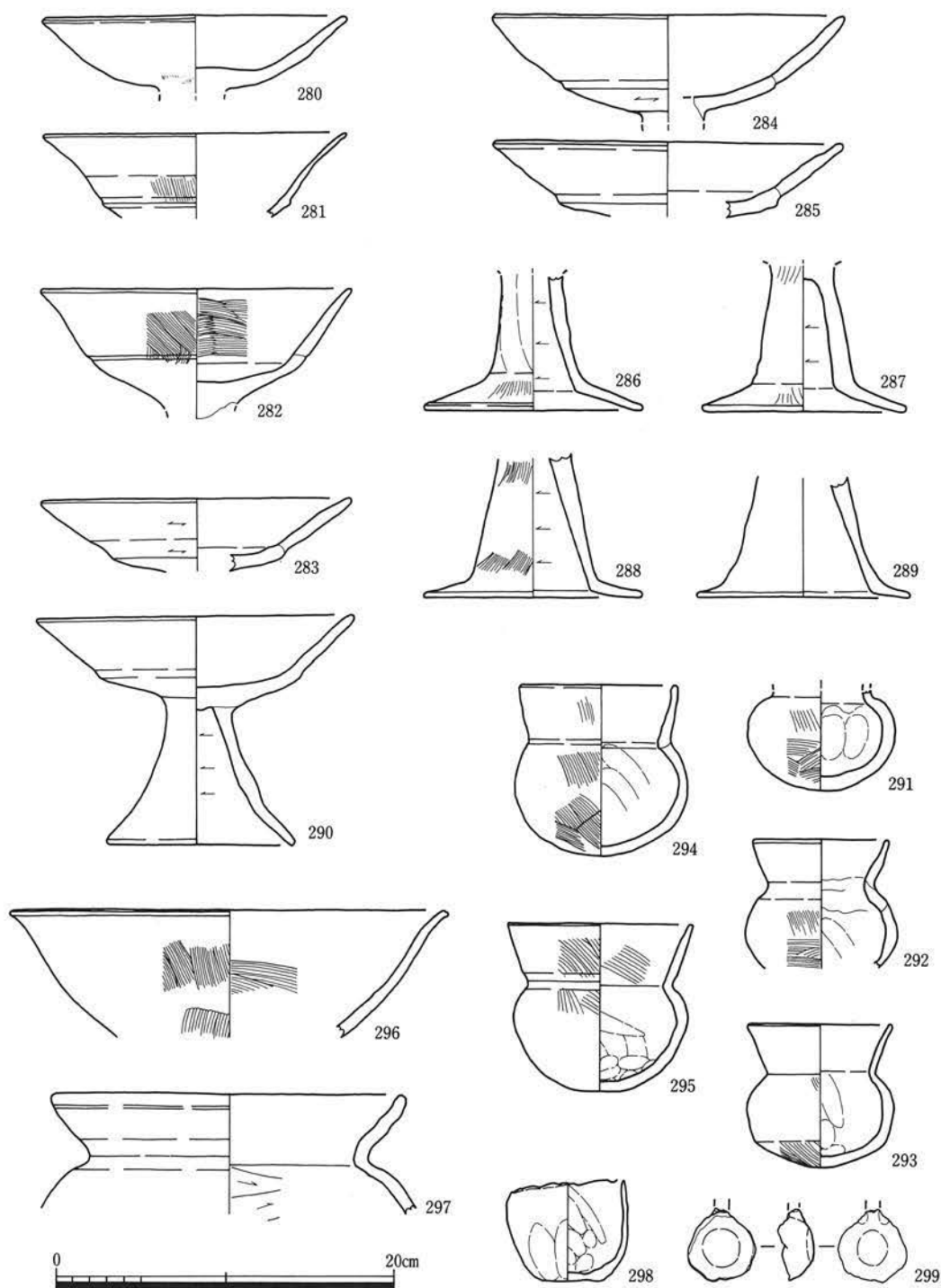


Fig. 11 SE177 出土遺物実測図 (S = ¼)

為に調整は不明瞭だが、口縁部付近は内外面ともに横ナデ調整。外面は横方向のヘラミガキ、内面はナデ調整と思われる。290は口径18.6cm・底径11.2cm・器高13.6cm。坏部は器表面が荒れていて調整が不明瞭だが、外面下位にハケ目が一部残る。脚部外面はハケ目の後ナデ調整。内面は上位横方向のケズリ、下位は横ナデ調整。284は復元口径20.6cm。器表面が荒れていて調整は不明。285は復元口径20.4cm。器表面が荒れていて調整が不明瞭だが、口縁部付近は内外面は横ナデ調整。286は底径12.9cm。筒部外面はナデ調整、ねじり痕が残る。内面は横方向のケズリを施す。脚端部外面は縦方向のハケ目調整、内面はナデ調整。287は復元底径12.0cm。筒部外面はナデ調整で一部にハケ目の痕跡が残る。内面は横方向のヘラ削り。脚端部内外面は横ナデ調整。外面の一部にハケ目が残る。288は底径12.9cm。筒部外面は斜方向のハケ目調整。一部をナデ消し。内面は横方向のヘラ削りを施す。脚端部内外面ともに横ナデ調整。289は底径12.6cm。筒部内外面ともにナデ調整。脚端部内外面ともに横ナデ調整。

埴 (294・295・292・293・291)

5点ある。頸が開くもの(294)と絞まるもの(295・292・293・291)がある。294は復元口径9.2cm・器高10.1cm。頸部外面はハケ目の後横ナデ調整、内面は横ナデ調整。胴部外面は斜方向のハケ目調整、内面は指頭による押圧。295は復元口径10.8cm・器高9.9cm。頸部と胴部の境に沈線状の凹みをめぐらす。口縁部付近内外面ともに横ナデ調整。頸部内外面斜方向のハケ目調整。胴部外面上位斜方向のハケ目調整、下位ナデ調整。内面は指頭による押圧。292は復元口径7.7cm。頸部内外面ともに横ナデ。胴部上位斜方向のハケ目、下位横方向のハケ目。内面は指頭による押圧。293は口径8.4cm・器高8.5cm。頸部内外面横ナデ。胴部上位はナデ調整、一部にハケ目が残る。下位は斜方向のハケ目調整。内面は指頭による押圧。291は胴部外面は斜～横方向のハケ目調整。内面は指頭による押圧。

甕 (297)

復元口径20.8cm。口縁付近をわずかに内湾させ、頸部と胴部の境は横ナデによる凹みがまわる。頸部は内外面ともに横ナデ調整。胴部外面ナデ調整、内面は頸部直下から横方向のヘラ削りを施す。

鉢 (296)

復元口径25.6cm。口縁端部をやや外方に引出し、沈線状の凹みをめぐらせる。口縁下端で外反する。口縁部付近内外面ともに横ナデ調整。体部外面縦方向のハケ目調整。内面上位横方向のハケ目調整、下位ナデ調整。

手捏土器 (298)

ほぼ完存する。口径6.6cm・器高6.0cm。

匙形土製品 (299)

残存長4.3cm。柄の部分を欠損する。ていねいに仕上げてある。

2. 中世の遺構と遺物

(1) 方形区画の溝と出土遺物

調査区は、ほぼ全域にわたり、略方形状にまわる二つの溝によって区画されるものと想定できる。以下、調査区北半に検出したものを方形区画Ⅰ、南のものを方形区画Ⅱと呼称する。この二つの方形区画の内部には多数の井戸・土壇・柱穴・小穴・掘立柱建物が検出され、この方形区画の内部は中世の屋敷（居館）ではないかと考えられる。方形区画の溝には出入口部分を想定させるような陸橋等は調査区内では検出できなかった。方形区画Ⅰ及びⅡは互いに切合い関係はなく、直接の先後関係は不明である。方位角をほぼ同一にとり、約5mの間隔で接している。この方形区画の溝は、井戸・土壇・土壇墓を切っているが、近世以後の溝・小穴以外にこれを切る遺構はない。したがって、屋敷（居館）は、それ以前の中世の遺構を壊して開始され、方形区画の溝が埋まり始めてその機能が停止するまでには廃絶されたものと考えられる。また、現況の高畑の区画は方形区画Ⅰ及びⅡにほぼ対応していて、高畑の盛土が行われた近世のある時期までは、方形区画がなんらかのかたちで残っていて、周囲の人々に地割として意識されていたことを示すものとする。

方形区画Ⅰの溝 (Fig. 12・13)

方形区画ⅠはSD101・SD102・SD103により形成される。西北にかけては、溝が調査区外にのびる為と削平により不明である。南北長約50m・東西長約41m程度のほぼ方形をなす区画を想定できる。底面は、北に向うほど低く、南では高い。AE-22・23、AF-22・23区画にかけて3条の溝が交錯する。この部分では3条ともかなり削平を受けていて、上部構造は判断できない。SD102がSD101の南側に接する形で西に向って掘削されていて、SD103がSD101から分岐する形で西南にのびSD102に接続している。この3条の溝には切合い関係は認めがたく、同時期に並存していた確率が高い。出土遺物には垂直分布にまともには認められず、埋土の流入とともに混入したか投棄されたものと

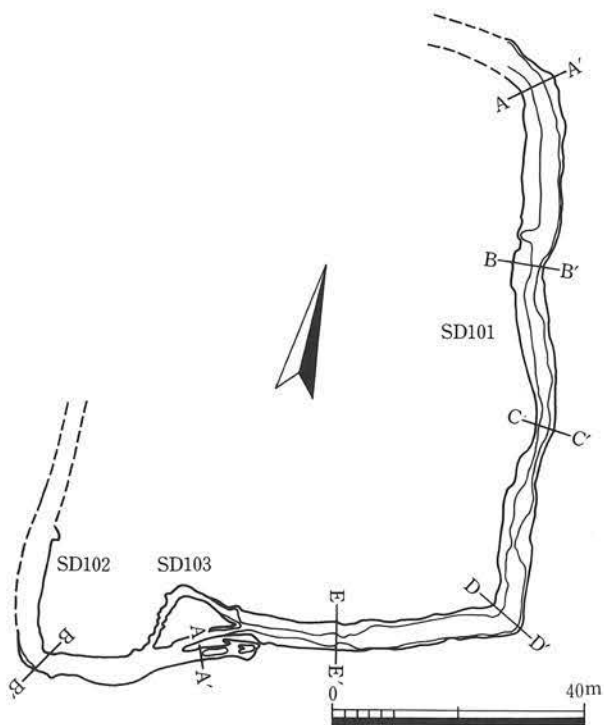


Fig. 12 方形区画Ⅰ実測図 (S = 1/600)

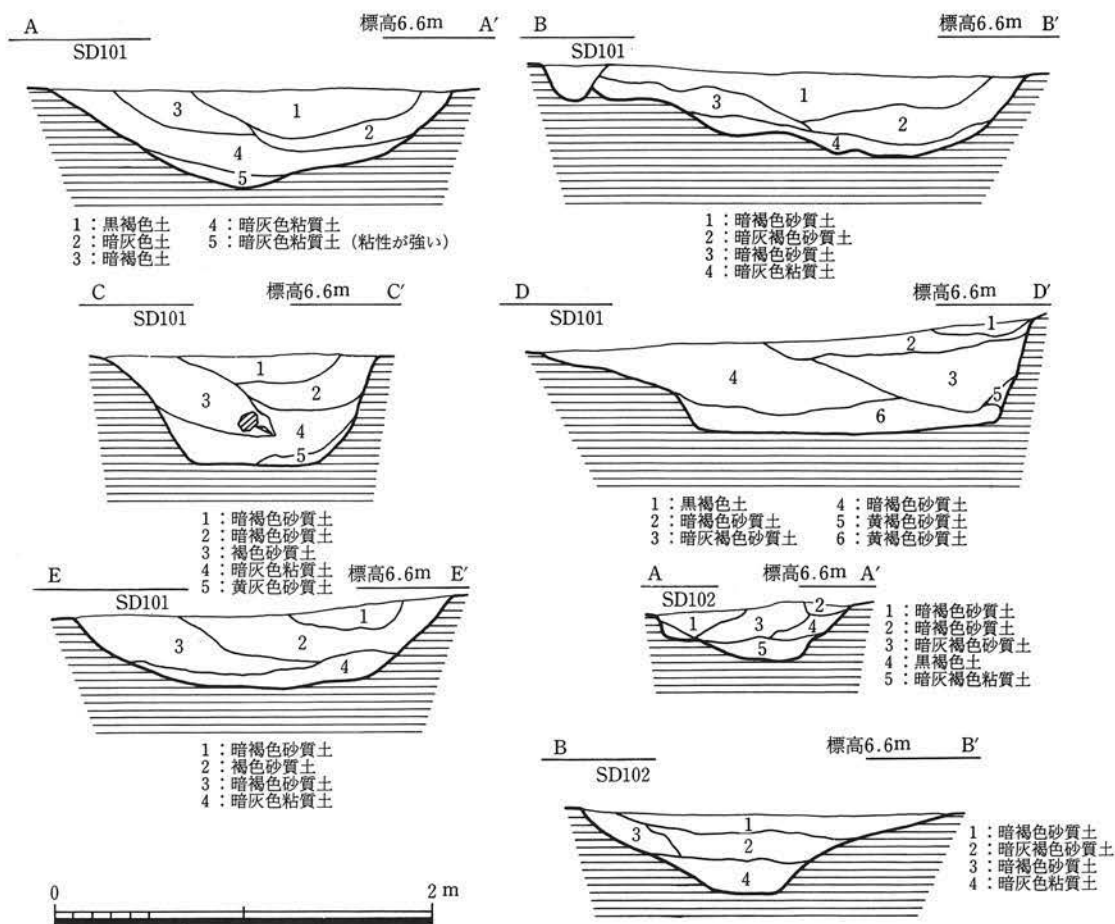


Fig. 13 SD101・SD102 土層断面実測図 ($S = \frac{1}{40}$)

思われ、出土状況からは方形区画の溝の存続期間にかかわる遺物群の抽出を行なうことはできない。

SD101は幅1.4~2.6m・深さ0.4~0.6m。断面は舟底状あるいは逆台形状をなす。立上がりは、方形区画の内側に向ってゆるく、外に向ってはきつく立上がる。埋土は4~5層に大別され、方形区画の内側から土が流れ込んだ状態を示す。多量の容器類を出土した。SD102は幅1.0~2.0m・深さ0.1~0.2m。断面は舟底状をなし、埋土は4層に大別される。西側において削平が激しく、AB-24区画付近で消失する。若干の容器類を出土した。SD103は幅0.7~1.0mで、きわめて浅く、埋土は暗褐色砂質土である。少数の容器類を出土したが、図示できるものはない。

方形区画 I の溝出土遺物 (Fig. 14)

25点を図示する。061~083はSD101出土、085・086はSD102出土である。器種は、土師器の小皿・坏、瓦器碗、青磁碗、白磁碗、土師質土器土鍋、須恵質土器甕・鉢、陶器甕・埴、石鍋

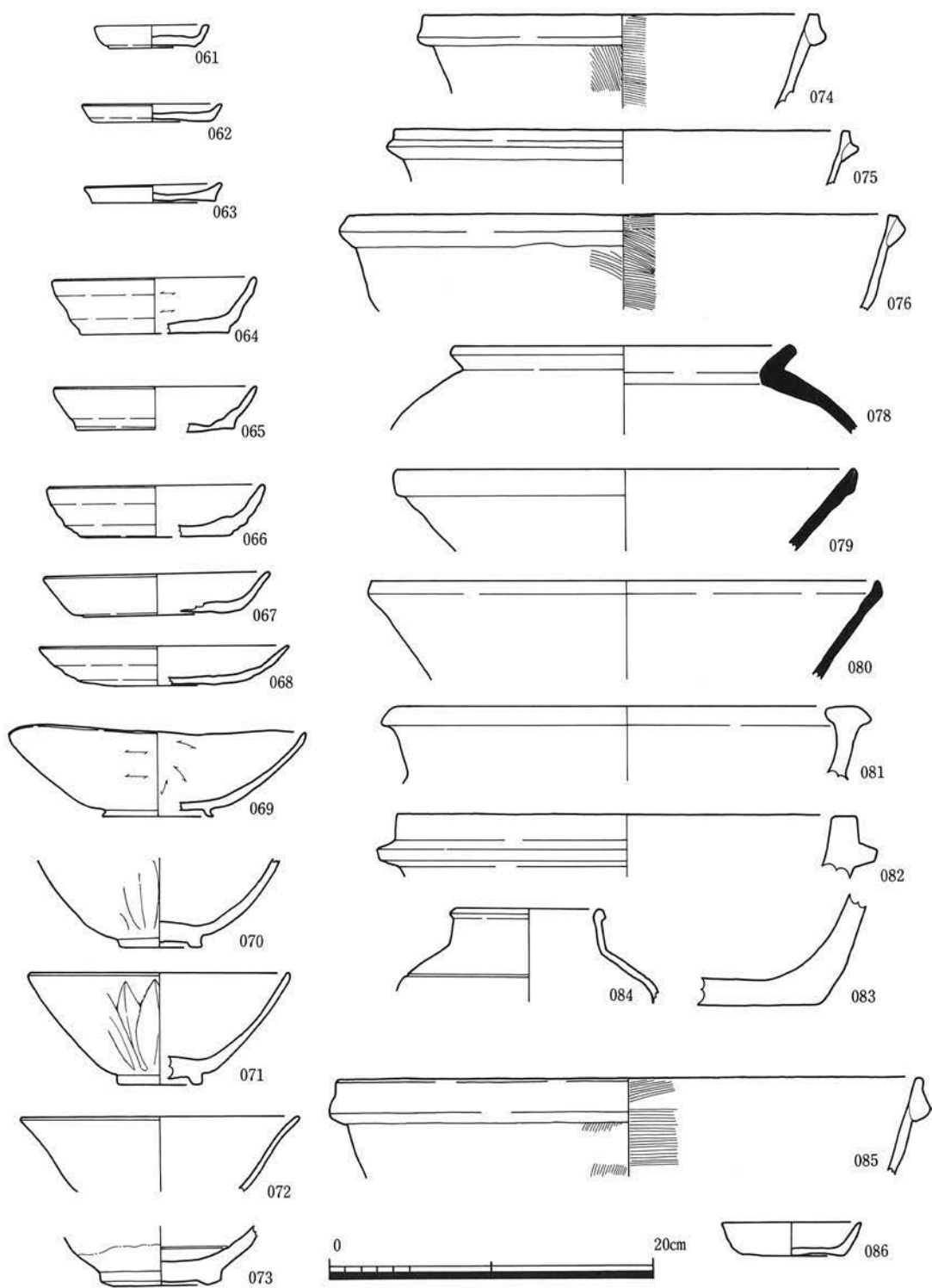


Fig.14 SD101・102 出土遺物実測図 (S = ¼)

である。

土師器小皿 (061・062・063・086)

4点ある。すべて底部外面は回転糸切り離し、体部内外面は回転ナデ調整である。061は、復元口径6.5cm・復元底径5.4cm・器高1.4cm。062は、復元口径8.2cm・復元底径7.0cm・器高1.1cm。底部内面は一定方向のナデ調整。063は、復元口径8.1cm・復元底径7.6cm・器高1.1cm。086は、復元口径8.3cm・復元底径5.0cm・器高2.1cm。底部外面に板状圧痕がある。

土師器坏 (064・065・066・067・068)

5点ある。064・065・066は、底部外面回転糸切り離し。064は、復元口径12.2cm・復元底径9.0cm・器高3.4cm。体部外面は回転ナデ調整、内面はヘラミガキ。067は、復元口径12.3cm・復元底径9.7cm・器高2.8cm。体部内外面回転ナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。068は、復元口径15.0cm・器高2.4cm。体部内外面回転ナデ調整、底部外面は回転ヘラ切り離しの後ナデ調整。

瓦器碗 (069)

口縁付近がやや歪む。復元口径18.0cm・器高5.2cm。体部内外面はやや雑なミガキ調整。

青磁碗 (070・071)

どちらも、ややくすんだ色調の灰緑色を呈する。胎土は白青灰色。内外面ともに細かい貫入を有し、体部外面に蓮弁文を施す。071は復元口径15.8cm・器高6.9cm。

白磁碗 (072・073)

072は復元口径17.0cm。淡白灰色を呈し、口縁端部に釉のカキトリが認められる。073は、淡白灰色を呈し、外面下半は露胎する。内面に一条の沈線がまわる。

土師質土器土鍋 (074・075・076・085)

どれも、口縁端部は平坦で、口縁外面を粘土帯で肥厚させ、体部上半は直線的に内下方にのびる。075以外は、内面は横～斜方向、外面は斜方向の目の細かいハケ目調整である。074・085では、ハケ目調整が施された後に、粘土帯が貼り付けられたことが観察できる。074は復元口径24.0cm。口縁下端を肥厚させる。075はハケ目調整をていねいにナデ消してある。復元口径27.8cm。口縁やや下端で三角突帯状に粘土帯を貼りつける。076は復元口径32.5cm。突帯状に粘土帯を貼りつける。085は復元口径35.4cm。口縁下端を肥厚させる。

須恵質土器甕 (078)

復元口径20.5cm。焼成が悪くもろい。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は格子状のタキ目、内面はナデ調整。

須恵質土器鉢 (079・080)

079は復元口径28.0cm。口縁は直線状に外方に開き、口縁下端を粘土帯で肥厚させている。080は復元口径31.0cm。口縁端部を折り曲げ、内方に屈曲させている。

陶器甕 (082)

外面に釉を施し、暗赤褐色を呈する。内外面ともに横ナデ調整。復元口径27.2cm

陶器埴 (084)

焼成良好で非常に硬質で、外面は灰をかぶっている。体部上半に一条の沈線をまわす。復元口径8.7cm。内外面ともに回転ナデ調整。

石鍋 (082・083)

21は口縁部破片。滑石製で石質良好。復元口径28.0cm。23は底部破片。外面全面に煤が付着している。

方形区画IIの溝 (Fig. 15・16)

SD104に、SD112・SD117・SD118が対応し、南北長約30～60m・東西長50～60mの南側で狭くなる方形区画を形成するものと考えられる。底部は西側で低くなる。SD112以南の県教委の調査区では、方形区画に対応する溝は検出されていない。方形区画Iと同じく、遺物の出土状況は埋土の流入とともに混入したか投棄されたものと思われ、方形区画の溝の存続期間にあたる遺物群の抽出を行なうことはできない。

SD104は幅1.0～2.3m・深さ0.4～0.6m。断面形は逆台形状をなす。埋土は3～5層に大別される。立上がりは方形区画の内側に向ってゆるく、外に向ってきつく立上がる。AD-20・AE-20区画で青白磁・土師器・石鍋などの容器類がまとまって出土した。SD112は幅1.5～2.5m・深さ0.5～0.7m。埋土は4～5層に大別され、断面形はゆるい逆台形状をなす。若干の土師器類・磁器類が出土したが、図示できるものはない。SD117は幅1.3～1.8m・深さ0.2～0.4m。埋土は2に大別され、断面形はゆるい逆台形状をなす。少量の容器類が出土した。SD118は幅1.6～2.1m・深さ0.4～0.6m。埋土は2層に大別され、断面形は舟底状をなす。容器類が若干出土した。

方形区画IIの溝出土遺物 (Fig. 17)

24点を図示する。087～107は SD104、

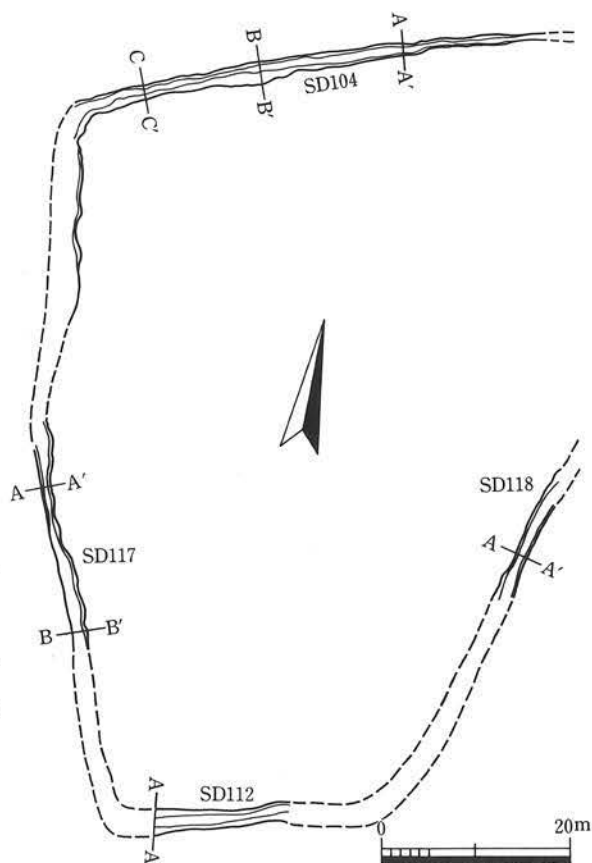


Fig. 15 方形区画II実測図 (S = 1/800)

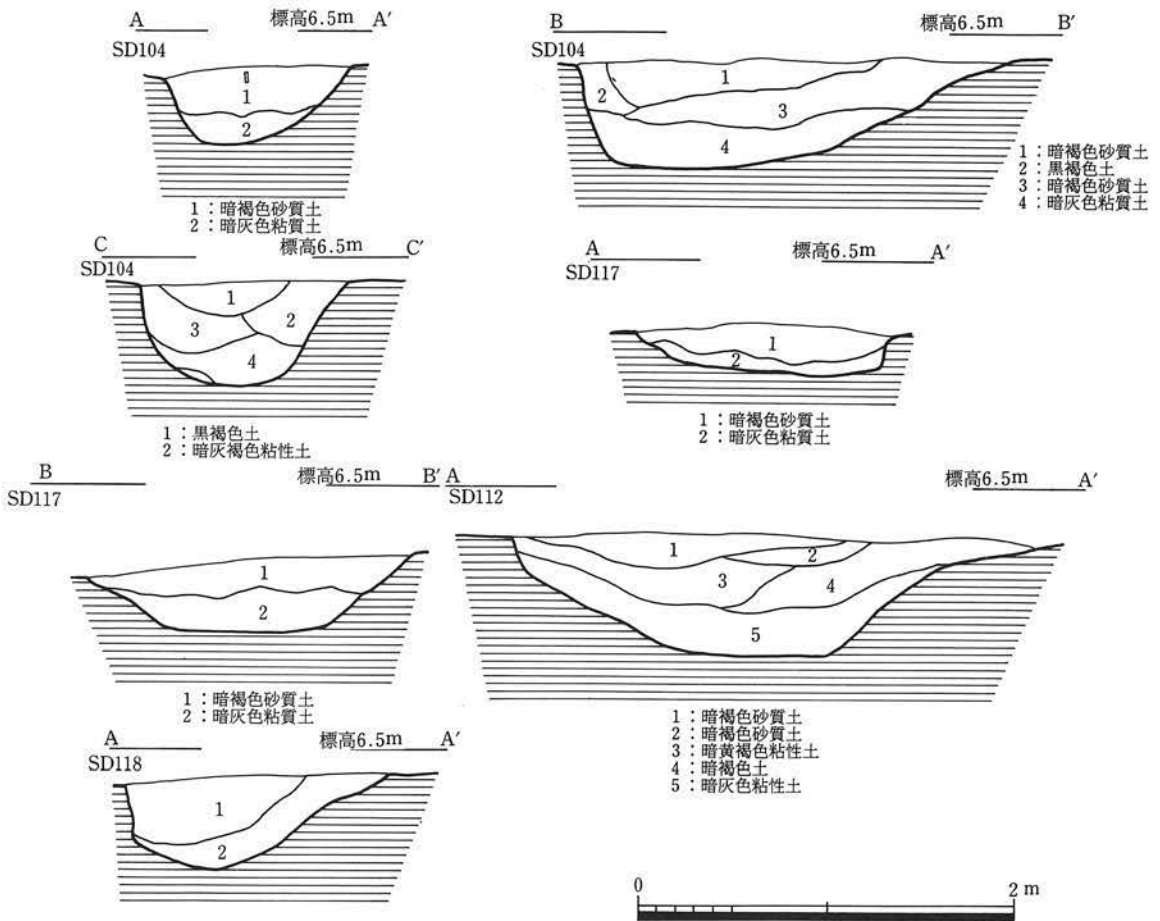


Fig. 16 SD104・SD117・SD112・SD118 土層断面実測図 ($S = \frac{1}{40}$)

114はSD117、115～117はSD118より出土した。器種は、土師器の小皿、瓦器碗、白磁小皿、青磁碗、土師質土器の土鍋・鉢、須恵質土器の鉢・甕、陶器の壺、石鍋である。

土師器小皿 (087・089)

087・089ともに、回転糸切り離しで、体部内外面は横ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整、底部外面は板状圧痕が残る。087は、復元口径9.8cm・復元底径8.4cm・器高1.3cm。089は、復元口径9.4cm・復元底径7.4cm・器高1.5cm。

瓦器碗 (115)

復元口径14.7cm。口縁端部は丸く、やや外方に屈曲する。内外面ともにヘラミガキ調整。口縁部内外面に環状黒班が認められる。

白磁小皿 (090・091)

090・091ともに淡白灰色で、部分的に黄色がかかる。090は、復元口径10.9cm・復元底径6.0cm・器高2.8cm。口縁部に釉のカキトリが認められる。091は、復元口径11.2cm。

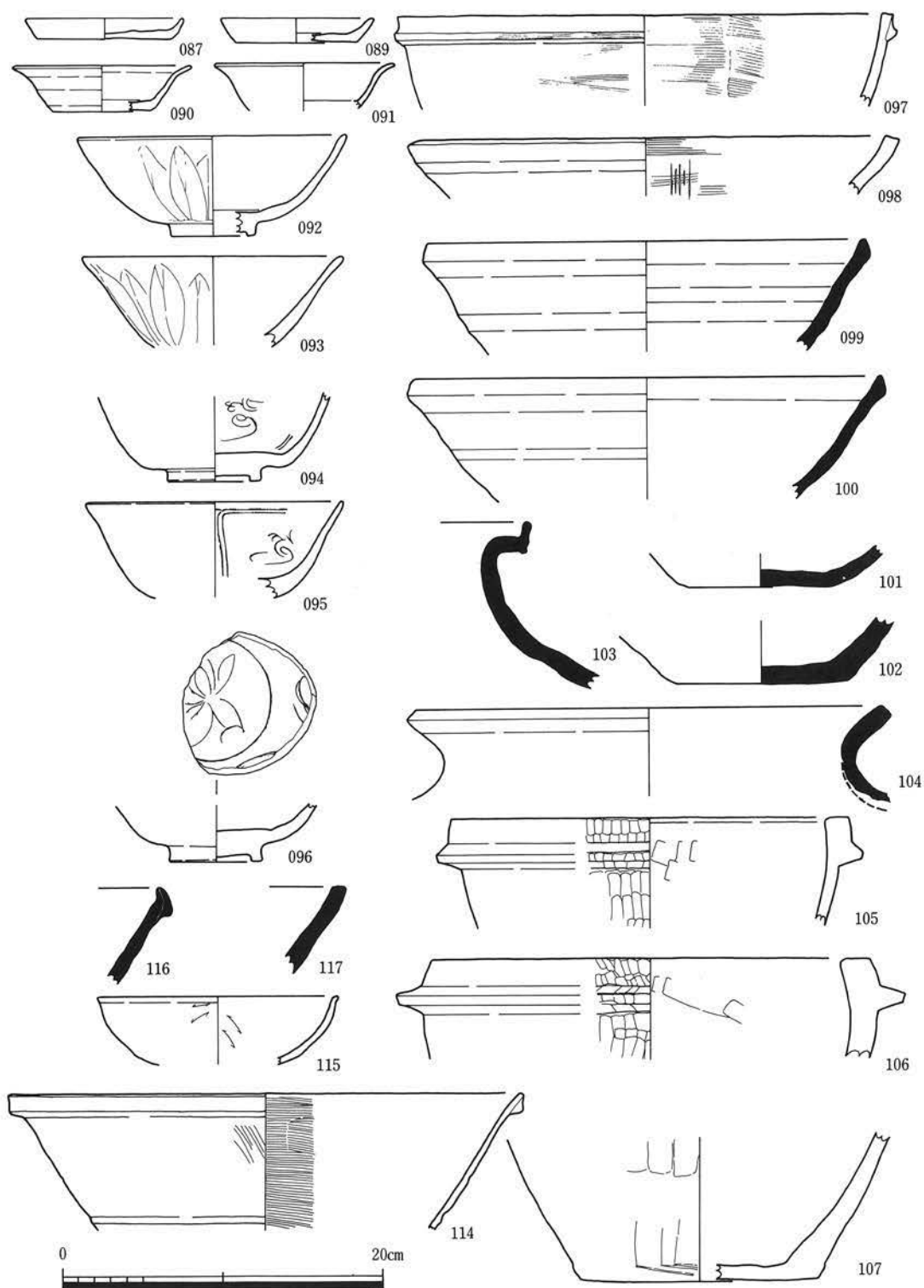


Fig. 17 SD104・117・118 出土遺物実測図 (S = ¼)

青磁碗 (092・093・094・095・096)

092・093は体部外面に蓮弁文を、094・095は体部内面に飛雲文を有する。096は底部内面に草花文を持つ。092は復元口径16.0cm・器高6.2cm、黄緑灰色を呈する。093は復元口径16.0cm、緑灰色を呈する。094は黄緑灰色を呈する。095は復元口径16.0cm、緑灰色を呈する。外面にまばらな貫入が入る。096は緑灰色を呈し、内面にまばらな貫入が入る。

土師質土器土鍋 (097・114)

097・114とも、口縁部外面に粘土帯を貼りつけて肥厚させている。097は復元口径30.6cm。口縁端部を横ナデでややくぼませている。口縁部外面の粘土帯を、下端で突帯状に仕上げている。口縁端部と口縁外面は横ナデ調整。体部内外面ともに、横方向の目の細かいハケ目調整で、部分的にナデ消す。突帯上面にも一部にハケ目が入る。114は復元口径31.6cm。器壁は薄く、体部中位に沈線状の段を持つ。口縁部外面は横ナデ調整。体部外面は斜方向の粗いハケ目をナデ消す。内面は目の細かい横方向のハケ目調整。

土師質土器鉢 (098)

小破片で確実な復元はできないが鉢であると思われる。復元口径28.8cm。口縁端部は平坦に仕上げる。口縁部内外面は横ナデ調整。外面はナデ調整。内面は、横方向の目の細かいハケ目の後に、部分的に目の粗いハケ目を縦方向に加える。

須恵質土器鉢 (099・100・101・102・116・117)

099・100・116・117は口縁部破片。口縁端部を、丸く仕上げ内方に屈曲させるもの(099・100・116)と平坦に仕上げ直におろすもの(117)がある。いずれも内外面ともに横ナデ調整。099は復元口径27.0cm。100は復元口径29.0cm。116は、口縁外面に粘土帯を貼りつけ、肥厚させている。101・102は鉢の底部と思われる。ともに、体部内外面・底部内面はナデ調整。底部外面はヘラ状工具で削りを加えている。101は底径8.6cm。102は底径10.5cm。

須恵質土器甕 (103・104)

103は常滑焼系のものかと思われる。内外面とも横ナデ調整で、頸部内面下位はヘラ状工具でカキトリを加えている。口縁内面と頸部外面は灰かぶり自然釉。104は復元口径28.8cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は格子状タタキ目。内面は器表面の剝落により調整不明。

陶器壺 (107)

復元底径14.8cm。内面は灰かぶり自然釉。外面には板状工具によるカキトリが認められる。

石鍋 (105・106)

ともに、良質の滑石を用い、表面をていねいに削って仕上げてある。105は、復元口径24.6cmで、外面に煤が付着する。106は復元口径26.2cm。

(2) 掘立柱建物と出土遺物

方形区画Ⅰの内部に3棟(Ⅰ群)、方形区画Ⅱの内部に16棟(Ⅱ群)の掘立柱建物を検出し

た。II群はさらに建物の集中から、北西のII a群、北東のII b群、東方のII c群、中央のII d群に分類できる。どの建物も方形区画の溝とは重複・切り合い関係はない。東西棟建物と南北棟建物が混在し、重複する場合もある。各建物の主軸の方位角には若干の差が認められる。

SB024掘立柱建物 (Fig. 18)

AE-30・31、AF-30・31区画に検出したI群に属する建物である。他の遺構と重複・切り合い関係はない。北側で削平を受けさらに調査区外に延びる為にその全形は不明だが、梁行2間・桁行3間以上の南北棟建物と思われる。主軸をN-16°0'-Wにとる。柱穴掘り方はほぼ円形で径0.2~0.4m。6個の柱穴のうち3個の柱穴は二段掘りされている。柱間は図示したとおり。

SB150掘立柱建物 (Fig. 18)

AF-24・25、AG-24・25区画に検出したI群に属する建物である。SB151と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-15°0'-Wにとる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2~0.3mを計る。

SB151掘立柱建物 (Fig. 18)

AG-24・25、AH-24・25区画に検出したI群に属する建物である。SB150と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-15°30'-Wにとり、SB150よりやや西に振れる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2~0.4mを計る。

SB 掘立柱建物 (Fig. 19)

AD・AE-19区画に検出したII a群に属する建物である。他の遺構と重複・切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-7°0'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3~0.5mを計る。6個の柱穴のうち3個は二段掘りされている。

SB153掘立柱建物 (Fig. 22)

AD-17・18、AE-17・18区画に検出したII a群に属する建物である。SE193と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-17°30'-Wにとる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3~0.5mを計る。柱穴掘り方から若干の土器片が出土している。

SB153出土遺物 (Fig. 20-203)

図示できるものに、須恵質土器鉢の底部破片がある。平丸底で、体部外面はナデ調整、内面は横ナデ調整。底部内外面ナデ調整。

SB154掘立柱建物 (Fig. 23)

AE-17・18、AF-17・18、AG-17・18区画に検出したII a群に属する建物である。SK004・SK005と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-1°20'-Wにと

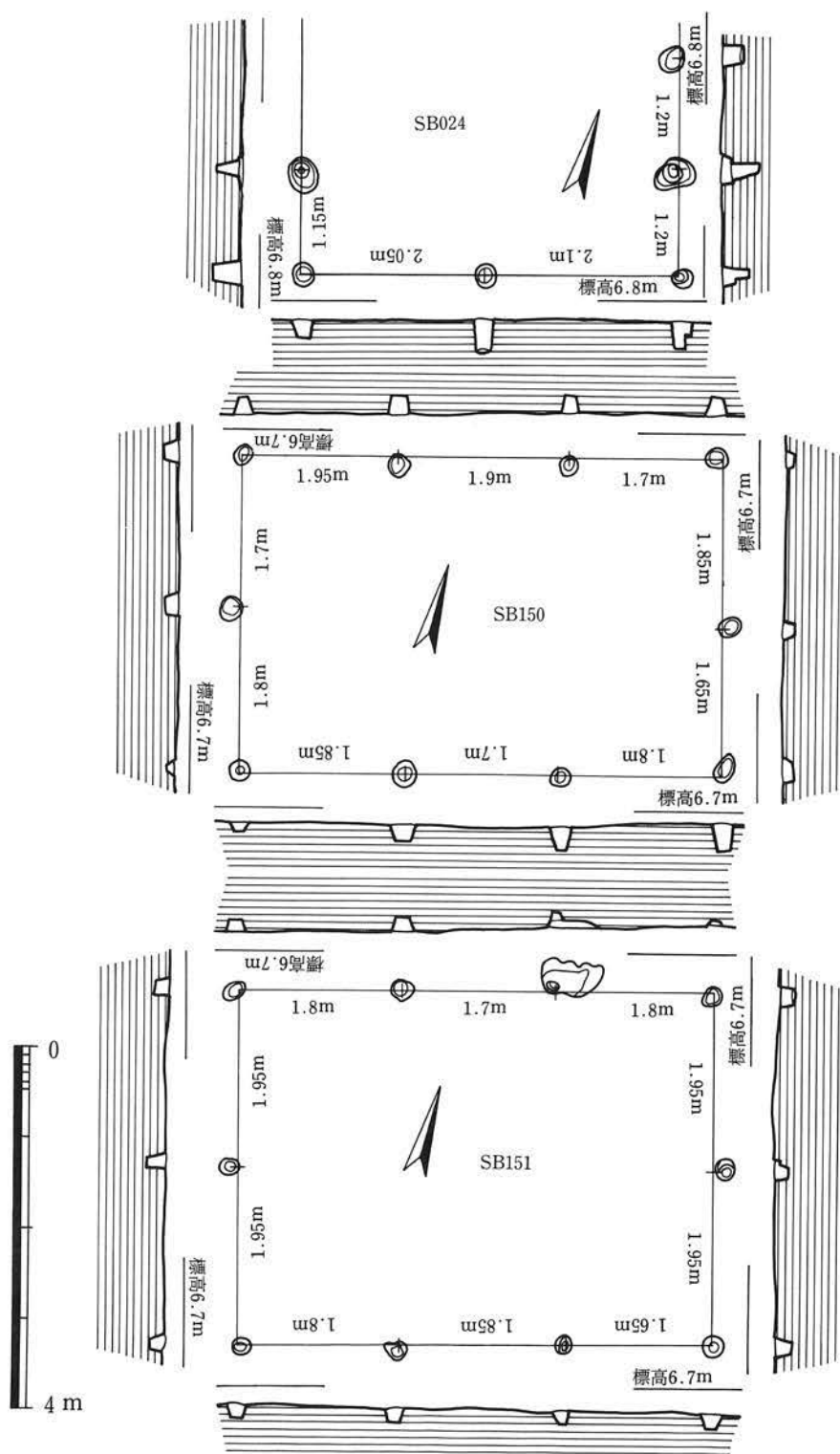


Fig. 18 SB024・SB150・SB151 実測図 (S = $\frac{1}{80}$)

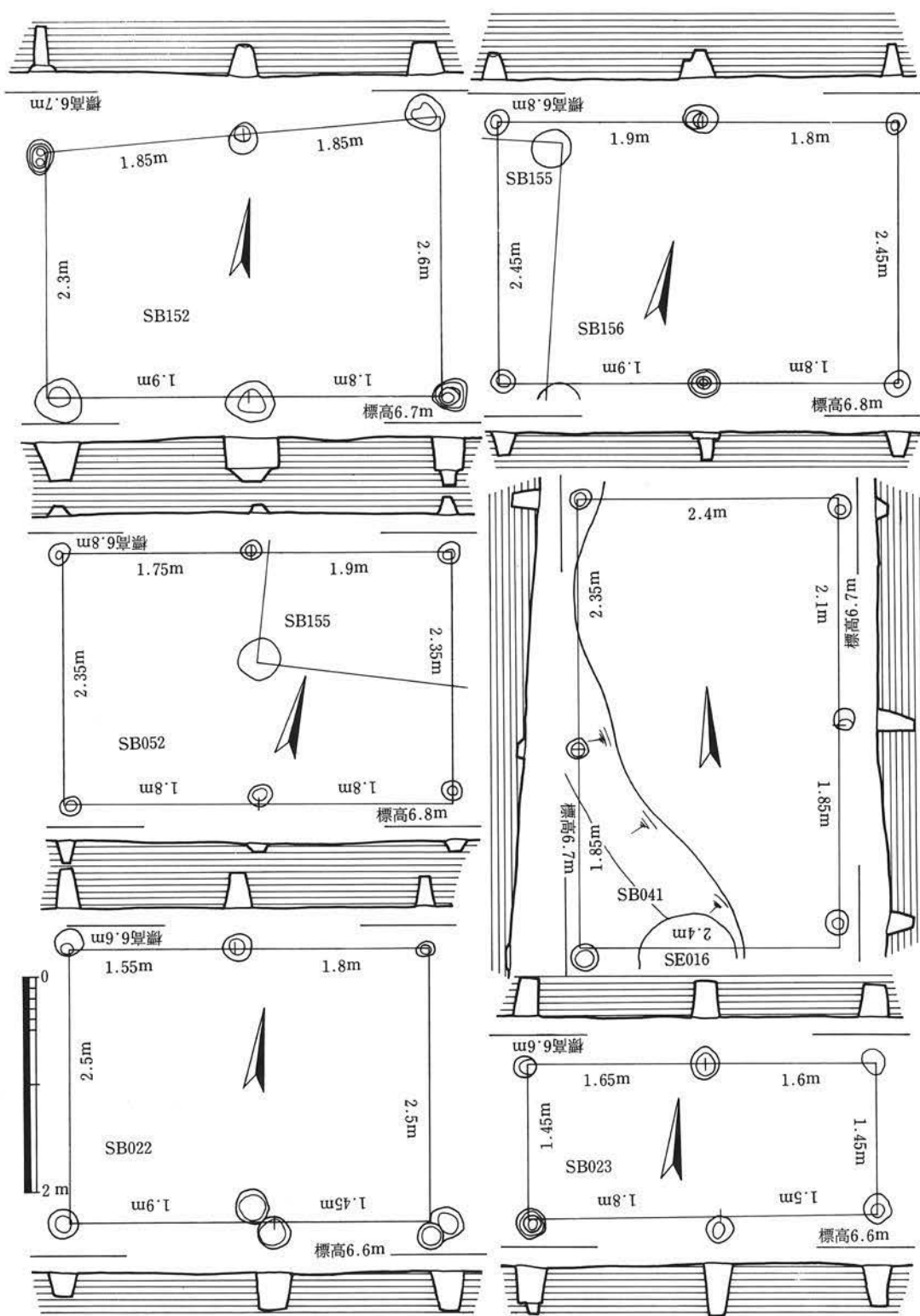


Fig. 19 SB152・SB156・SB052・SB041・SB022・SB023 実測図 ($S = \frac{1}{60}$)

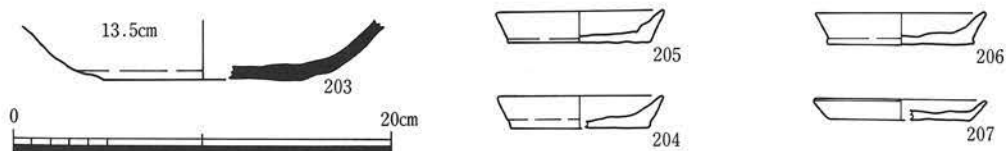


Fig. 20 掘立柱建物出土遺物実測図 (S = 1/4)

る。身舎は桁行4間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3~0.5mを計る。柱穴掘り方から土師器の小皿が出土している。

SB154出土遺物 (Fig. 20-204・205・206)

図示できる土師器の小皿が3点ある。204は復元口径8.5cm・復元底径7.3cm・器高1.8cm。205はほぼ完形で、口径8.7cm・底径7.7cm・器高1.7cm。206は復元口径8.8cm・復元底径7.8cm・器高1.8cm。いずれも、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整、底部外面は板状圧痕。205には回転糸切り痕が残る。

SB152掘立柱建物 (Fig. 19)

AI-18・19区画に検出したII b群に属する建物である。SB155と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-15°0'-Wにとり、SB155より西に振れる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2mを計る。

SB156掘立柱建物 (Fig. 19)

AI-19・20、AJ-19・20区画に検出したII b群に属する建物である。SB155・SR164と重複するが、直接の切り合い関係にはない。東西棟建物で、主軸をN-12°30'-Wにとり、SB155より西に振れる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2~0.3mを計る。6個の柱穴のうち1個は二段掘りされている。

SB155掘立柱建物 (Fig. 23)

AI-19・20、AJ-19・20、AK-19区画に検出したII b群に属する建物である。SB052・156・SK165・SR164と重複関係にあるが、SR164以外とは先後関係は不明である。SR164とは柱穴が直接切り合い、SB155が後出する。東西棟建物で、主軸をN-8°30'-Wにとる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3~0.5mを計る。柱穴掘り方から土師器の小皿が出土している。

SB155出土遺物 (Fig. 20-207)

復元口径9.0cm・復元底径7.4cm・器高1.2cm。体部内外面は回転ナデ調整。底部内面は一定方向のナデ調整、外面には回転糸切り痕が残る。

SB020掘立柱建物 (Fig. 22)

AK-14・15、AL-14・15区画に検出したII c群に属する建物である。SE009・SK173・179と重複するが、直接の切り合い関係にはない。南北棟建物で、主軸をN-10°30'-Wにとる。身舎は

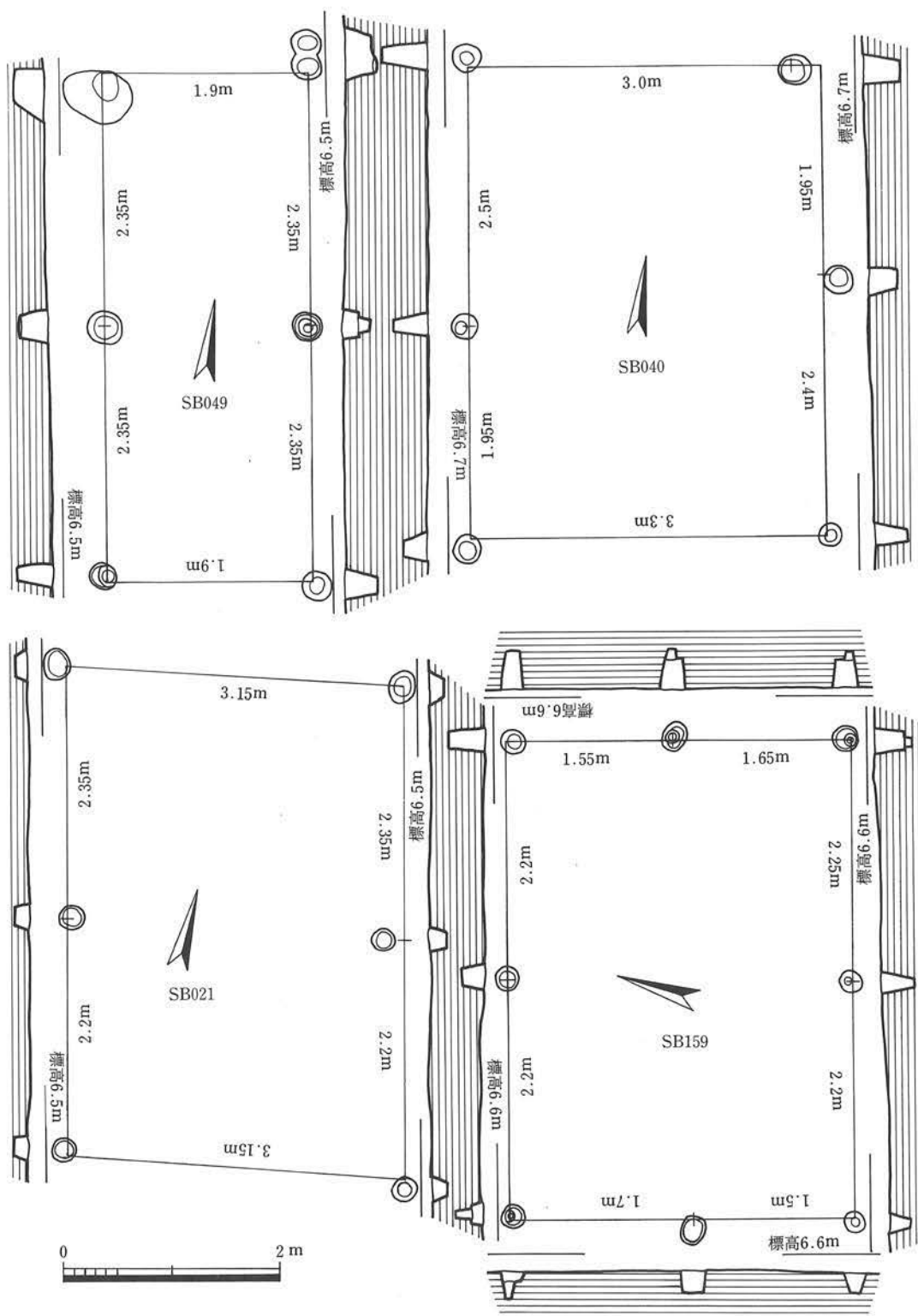


Fig. 21 SB049・SB040・SB021・SB159 実測図 ($S = \frac{1}{50}$)

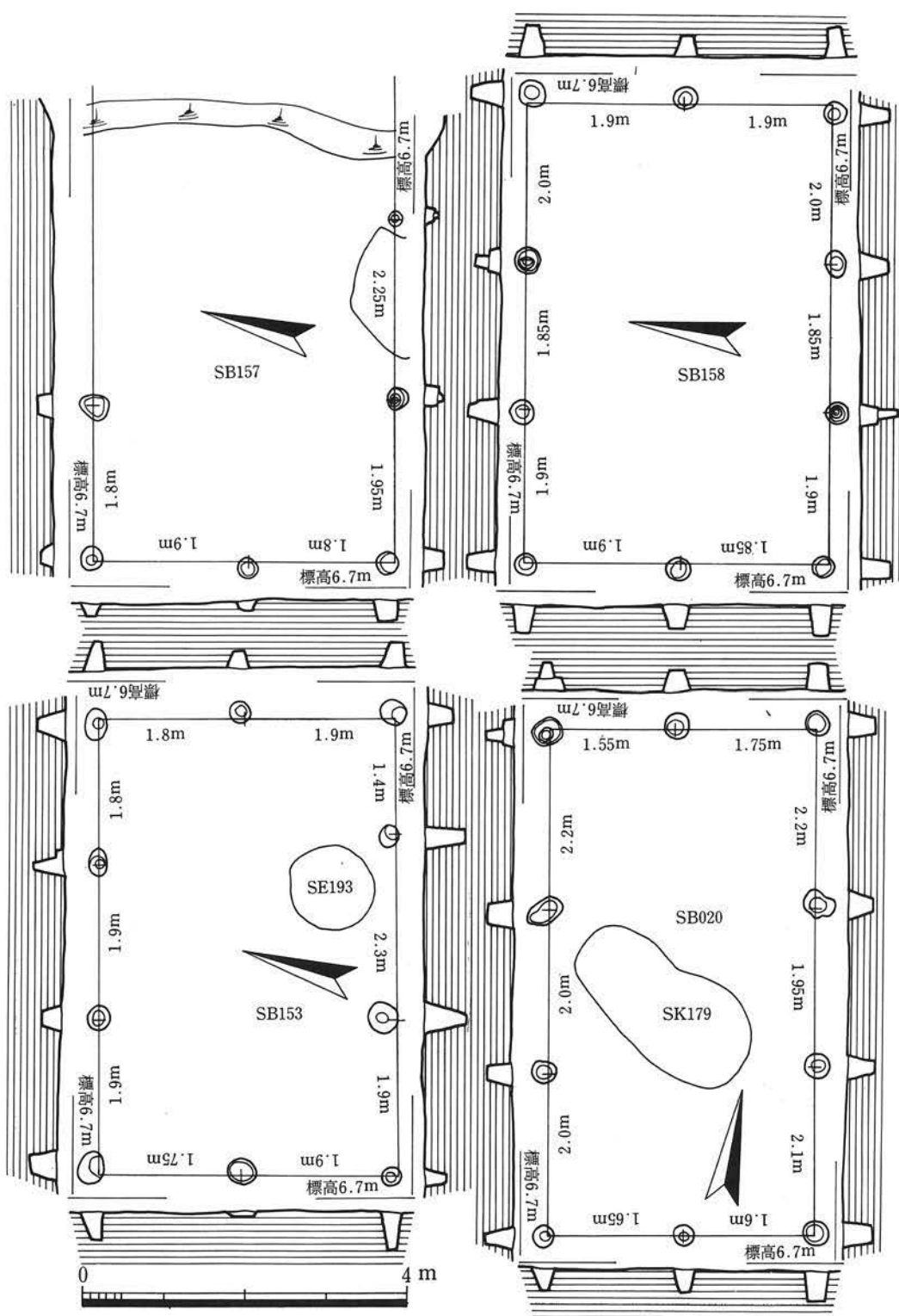


Fig. 22 SB157・SB158・SB153・SB020 実測図 ($S = \frac{1}{80}$)

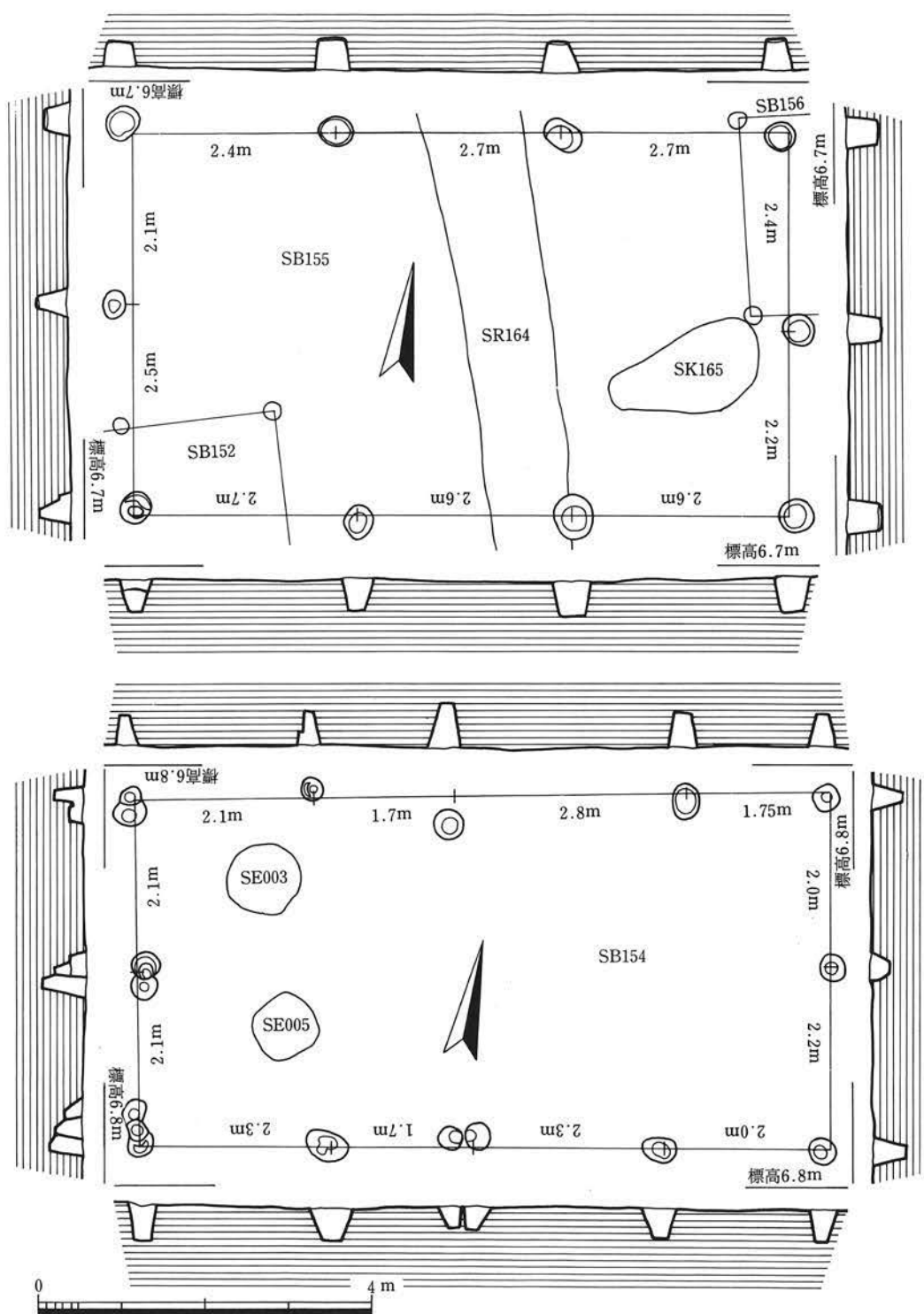


Fig. 23 SB155・SB154 実測図 ($S = 1/80$)

桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3～0.4mを計る。10個の柱穴のうち1個は二段掘りされている。

SB040掘立柱建物 (Fig. 21)

AK-13・14区画に検出したII c群に属する建物である。他の遺構とは重複・切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN-7°0'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2～0.3mを計る。

SB158掘立柱建物 (Fig. 22)

AL-12・13・14区画に検出したII c群に属する建物である。他の遺構とは重複・切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN-8°0'-Wにとる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.25～0.35mを計る。10個の柱穴のうち2個は二段掘りされている。

SB159掘立柱建物 (Fig. 21)

AL-11・12、AM-11・12区画に検出したII c群に属する建物である。他の遺構とは重複・切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN-18°0'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2～0.3mを計る。8個の柱穴のうち3個は二段掘りされている。

SB021掘立柱建物 (Fig. 21)

AF-11・12、AG-11・12区画に検出したII d群に属する建物である。他の遺構とは重複・切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN-14°0'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2～0.3mを計る。

SB022掘立柱建物 (Fig. 19)

AH-7・8、AI-7・8区画に検出したII d群に属する建物である。他の遺構とは重複・切り合い関係はない。東西棟建物で、主軸をN-8°30'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2～0.3mを計る。

SB023掘立柱建物 (Fig. 19)

AH-7、AI-7区画に検出したII d群に属する建物である。SD110に近接し、他の遺構との重複関係はない。東西棟建物で、主軸をN-5°30'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.25～0.3mを計る。

SB041掘立柱建物 (Fig. 19)

AI-11・12、AJ-11・12区画に検出したII d群に属する建物である。SE016と重複関係にあるが直接の切り合い関係はない。南北棟建物で主軸をN-6°30'-Eにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2～0.25mを計る。

SB049掘立柱建物 (Fig. 21)

AH-9・10区画に検出したII d群に属する建物である。SE108に近接し、他の遺構とは重複関係はない。南北棟建物で、主軸をN-9°0'-Wにとる。身舎は桁行2間・梁行1間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.3~0.6mを計る。6個の柱穴のうち1個は二段掘りされている。

SB157掘立柱建物 (Fig. 22)

AG-13・14、AH-13・14区画に検出したII d群に属する建物である。東側は削平されていて、全形は不明である。SE008とは柱穴が直接の切り合い関係にある。南北棟建物で、主軸をN-14°0'-Wにとる。身舎は桁行3間以上・梁行2間になるものと考えられるが、北側の桁行であるべき柱穴のひとつが検出されていない。柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.2~0.3mを計る。検出された6個の柱穴のうち2個は二段掘りされている。

(3) 井戸と出土遺物

平面形が円形に近いもので、底が深いあるいは断面が二段掘りの形状をなし、下部で湧水するものを井戸として分類した。紙数の制限で9基について報告する。

SE001井戸 (Fig. 24)

AI-18区画に検出した。長径1.6m・短径1.2m・深さ1.2m以上で、不整楕円形の平面形をな

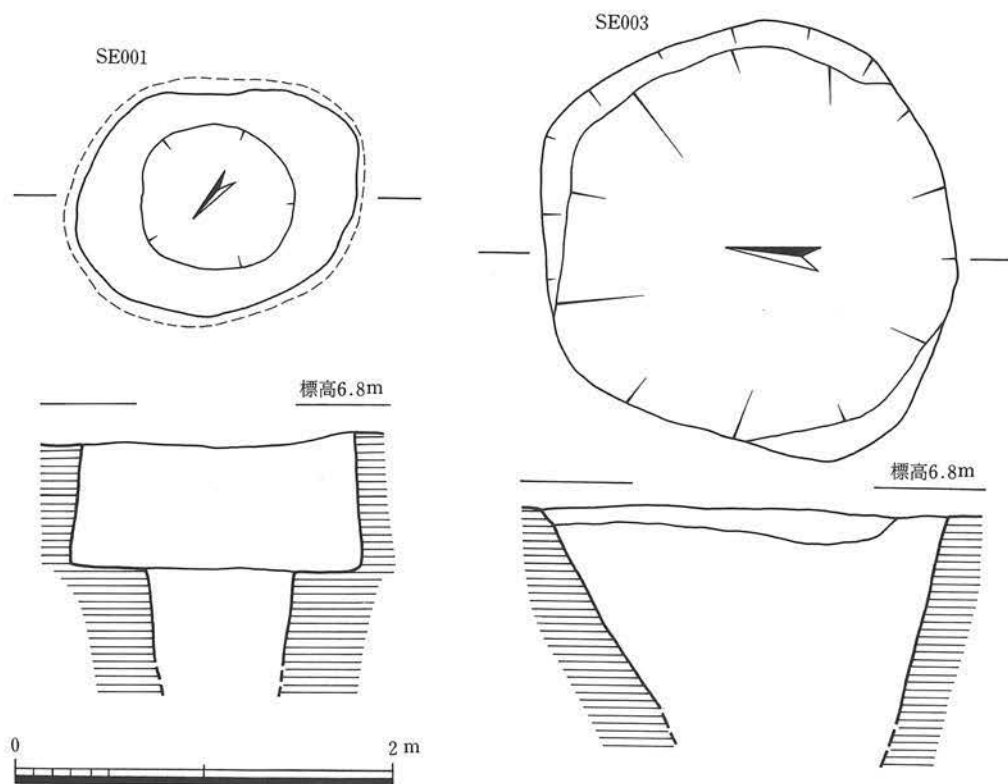


Fig. 24 SE001・003 実測図 (S = 1/40)

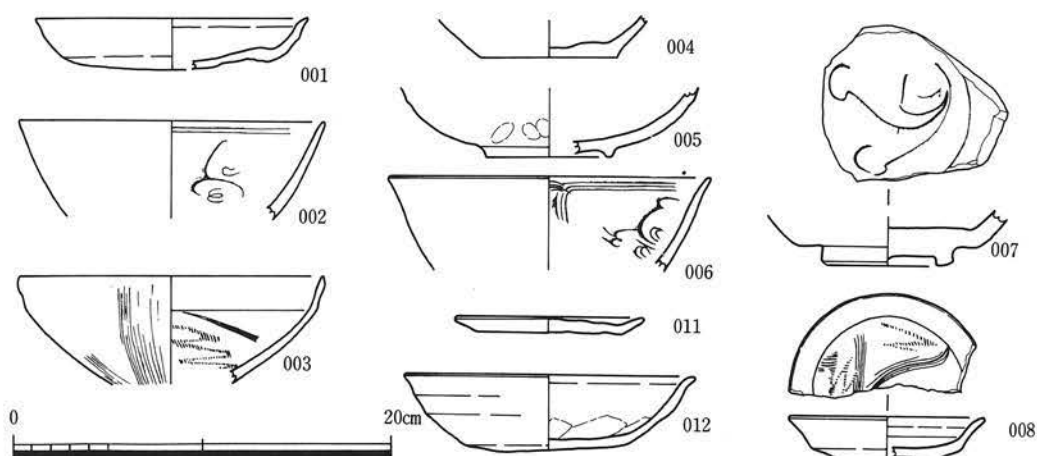


Fig. 25 SE001・003・006 出土遺物実測図 (S=1/4)

す。断面は二段掘りの形状を示す。上部の壁面は、やや下方でえぐれている。埋土は褐色系の有機質土で、上部より若干の容器類が出土した。湧水の為に完掘できなかった。

SE001出土遺物 (Fig. 25-001・002・003)

図示できるものが3点ある。001は土師器で、002・003は青磁。001は復元口径14.2cm・復元底径11.5cm。体部内外面は回転ナデ調整。底部内面ナデ調整、外面には板状圧痕が残る。002は復元口径16.0cm。体部内面に飛雲文を施す。緑灰色を呈し、内外面に貫入が入る。003は復元口径16.0cm。体部内外面に櫛状の工具で文様を施す。

SE003井戸 (Fig. 24)

AJ-18区画に検出した。径2.2m・深さ1.2m以上で、ほぼ円形の平面形をなす。湧水の為に完掘できなかったが、断面形は円錐形ではないかと思われる。埋土は、上部は褐色系の有機質土で、下部は黄褐色系で砂が混じる。上部から若干の容器類が出土した。

SE003出土遺物 (Fig. 25-004・005・006・007・008)

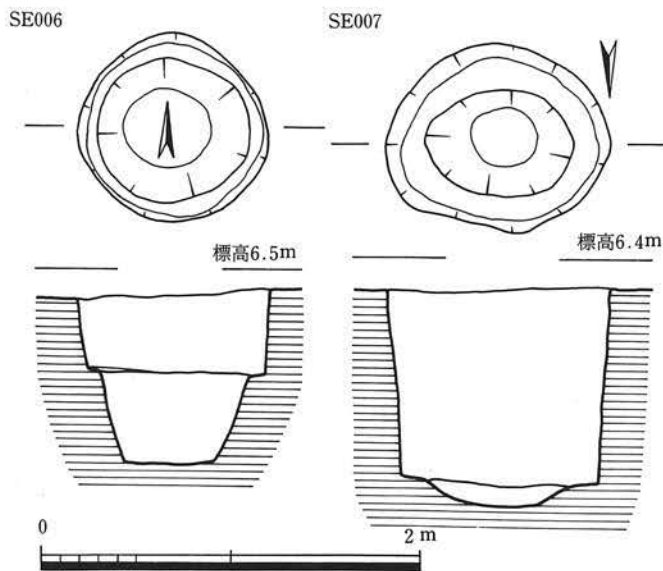
5点が図示できる。004は土師器、005は瓦器、006・007・008は青磁である。004は底径7.2cm。体部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整、外面は回転糸切りの痕跡が残る。005は体部外面はミガキの後に指頭押圧を加える。内面はミガキの後で一部にナデを加える。006は復元口径16.8cm。体部内面に、櫛状工具による沈線で区画を施し、その中に飛雲文を配する。黄緑灰色を呈し、細かい貫入が入る。007は、黄緑灰色を呈し、底部内面見込部分に櫛状工具による文様を施す。高台端部から内面にかけて露胎している。008は復元口径10.4cm・復元底径5.3cm・器高2.3cm。黄緑灰色を呈し、底部内面見込部文に櫛状工具による文様を施す。

SE006井戸 (Fig. 26)

AE-14区画に検出した。径1m・深さ1mで、ほぼ円形の平面形をなす。断面形は二段掘りの形状を示し、埋土は暗褐色系の有機質土で上部より少数の容器類が出土した。

SE006出土遺物 (Fig. 25-011・012)

2点図示できる。ともに土師器である。011は口径9.8cm・底径7.6cm・器高0.9cm。体部内外面は回転ナデ調整。底部内外面ナデ調整。012は口径15.1cm・底径8.6cm・器高4.0cm。体部内外面は回転ナデ調整。底部内面は板状工具によるミガキ調整で、いわゆる「こてあて痕」である。底部外面はナデ調整。



SE007井戸 (Fig. 26)

AD・AE-13区画に検出した。長径1.2m・短径0.9m・深さ1.2mで、短楕円形の平面形をなす。壁はきつく立ち上がり、断面形は逆台形状をなす。埋土は暗褐色系で、底部近くから瓦器・土師器が多量に出土した。どれも完形に近く、一括投棄されたものと思われるが、湧水が激しく、出土状況を記録することができなかった。

Fig. 26 SE006・007 実測図 (S = 1/40)

SE007出土遺物 (Fig. 27)

下部において出土した一括資料と思われる遺物群が25点が図示できる。器種は土師器小皿・坏、瓦器碗、土師質土器土器鉢、石製品である。

土師器小皿 (013・014・015・016)

どれも、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向のナデ調整、底部外面は回転糸切りの痕跡を残す。013は完存品で、口径8.7cm・底径6.7cm・器高1.3cm。014は復元口径8.8cm・復元底径6.8cm・器高1.4cm。015は口径9.1cm・底径7.0cm・器高1.8cm。016は復元口径9.2cm・復元底径7.7cm・器高1.3cm。

土師器坏 (017・018・019)

017は完存品で、口径15.1cm・底径10.1cm・器高3.4cm。体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は一定方向のナデ調整、底部外面は回転糸切りの痕跡を残す。018は復元口径15.5cm・復元底径10.7cm・器高3.2cm。体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は一定方向のナデ調整、底部外面は回転糸切りの痕跡を残す。019はほぼ完形で、口径16.0cm・器高4.3cm。内面はヘラミガキ調整、体部外面は回転ナデ調整、底部外面は回転ヘラ切り後ナデツケ。

瓦器小皿 (020・021・022)

どれも、内面と体部外面はヘラミガキ調整で、黒色を呈し光沢がある。020はほぼ完形で、口

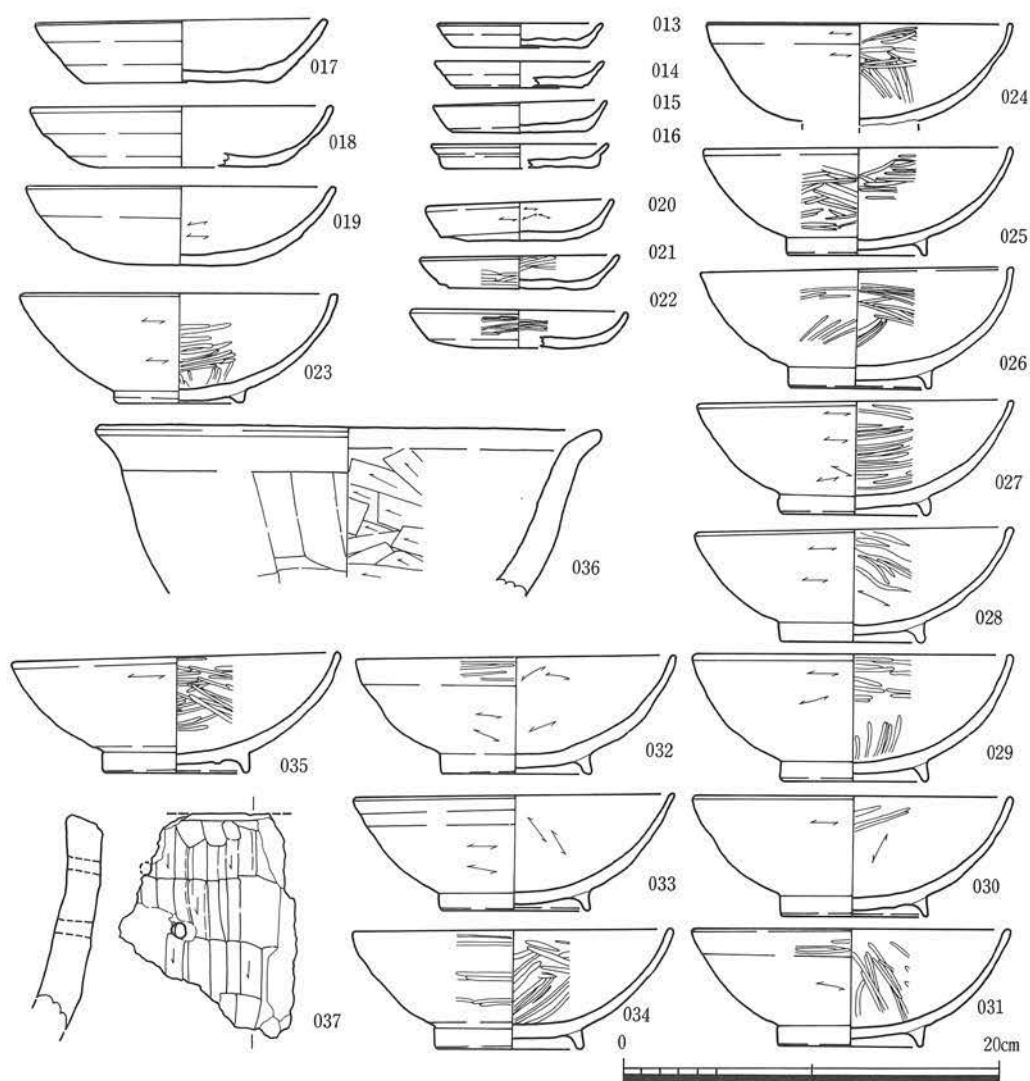


Fig. 27 SE007 出土遺物実測図 (S = 1/4)

径9.5cm・底径8.4cm・器高2.1cm。底部外面に回転糸切りの痕跡が残る。021は完存で、口径10.3cm・底径7.9cm・器高1.9cm。底部外面は回転糸切りの後一部にミガキが入る。022は復元口径11.2cm。底部外面は回転ヘラ切りの痕跡が残る。

瓦器碗 (023・024・025・026・027・028・029・030・031・032・033・035)

どれも、完存・完形あるいは完形にごく近いもので、内外面はていねいなヘラミガキ調整で、025以外は外面上位に回転ヘラミガキを加えている。023以外は黒色か黒灰色を呈し光沢を有する。023は口径16.2cm・器高5.8cm。光沢のある明黄褐色を呈している。024は口径16.0cm・器高4.5cm。025は口径16.0cm・器高5.8cm。026は完形で、口径16.3cm・器高6.5cm。027は完存で、口径16.4cm・器高6.1cm。028は口径16.4cm・器高6.2cm。029は口径16.8cm・器高6.8cm。030は

口径16.6cm・器高6.4cm。031は口径16.5cm・器高6.3cm。032は完存で、口径16.6cm・器高6.3cm。033は完存で、口径16.8cm・器高6.2cm。034は完存で、口径16.8cm・器高6.4cm。035は口径17.0cm・器高6.4cm。

土師質土器鉢 (036)

復元口径26.4cm。口縁部内外面横ナデ調整。体部外面は、上位を縦方向に下位を横方向に、板状工具を用いてナデのような調整を加えてある。体部内面は斜方向の削りを加える。

石製品 (037)

滑石製で、石鍋を転用したものらしく、口縁部分は生きている。機能・用途ともに不明。

SE120井戸 (Fig. 28)

AH-31区画に検出した。長径0.95m・短径0.75m・深さ0.75mで、不整楕円形の平面形をなす。壁はややえぐれ気味である。埋土は褐色系の有機質土で、容器類が少数出土した。

SE120出土遺物 (Fig. 29-120・121・122・124)

4点が図示できる。120は土師器、他は瓦器である。120は復元口径6.4cm。内外面ともに回転ナデ調整。121は復元口径16.0cm・器高5.0cm。内外面ヘラミガキ調整。122は完形で、口径16.4cm・器高5.8cm。内外面ヘラミガキ調整。124は復元口径17.0cm・器高6.6cm。内外面ヘラミガキ調整で、体部外面下位に指頭による押圧が認められる。

SE121井戸 (Fig. 28)

AH-30区画に検出した。長径1.5m・短径1.1m・深さ1.2mで、短楕円形の平面形を示す。断面形は逆台形状をなす。下端線が不整形で、壁が西側ではゆるく東側ではえぐれ気味にきつく

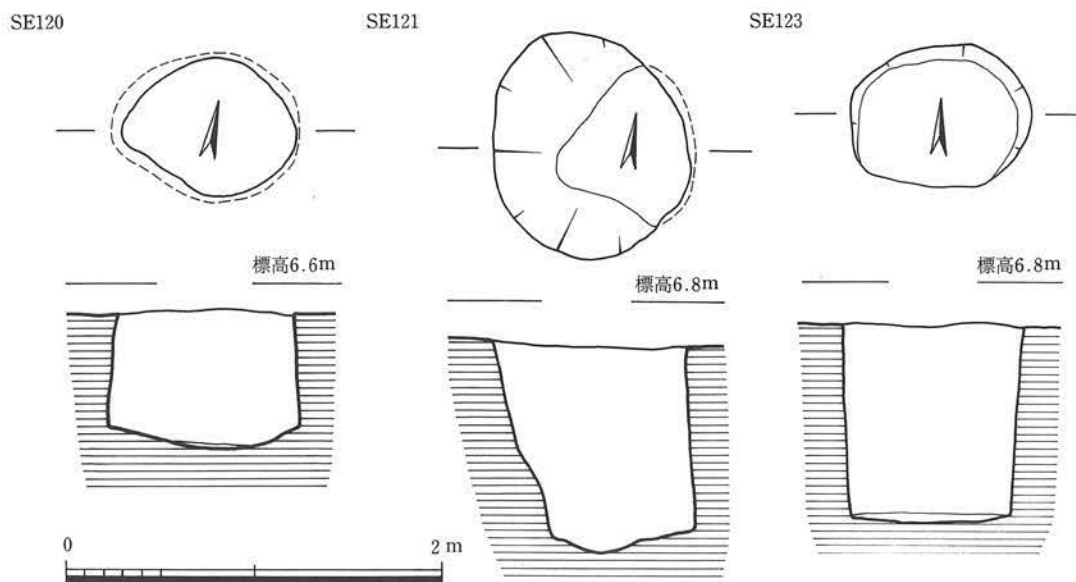


Fig. 28 SE120・121・123 実測図 (S = 1/40)

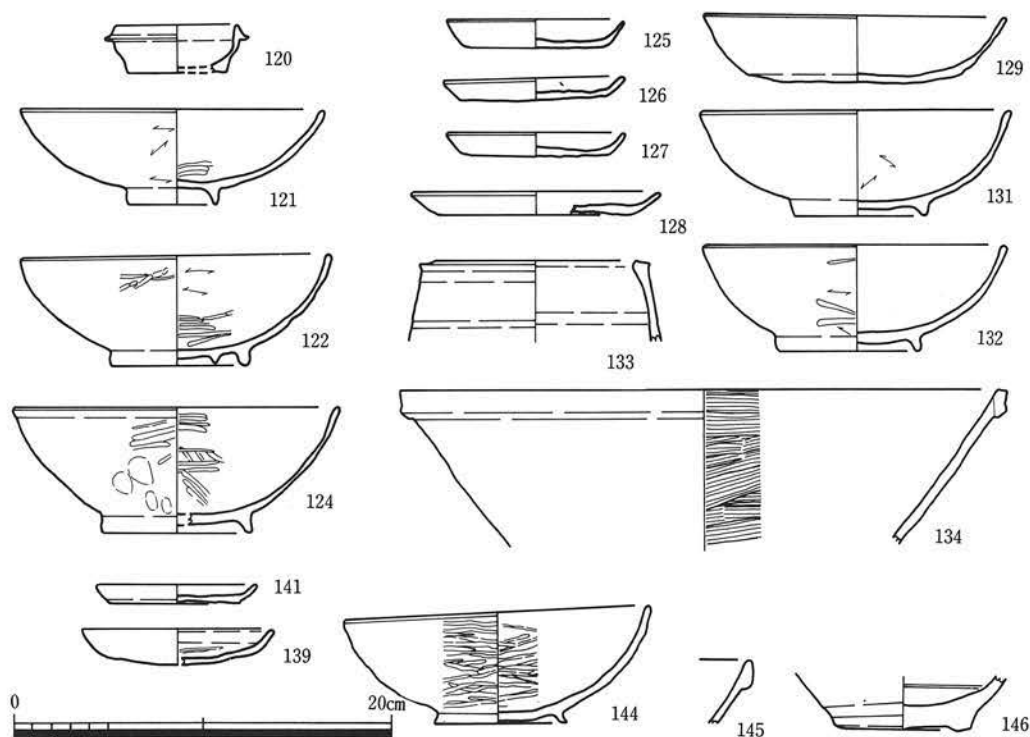


Fig. 29 SE120・121・123 出土遺物実測図 (S = ¼)

立ち上がる。埋土は褐色系の有機質土で、下部で砂混じりとなる。若干の容器類が埋土上部から出土した。

SE121出土遺物 (Fig. 29-125・126・127・128・129・131・132・133・134)

9点が図示できる。125・126・127・128は土師器小皿で、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整、底部外面は回転ヘラ切りの痕跡を残すものとナデを加えているものがある。125は復元口径9.4cm・器高1.5cm。126は完形で、口径9.5cm・器高1.0cm。127は復元口径9.4cm・器高1.2cm。128は復元口径13.2cm・器高1.2cm。129は土師器坏で、口径15.8cm・器高3.5cm。体部内外面は回転ナデ調整、底部内面はナデ調整、底部外面は回転ヘラ切りの痕跡が残る。131・132は瓦器碗で、内外面にヘラミガキ調整を施しているが、磨耗が激しい。131は復元口径16.4cm・器高5.5cm。132は復元口径16.0cm・器高5.6cm。133は石器で、復元口径12.2cm。内外面は横ナデ調整で、焼成は良好。134は土師質土器土鍋で、復元口径32.0cm。口縁外面を粘土帯を貼りつけて肥厚させる。口縁外面から端部にかけて横ナデ調整、外面はナデ調整、内面は横～斜方向の目の細かいハケ目調整。

SE123井戸 (Fig. 28)

AH-30区画に検出した。長径0.95m・短径0.75m・深さ1.0mで、短楕円形の平面形を示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は褐色系の有機質土で、若干の容器

類を出土した。

SE123出土遺物 (Fig. 29-139・141・144・145・146)

5点図示できる。139は土師器、145・144は瓦器、145・146は白磁である。139はほぼ完形で、口径8.2cm・器高1.0cm。141は復元口径10.0cm・器高1.9cm。内外面にていねいなヘラミガキ調整が施されている。145は碗の口縁破片で玉縁を持つ。146は、内面に一条の沈線を有し、外面は体部下位から高台にかけて露胎しヘラ削りが施されている。

SE134-174実測図 (Fig. 30)

AC-19区画に検出した。SD104に北側を切られていた。最上部に淡褐色土がうすく堆積し、その下の暗褐色土を掘り進むうちに、下部で2基の井戸が並列していることが判明した。切り合い関係は把握できていない。激しい湧水のため、どちらも完掘できなかった。上部の平面形は長径2.5m・短径2.2mの不整楕円形を示し、SE134は長径1.2m・短径1.0mの楕円形、SE134は径0.9mの円形の平面形をなす。どちらも壁は垂直に立ち上がる。埋土はともに暗褐色の有機質土で、下部で砂混じりとなる。SE134は若干の容器類を出土した。SE174はごく少数の遺物を出土したが図示できるものはない。

SE134出土遺物 (Fig. 31)

6点が図示できる。153・154・155は青磁。153・154は体部外面に蓮弁文を有する。153は黄緑灰色を呈し、復元口径15.0cm。154は緑灰色を呈し、復元口径16.1cm。155は底部破片で、内面見込部分に草花文を有する。156は瓦質土器で鉢になるものと思われる。復元口径32.3cm。口縁外面は横ナデ調整。外面はナデ調整。内面は横～斜方向の目の粗いハケ目調整。157は土師質

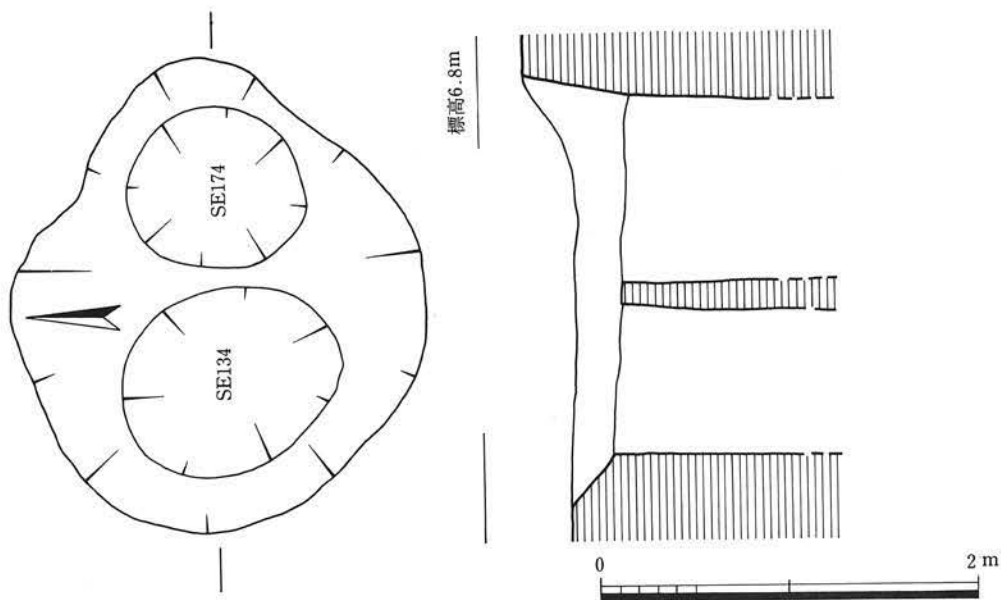


Fig. 30 SE134-174 実測図 (S = $\frac{1}{40}$)

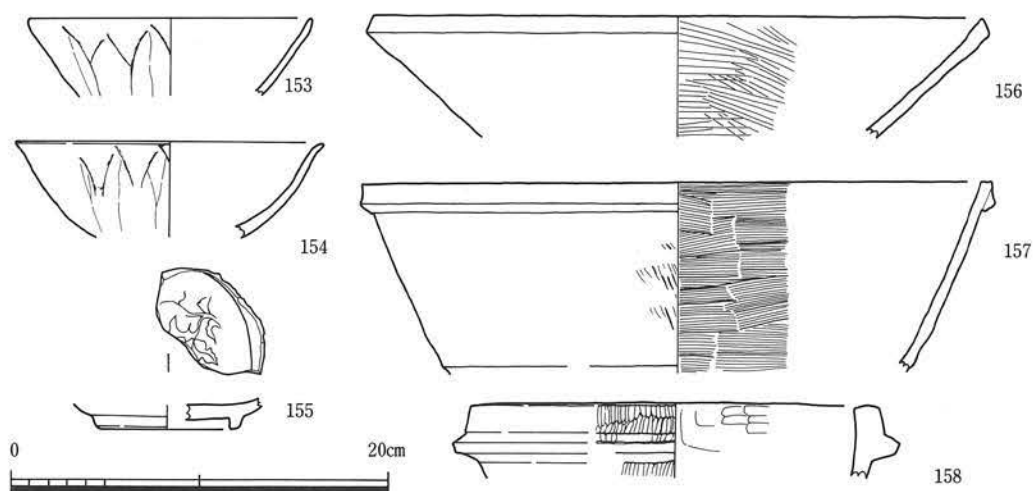


Fig. 31 SE134 出土遺物実測図 (S = 1/4)

土器の土鍋で、復元口径32.2cm。口縁外面に粘土帯を貼り付け肥厚させている。口縁外面と端部は横ナデ調整。外面はハケ目をナデ消し。内面は横方向の目の細かいハケ目調整。158は石鍋の破片で、復元口径18.8cm。良質の滑石を用い表面をていねいに削ってある。

(4) 土壌と出土遺物

紙数の制限により土器溜と考えられるもの (SK141) と土壌墓の可能性のあるもの (SK172・173) についてのみ報告する。

SK141土壌 (Fig. 32) AG-14区画に検出した。長軸1.25m・短軸9.0m・深さ0.5mを計り、隅丸台形状の平面形をなす。壁は垂直に近くきつく立ち上がり、底面は浅いレンズ状である。

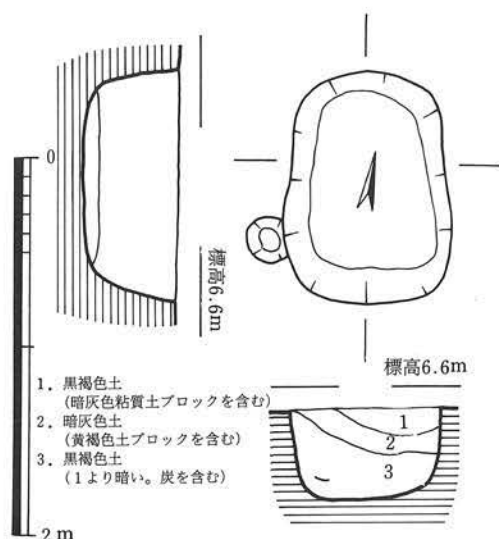


Fig. 32 SK141 実測図 (S = 1/40)

埋土は3層に大別され西側から埋まっていったと思われる堆積状況を示す。第2層と第3層から多量の遺物が出土した。第2・第3層から出土した遺物の間にいくつか接合するものがあった。このことは第2・第3層が間を措かずに急激に埋まりきったことを示すもので、土器溜として多量の土器が投棄され第2層まで人為的に埋められた後に、自然堆積により埋まりきったものと考えられる。

SK141出土遺物 (Fig. 33)

28点が図示できる。すべて第2・第3層出土である。器種は、土師器小皿・坏、瓦器小皿・碗、白磁碗である。

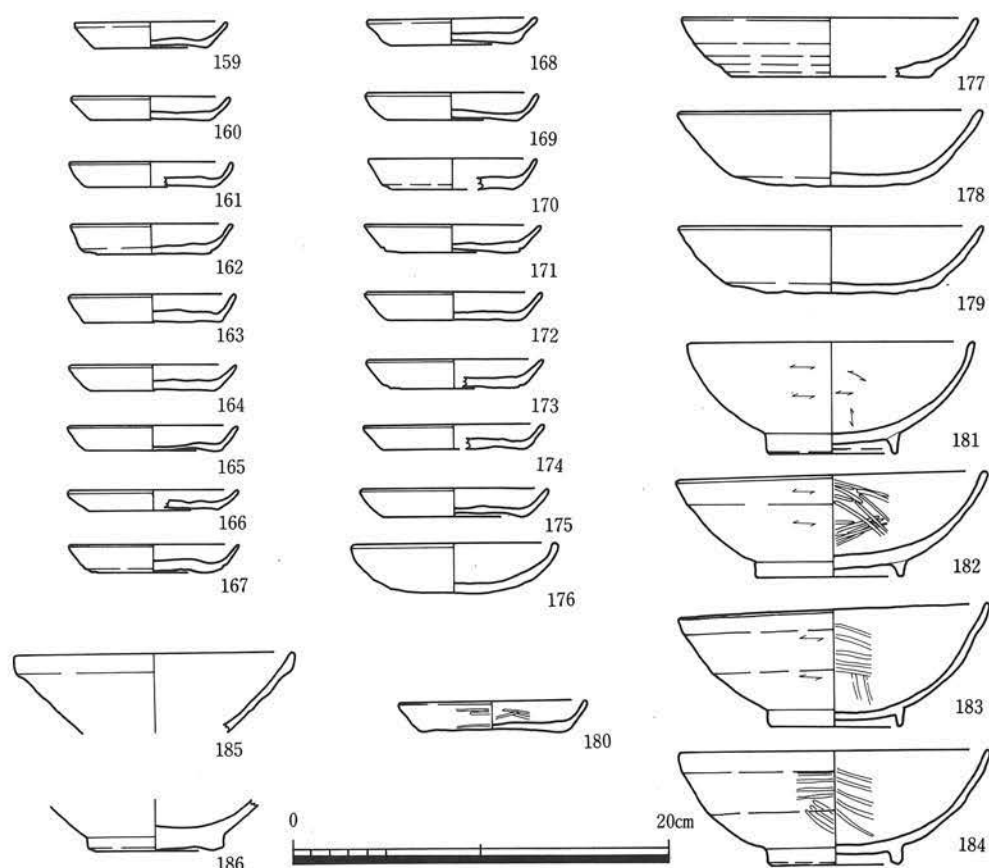


Fig. 33 SK141 出土遺物実測図 (S = ¼)

土師器小皿 (159～176)

どれも糸切り底で、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整である。159は復元口径8.0cm・器高1.3cm。底部外面に板状圧痕が認められる。160は復元口径8.1cm・器高1.3cm。底部外面に板状圧痕が認められる。161は復元口径8.3cm・器高1.4cm。162は口径8.4cm・器高1.6cm。163は復元口径8.5cm・器高1.5cm。164は口径8.6cm・器高1.4cm。底部外面にヘラ起こしの痕跡が認められる。165は復元口径8.7cm・器高1.4cm。底部外面に板状圧痕が認められる。166は復元口径8.7cm・器高1.2cm。167は復元口径8.8cm・器高1.5cm。168は口径8.8cm・器高1.4cm。169は復元口径8.9cm・器高1.5cm。底部外面に板状圧痕が認められる。170は復元口径9.0cm・器高1.6cm。171は復元口径9.2cm・器高1.5cm。172は復元口径9.2cm・器高1.5cm。173は復元口径9.2cm・器高1.6cm。底部外面に板状圧痕が認められる。174は復元口径9.3cm・器高1.3cm。175は口径9.7cm・器高1.5cm。176は復元口径10.6cm・器高2.6cm。

土師器坏 (177・178・179)

どれも糸切り底で、体部内外面回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整である。177

は復元口径15.3cm・器高3.2cm。178は復元口径15.5cm・器高4.1cm。179は復元口径15.7cm・器高3.6cm。

瓦器小皿 (180)

口径9.8cm・器高1.7cm。糸切り底で、内外面と底部外面の一部にヘラミガキ調整を施す。

瓦器碗 (181・182・183・184)

どれも内外面にヘラミガキ調整を施し、184以外は黒色～黒灰色を呈す。181は復元口径15.0cm・器高5.9cm。182は復元口径16.1cm・器高5.4cm。183は口径16.0cm・器高6.6cm。184は、明黄褐色を呈し、復元口径16.0cm・器高6.6cm。

白磁碗 (185・186)

185は復元口径14.4cm。186は高台は露胎する。どちらも淡白灰色を呈する。

SK172土墳 (Fig. 34)

AD-19区画に検出した。長軸1.4m・短軸0.7m・深さ0.15mで、隅丸長方形の平面形をなす。断面は浅い逆台形状をなし、底面は平坦で、北側が深い。埋土は淡褐色土で、自然堆積かどうか判断できない。遺物は出土しなかった。

SK173土墳 (Fig. 34)

AL-14区画に検出した。SB020に接して存在し、重複関係にあるものと思われる。上面から5個の小穴が切り込んでいた。長軸1.75m・短軸0.8m・深さ0.3mで、隅丸長方形の平面形をなす。断面は浅い逆台形状をなし、底面は浅いレンズ状で、南側がやや深い。埋土は淡褐色土で、自然堆積かどうか判断できない。埋土上部から、流れ込みと思われる少数の土器細片が出土したが、図示に耐え得るものはない。

(5) 土墳墓と出土遺物

平面形が隅丸長方形か長楕円形で、壁がきつく立上がり、底面が平坦か浅いレンズ状をなし、埋置状態にあつて副葬品と考えられる遺物を出土した土墳を、土墳墓として分類した。

SP170土墳墓 (Fig. 35)

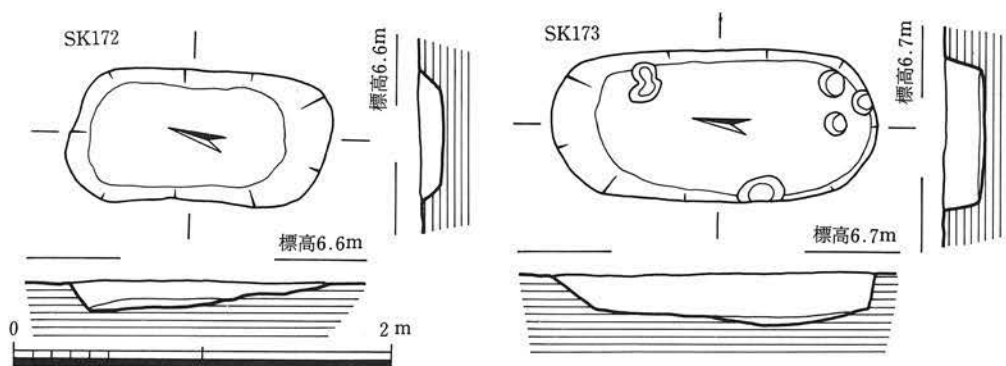


Fig. 34 SK172・173 実測図 (S = $\frac{1}{40}$)

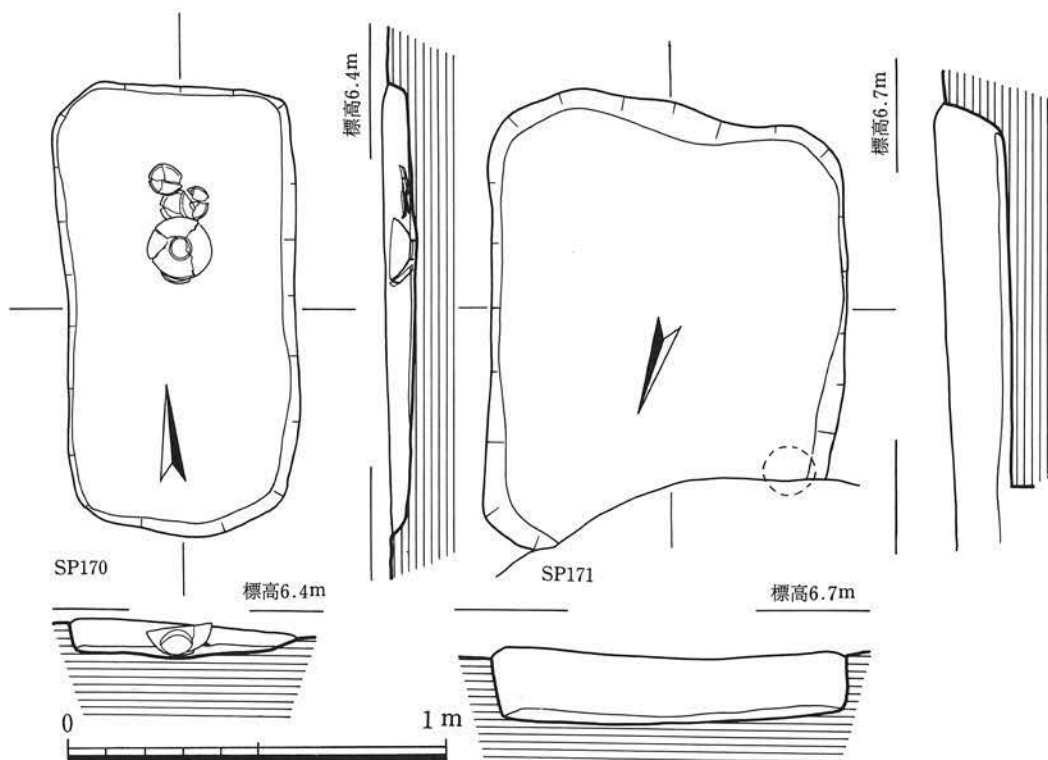


Fig. 35 SP170・SP171 実測図 (S = $\frac{1}{20}$)

AI-27区画に検出した。長軸1.2m・短軸0.6m・深さ0.08mで、隅丸長方形の平面形をなす。底面はほぼ平坦で、壁は北と東に向かってきつく立上がる。埋土は褐色土で、北側中央に青磁碗1個と土師器小皿4個が埋置されていた。小皿のひとつが青磁碗とともに沈み込んだ状況を示していることから、これらの副葬品は木の蓋の上に置かれていたものと考えられる。

SP170出土遺物 (Fig. 36)

273・274・275・276は土師器小皿。すべて糸切り底で、体部内外面は回転ナデ調整。273は口径8.6cm・器高1.4cm。底部内面は多方向からのナデ調整、底部外面にヘラ起こしの痕跡が認められる。274は口径8.7cm・器高1.4cm。底部内面は一定方向のナデ調整、底部外面にヘラ起こしの痕跡が認められる。275は完存で、口径8.2cm・器高1.3cm。底部内面は多方向からのナデ調

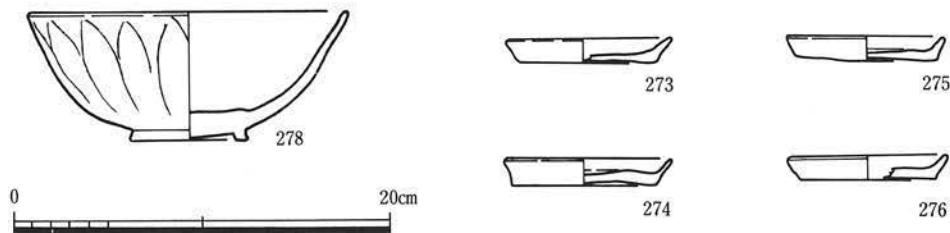


Fig. 36 SP170 出土遺物実測図 (S = $\frac{1}{4}$)

整。276は口径8.3cm・器高1.3cm。底部内面は一定方向のナデ調整、底部外面にへう起こしの痕跡が認められる。278は青磁碗で、口径16.8cm・器高6.8cm。緑灰色を呈し、体部外面に蓮弁文を有する。

SP171土墳墓 (Fig. 35)

AJ-23・24区画に検出した。北端をSD101に切られる。長軸1.15m以上・短軸0.95m・深さ0.17mで、隅丸正方形に近い平面形をなす。底面はほぼ平坦で、埋土は褐色土。北西端に完存品の青磁碗が埋置されていたが、調査中に心ない人により持ち去られてしまった。

(6) 方形周溝状遺構と出土遺物

SR164方形周溝状遺構 (Fig. 37)

AI-20、AJ-18・19・20・21、AK-18・19・20・21、AL-19・20区画に検出した。SB155・156と重複関係にある。SB155とは柱穴が直接切り合い、SR164が先行する。一辺が10.8m前後で、

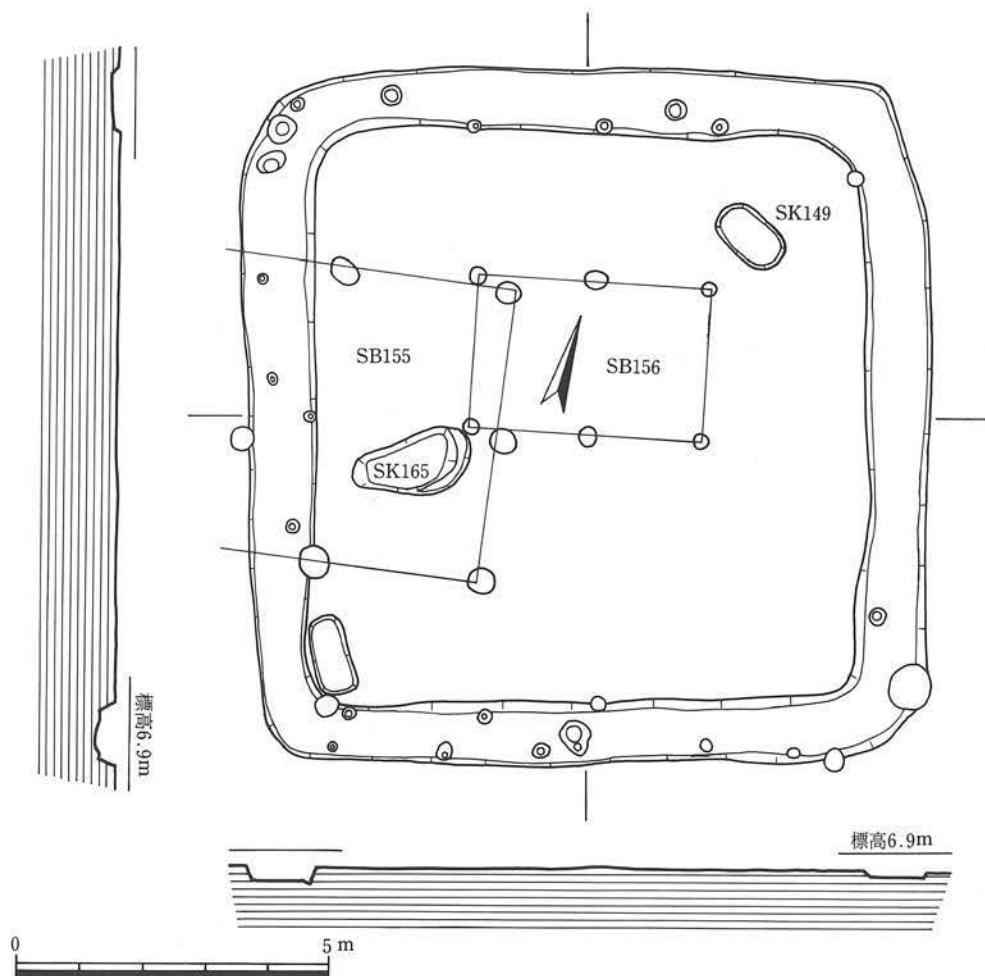


Fig. 37 SR164 実測図 (S = $\frac{1}{120}$)

隅丸正方形の平面形をなす。溝幅1.0m前後、深さ0.1～0.3mで、埋土は暗褐色土である。方位角をN-16°30'-Wにとる。周溝内部にSK149・165を検出したが、SR164に伴うものかどうかは判断できない。SB156は方位角から考えて、SR164より後出する確率が高い。周溝内埋土から容器類と鉄器が出土した。

SR164出土遺物 (Fig. 38)

247・248・249・250・251は土師器、252・253・254は黒色土器A類、255・256は黒色土器B類、257は白磁、258・259は鉄製品である。247は復元口径9.5cm・器高1.5cm。回転ヘラ切り離しで、体部内外面は回転ナデ調整。248は復元口径10.8cm・器高1.5cm。回転ヘラ切り離しで、体部内外面は回転ナデ調整。249は復元口径11.2cm・器高1.7cm。底部外面に板状圧痕が認められる。250は口径11.1cm・器高1.5cm。底部内面は多方向からのナデ調整で、底部外面に板状圧痕が認められる。251は復元底径7.2cm。内外面ともに回転ナデ調整。252は復元底径6.4cm。体部内外面ともにヘラミガキ調整。253は復元底径8.2cm。体部内面はヘラミガキ調整。254は復元底径8.3cm。体部内面はヘラミガキ調整。255は復元底径6.0cm。体部内面はヘラミガキ調整。256は復元口径14.4cm・器高5.5cm。口縁外面は回転ナデ調整、体部内外面はていねいなヘラミガキ調整。黒色を呈し光沢がある。257は復元口径18.8cm。淡白灰色を呈する。258・259は角釘と思われる。

(7) 溝と出土遺物

方形区画の溝以外にも数条の溝を検出した。これらの溝が方形区画に伴い機能を果たしていたものかどうかは判断できない。紙数の制限で、SD114・160についてのみ報告する。

SD114溝

AF-9・10・11区画に検出した南北方向の溝で、長さ10.5m幅0.8～0.4m・深さ0.2m。断面形は浅い逆台形状で、埋土は淡褐色土であった。北端でほぼ完形の土師質土器土鍋を出土した。

SD114出土遺物 (Fig. 39)

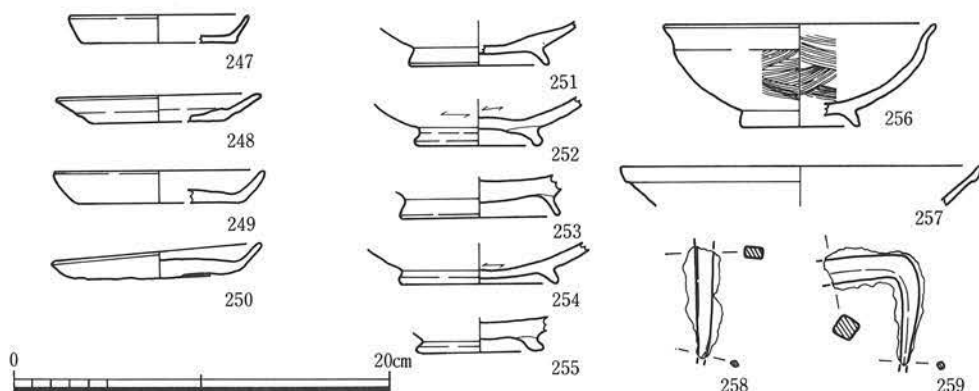


Fig. 38 SR164 出土遺物実測図 (S = 1/4)

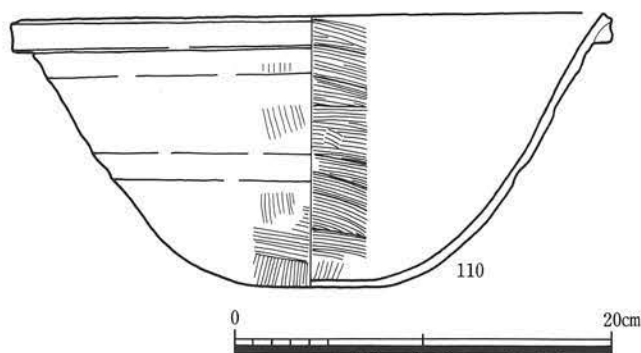


Fig. 39 SD114 出土遺物実測図 (S = 1/4)

口径30.9cm・器高14.5cm。
口縁外面に粘土帯を貼り付け
肥厚させる。体部中位を屈曲
させ段を形成。口縁外面は横
ナデ調整。外面上位から中位
にかけてハケ目をナデ消し。
体部下位はハケ目調整。内面
は全体にハケ目調整。外面は
全体にわたって煤が付着して
いる。

SD160溝 (Fig. 40)

AH・AI・AJ-17、AJ・AK・AL・AM-18区画に検出した。長さ23.5m以上・溝幅1.0~1.2m・深さ0.5m。西端はAH-17区画で終結し東は調査区外にのびる。遺物はAJ-18区画で集中的に出土した。

SD160出土遺物 (Fig. 41)

208・209・210・211は土師器小皿。どれも体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整、底部外面は回転ヘラ切りの痕跡。208は復元口径8.4cm・器高0.7cm。209は復元口径8.4cm・器高1.1cm。210は復元口径9.3cm・器高0.7cm。211は口径9.3cm・器高0.9cm。212は瓦器小皿。復元口径10.9cm・器高1.8cm。内外面にヘラミガキを施すが磨耗している。213・214・215・216・218・221・222・224・225・226・227・228・229・230は瓦器碗。213・216以外は黒色~黒灰色を呈し内面はヘラミガキ調整。229以外は外面に回転ヘラミガキ。213は明黄褐色を呈し口径16.4cm・器高6.1cm。214は復元口径18.2cm・器高5.2cm。215は復元口径16.3cm・器高5.4cm。216は明黄褐色を呈し復元口径15.7cm・器高5.4cm。218は復元口径15.7cm・器高5.2cm。221は口径14.8cm・器高6.2cm。222は復元口径13.8cm・器高5.5cm。224は復元口径15.4cm・器高6.0cm。225は復元口径16.0cm・器高5.7cm。226は復元口径16.3cm・器高6.3cm。227は復元口径16.3cm・器高5.6cm。228は復元口径16.2cm・器高5.6cm。229は復元口径16.8cm・器高6.0cm。外面ヘラミガキ調整。230は復元口径16.3cm・器高6.0cm。231は白磁碗で、復元口径17.5cm・器高



Fig. 40 SD160 土層断面実測図 (S = 1/40)

7.3cm。淡白灰色を呈し内面に一条の沈線がまわる。体部下位から高台は露胎。233は土師質土器鉢で復元口径45.8cm・器高20.0cm。下位を屈曲させ段を形成し、底部は上げ底状になる。口縁部内外面横ナデ調整。体部外面は粗いハケ目をナデ消し、内面はナデ調整を加えている。

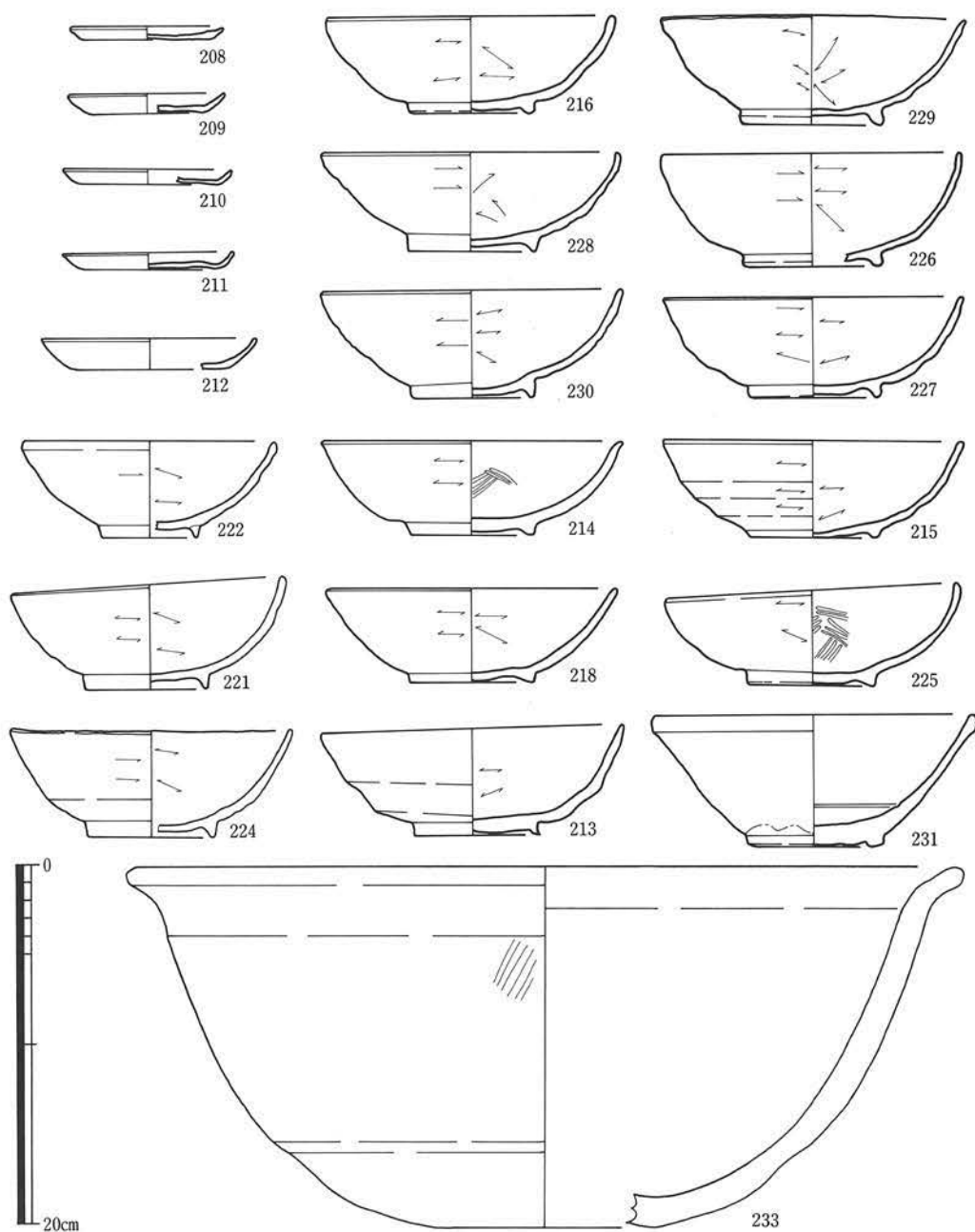


Fig. 41 SD160 出土遺物実測図 (S = ¼)

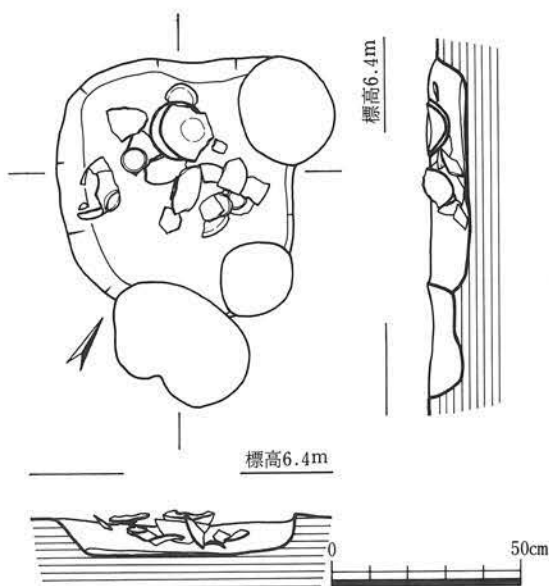


Fig. 42 P1001 実測図 (S = $\frac{1}{20}$)

口径8.8cm・器高1.2cm。326は復元口径9.2cm・器高1.1cm。327は復元口径9.2cm・器高1.1cm。328・329・330・331・332は瓦器碗*。どれも黄褐色を呈し光沢を帯びて、意識して酸化炎焼成を行なったものではないかと思わせる。内面はヘラミガキ調整を施し、328以外は外面に回転ヘラミガキを行なっている。こうした瓦器碗のみが埋置されていたことは、P1001の性格を考えるうえで興味深い。地鎮などの祭祀行為に関連があるのだろうか。328は復元口径15.4cm・器高5.7cm。外面はていねいなヘラミガキ調整。329は口径15.9cm・器高5.7cm。330は復元口径15.5cm・器高5.5cm。内面のヘラミガキはていねいである。331はほぼ完形で、口径15.8cm・器高5.3cm。内面のヘラミガキはていねいである。332はほぼ完形で、口径16.3cm・器高6.2cm。

*天本洋一氏の御教示による。

(8) その他の遺構と出土遺物

P1001土器埋納遺構 (Fig. 42)

AD-14区画に検出した。一辺0.63m・深さ0.1mほどで、隅丸正方形の平面形をなす。底面はほぼ平坦で、3個の小穴に切り込まれている。埋土は暗褐色土。やや底面より浮いた状態で、土師器小皿と瓦器碗が埋置されており、瓦器碗2個は重なった状態で出土した。土師器小皿3個・瓦器碗5個が出土したが、表土剥ぎを行なった際に若干原位置を移動した可能性がある。

P1001出土遺物 (Fig. 43)

325・326・327は土師器小皿。どれも、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は一定方向のナデ、底部外面に回転ヘラ切りの痕跡が残る。325は復元

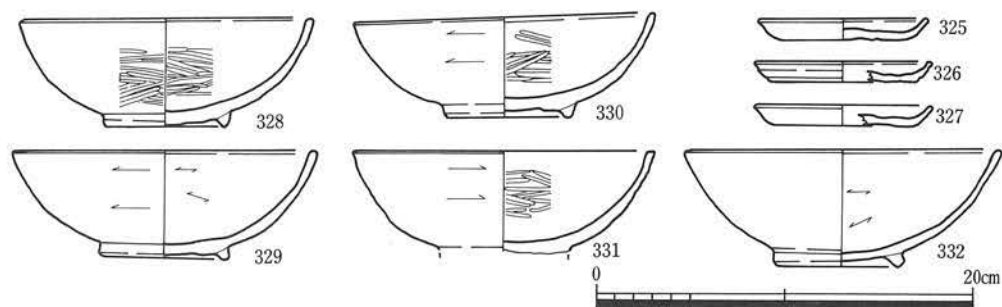


Fig. 43 P1001 出土遺物実測図 (S = $\frac{1}{4}$)

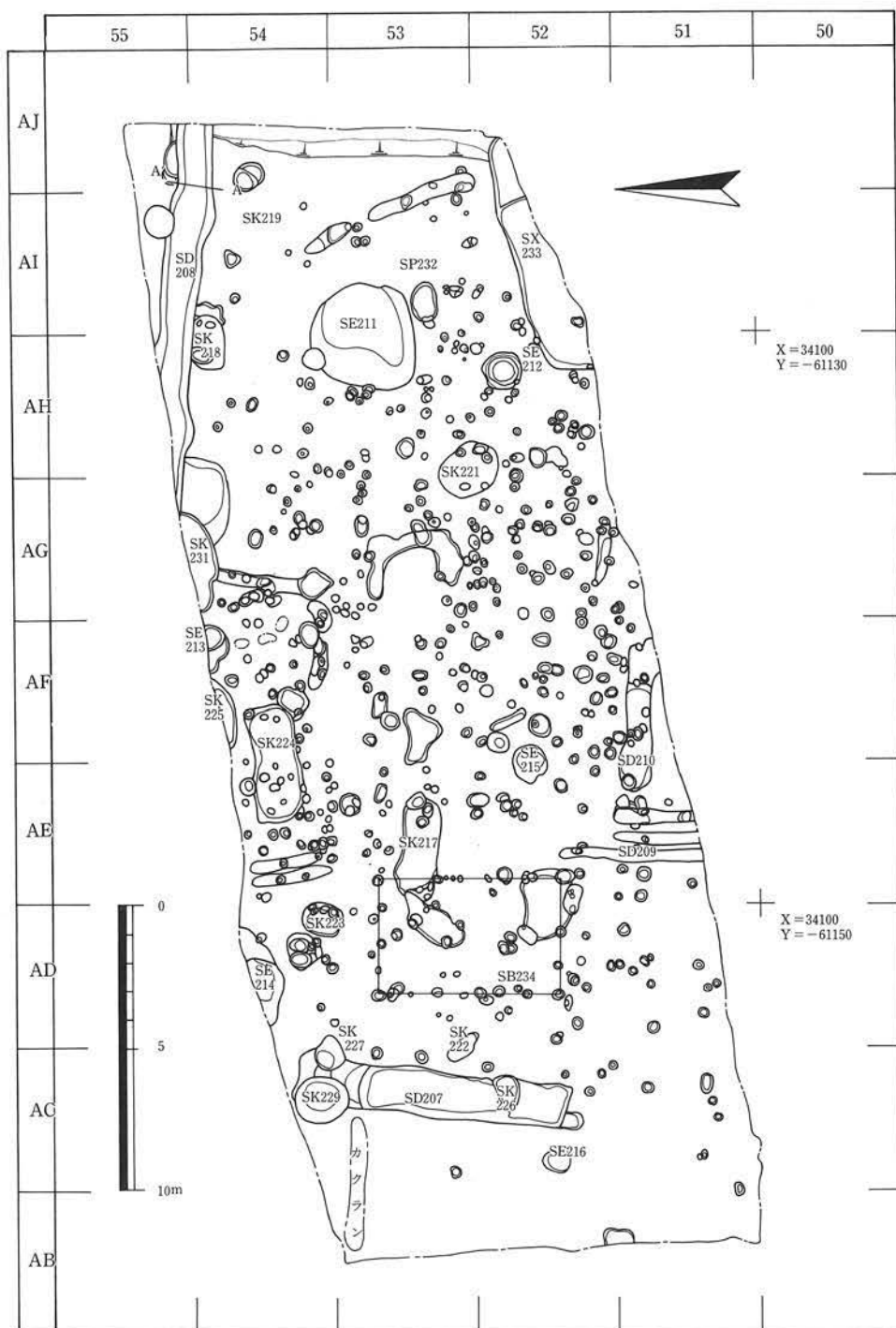


Fig. 44 本村遺跡 2 区遺構配置図 (S = $\frac{1}{250}$)

V. 調査の記録—2区—

1. 中世の遺構と遺物

(1) 溝と出土遺物

SD208溝 (Fig. 44)

AG-53・54、AH-53・54、AI-53・54、AJAJ-53・54区画に検出した。両端は調査区外に伸びている。長さ14m以上・幅1.5～2.0m・深さ0.8m。埋土は3層に大別されるが、いずれも自然堆積によるものと判断できる。出土遺物の垂直分布にはまともりは認められない。このSD208とほぼ同じ方位の溝が北側と南側の県教委調査区で検出されていて、この調査区はSD208を一部とする方形区画の内部にあたるものであろう。30m×40m以上の整った長方形の区画になるものと思われるが、詳細は県教委報告による。

SD208出土遺物 (Fig. 45)

25点が図示できる。器種には、土師器小皿・坏・碗、瓦器碗、青磁小皿、須恵質土器鉢、陶器四耳壺がある。

土師器小皿 (001・002・003・004・005・006)

どれも回転系切り底で、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整である。003・004・005・006は底部外面に板状圧痕が認められる。001は復元口径8.0cm・器高1.1cm。002は復元口径8.2cm・器高1.1cm。003は口径8.5cm・器高1.1cm。004は復元口径8.5cm・器高1.1cm。005は完存品で、口径8.7cm・器高1.1cm。006はほぼ完存品で、口径9.0cm・器高1.2cm。底部内面見込部分に墨書による文様を有する。

土師器坏 (007・008・009・010・011・012・013・015)

どれも回転系切り底で、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は、007011は一定方向のナデ調整、他は多方向からのナデ調整。007・012・013以外は底部外面に板状圧痕を有する。007は復元口径13.8cm・器高3.1cm。008は復元口径14.4cm・器高3.0cm。009はほぼ完形で、口径15.6cm・器高3.4cm。010は復元口径15.0cm・器高3.4cm。011は復元口径15.1cm・器高3.9cm。012は

復元口径15.2cm・器高2.6cm。013は復元口径15.5cm・器高2.8cm。015はほぼ完形で、口径15.8cm・器高2.8cm。

土師器碗 (017)

口縁部から体部にかけての破片であるが、碗になるものと思われる。内外面ともに赤色顔料が施してある。復元口径18.1cm。不明瞭であるが内外面ともミガキ調整と思われる。

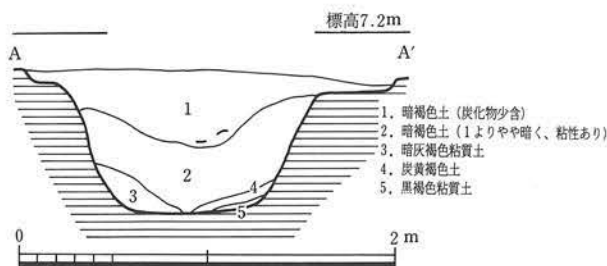


Fig. 45 SD208 土層断面図 (S = 1/40)

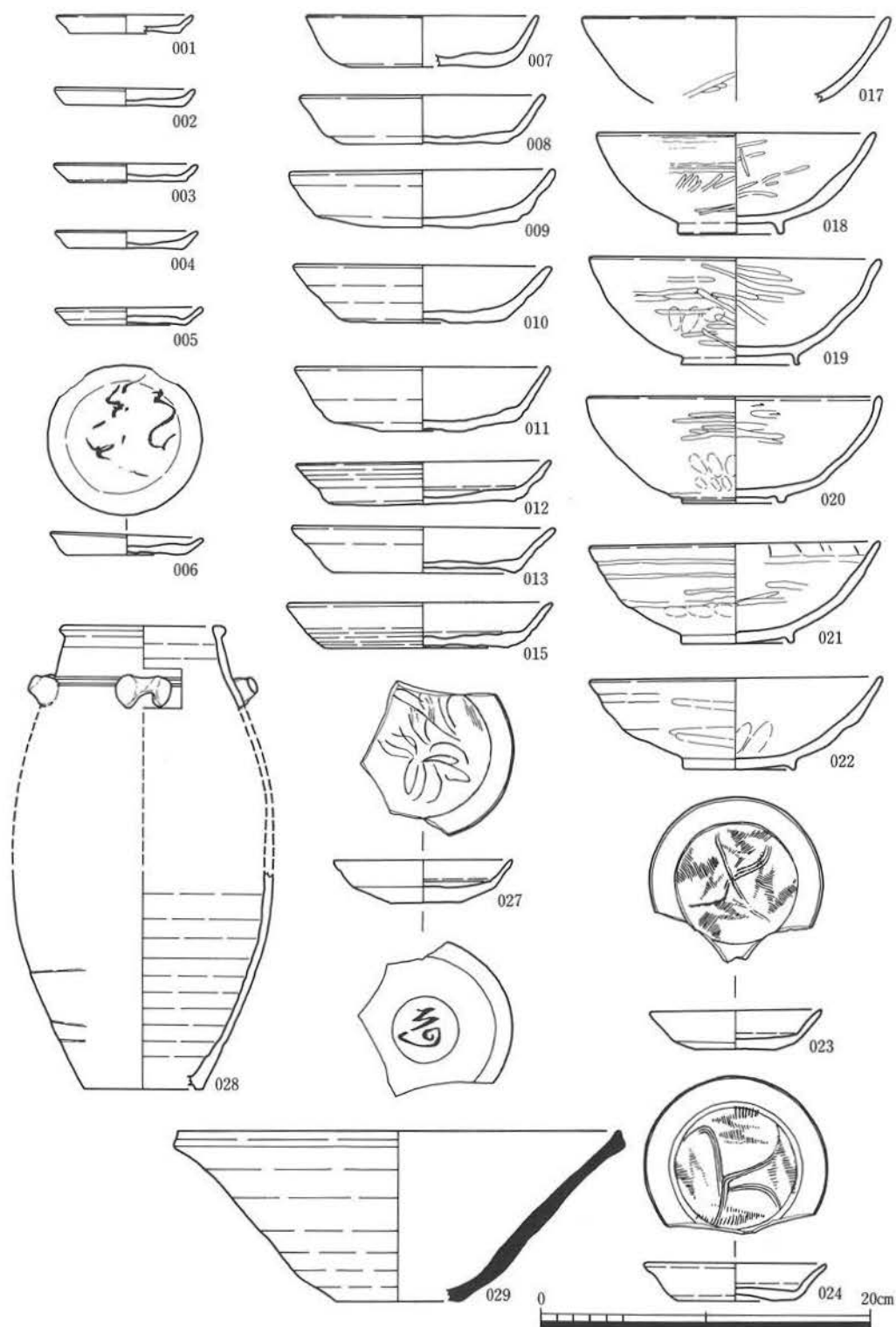


Fig. 46 SD208出土遺物実測図 (S = ¼)

瓦器椀 (018・019・020・021・022)

どれも、体部内外面にヘラミガキ調整を施し、淡黒灰色～暗黄灰色を呈する。018は完形に近く、口径16.4cm・器高6.1cm。019は完形に近く、口径17.1cm・器高6.5cm。体部外面下位に指頭による押圧を加える。020は口径17.3cm・器高6.5cm。体部外面下位に指頭による押圧を加え、口縁内外面に環状黒班が認められる。021はほぼ完形で、口径17.3cm・器高6.1cm。体部外面下位に指頭による押圧を加え、口縁内外面に環状黒班が認められる。022は口径17.4cm・器高5.5cm。体部内面下位に指頭による押圧を加えている。

青磁小皿 (023・024)

どちらも、淡緑灰色を呈し、内面見込部分に櫛状工具による文様を有する。023は口径10.1cm・器高2.5cm。024は口径10.8cm・器高2.3cm。

白磁小皿 (027)

淡黄白灰色を呈し、復元口径10.6cm・器高2.6cm。内面見込部分に櫛状工具による草花文を施し、底部外面に文字と思われる墨書を有する。

陶器四耳壺 (028)

内面は淡黄褐色、外面は暗黄緑灰色～淡黄褐色を呈し、復元口径10.0cm。胎土に1～4mmの砂

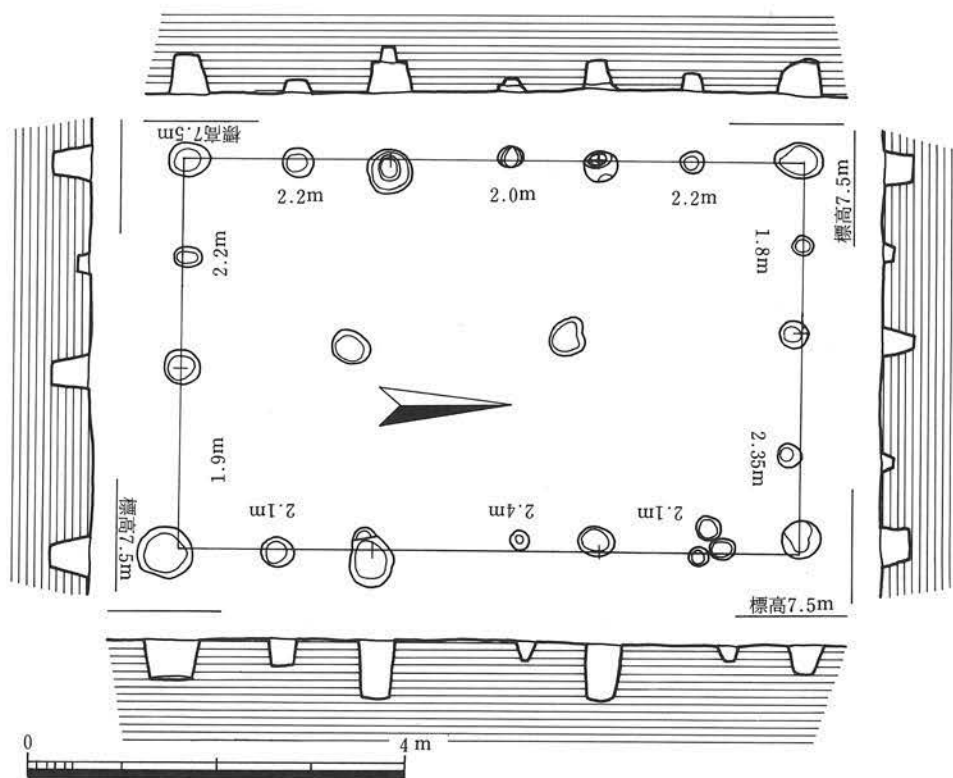


Fig. 47 SB234 実測図 (S = 1/80)

粒を含む。内外面ともに回転ナデ調整。

須恵質土器鉢 (029)

復元口径26.4cm・器高10.3cm。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

(2) 掘立柱建物と出土遺物

SB234掘立柱建物 (Fig. 47)

AD-51・52、AE-51・52区画に検出した。SK217を切り、SB234が後出する。南北棟建物で、主軸をN-0°30'-Eにとる。身舎は桁行3間・梁行2間で、柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.4~0.6mを計る。桁間・梁間と建物内部に検出した小形で浅い柱穴は、建物の床を張るための脇柱及び束柱と考えられる。柱穴掘り方から若干の土師器細片を出土したが図示できるものはない。

(3) 井戸と出土遺物

SE211井戸 (Fig. 48)

AI-53・54、AJ-53・54区画に検出したが、激しい湧水のために完掘できなかった。SP232に切られ、SE211が先行する。径3.5~3.8mの不整形円の平面形をなし、深さ0.8m以上を測る。埋土はほぼレンズ状の土層断面を示していて、自然堆積によるものと思われる。各種の容器類及び石製品を出土したが、遺物の垂直分布にまともりは認められなかった。

SE211出土遺物 (Fig. 49)

30点が図示できる。032~048は土師器小皿。どれも、体部内外面は回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整である。032は回転糸切り底で、復元口径8.1cm・器高1.1cm。底部外面

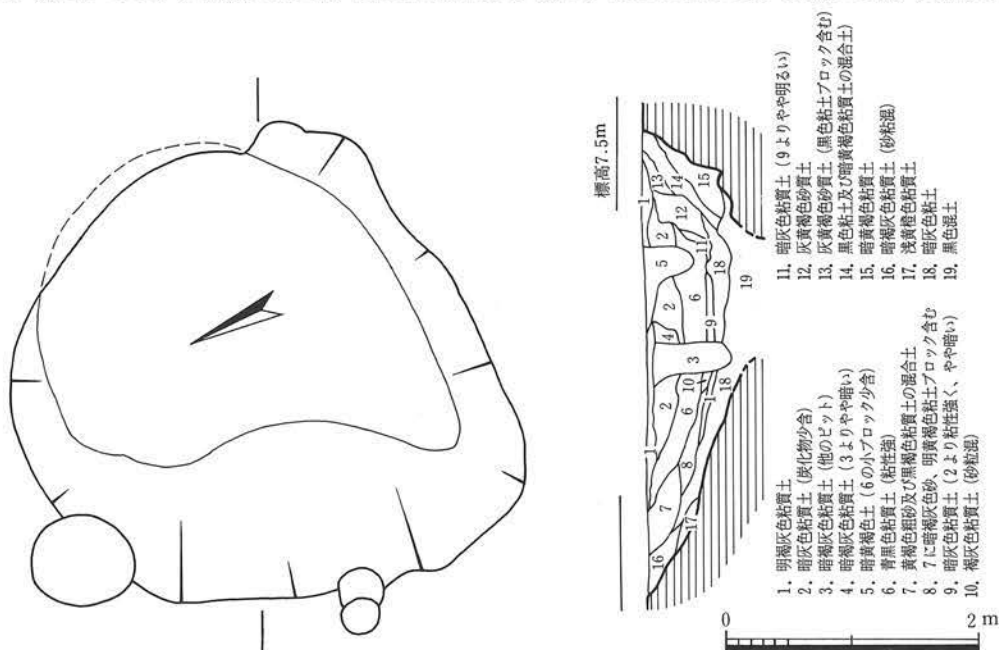


Fig. 48 SE211 実測図 (S=1/60)

に板状圧痕が認められる。033は復元口径8.4cm・器高1.2cm。底部外面に板状圧痕が認められる。034は回転糸切り底で、復元口径8.4cm・器高1.1cm。底部外面に板状圧痕が認められる。035は回転糸切り底で、復元口径8.3cm・器高1.1cm。036は回転糸切り底で、復元口径8.4cm・器高1.3cm。底部外面に板状圧痕が認められる。037は回転ヘラ切りで、復元口径8.7cm・器高1.4cm。038は復元口径8.8cm・器高1.2cm。底部外面に板状圧痕が認められる。039は回転糸切り底で、復元口径8.7cm・器高1.2cm。040は回転糸切り底で、完形に近い。口径8.8cm・器高1.3cm。041は回転糸切り底で、復元口径8.9cm・器高1.2cm。042は復元口径8.7cm・器高1.2cm。底部外面に板状圧痕が認められる。043は回転糸切りで、口径8.9cm・器高1.3cm。底部外面に板状圧痕が認められる。044は回転ヘラ切りで、復元口径8.9cm・器高0.8cm。045は回転糸切りで、復元口径8.4cm・器高1.1cm。底部外面にナデが入る。046は回転糸切りで、復元口径9.1cm・器高1.2cm。047は回転糸切りで、復元口径9.1cm・器高1.0cm。048は回転糸切りで、口径9.2cm・器高1.1cm。049・050は土師器杯。049は復元口径12.0cm・器高2.6cm。底部外面に板状圧痕が認められる。

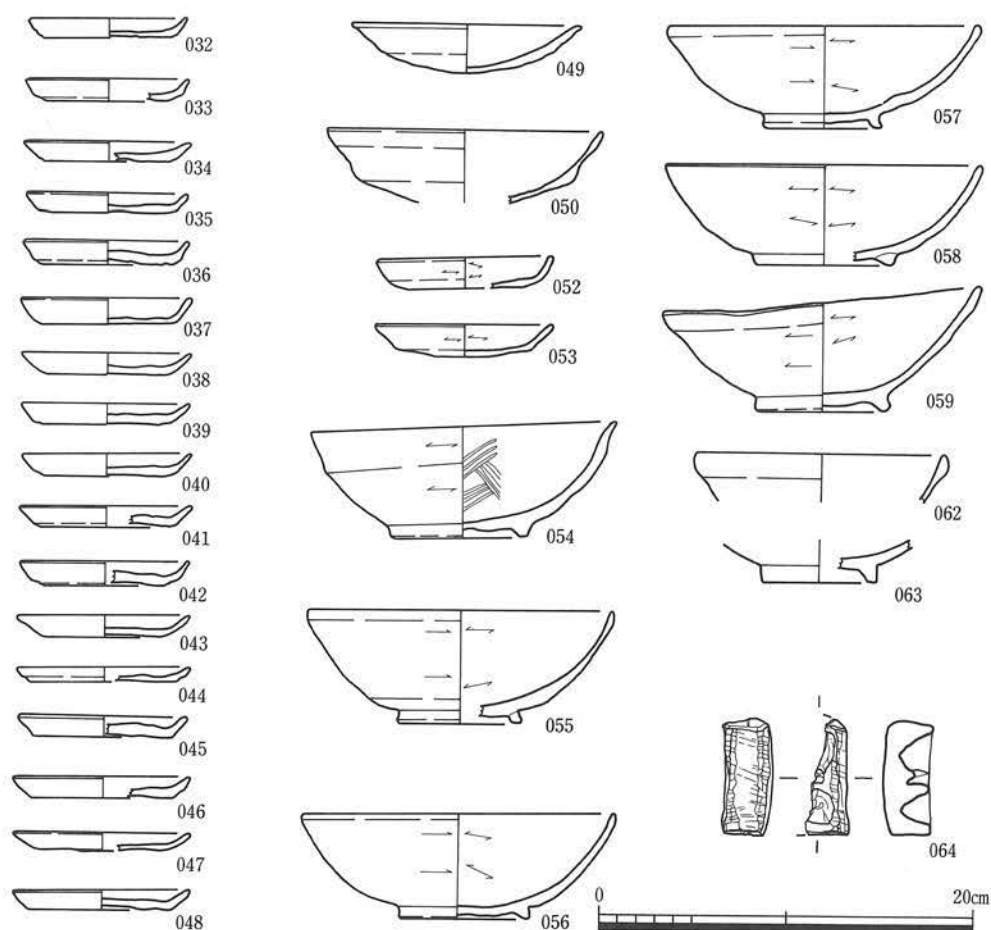


Fig. 49 SE211 出土遺物実測図 (S = ¼)

体部外面回転ナデ調整で、内面はヘラミガキ調整を施す。050は復元口径12.5cm・器高3.9cm。体部内外面は回転ナデ調整。内面は多方向のナデ調整。054は黒色土器B類碗ほぼ完形で、口径16.0cm・器高6.1cm。光沢を放つ黒色を呈し、体部内外面ともにていねいなヘラミガキ調整を施す。052・053は瓦器小皿。ともに内外面にヘラミガキ調整を施す。052は復元口径9.0cm・器高1.7cm。底部外面にナデ調整を加える。053は復元口径9.2cm・器高1.7cm。底部外面に回転糸切り痕を有する。055・056・057・058・059は瓦器碗。どれも内外面にヘラミガキ調整を施し、055・056・057・059は体部外面に回転ヘラミガキ調整を加える。055・057は光沢を放つ黄褐色を呈する。055は復元口径16.0cm・器高6.0cm。056は口径16.3cm・器高5.7cm。底部内面に黒班を有する。057は口径16.2cm・器高5.5cm。胎土に2mmほどの砂粒を多く含む。058は復元口径16.4cm・器高5.3cm。059は全体に激しく歪む。口径16.4cm・器高5.3cm。062・063は白磁碗。062は復元口径12.9cm。ともに白灰色を呈する。064は滑石製品。片面に二個の穴を円錐状に削っている。機能・用途は不明。

(4) 土壌と出土遺物

SK224土壌 (Fig.50)

AE・AF-54区画に検出した。長軸4.1m・短軸1.8m・深さ0.3mの不整長方形の平面形をなす。壁は南北方向でややきつく立ち上がる。底面は、浅いレンズ状をなすが東側で不整形な壇状になる部分があり、底面で数個の小穴が検出された。土層断面は不自然な堆積状況を示すが、人工的な埋土であるかは判断できない。埋土中より容器類が出土した。

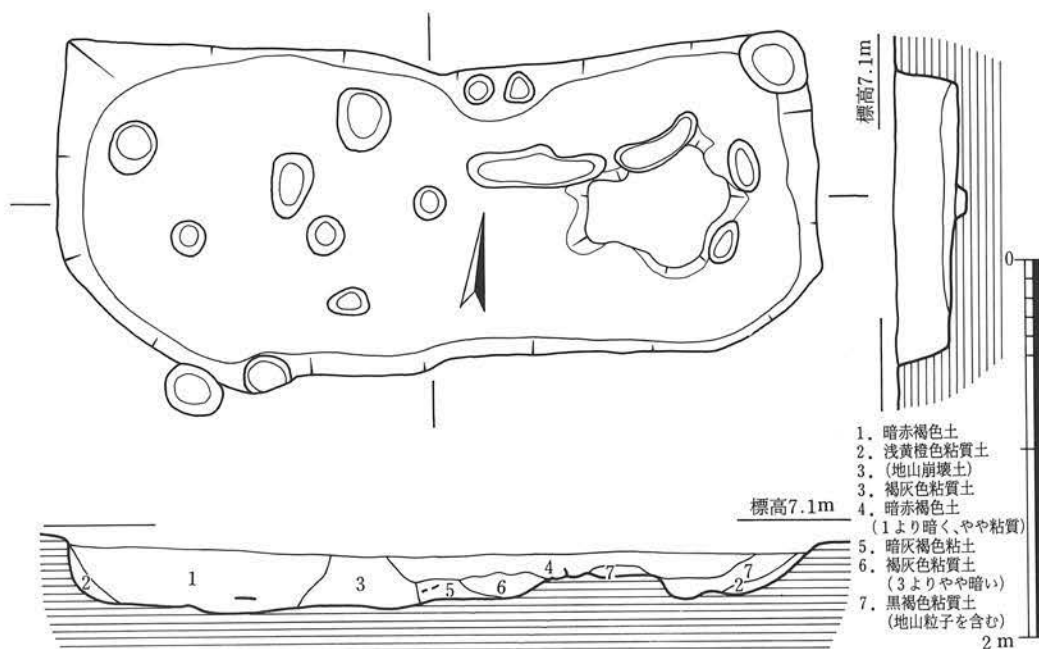


Fig.50 SK224 実測図 (S = 1/40)

SK224出土遺物 (Fig. 51)

14点が図示できる。065・066・067・068は土師器小皿。どれも、回転糸切り底で板状圧痕が認められる。065はほぼ完形で、口径8.4cm・器高1.5cm。066は口径8.7cm・器高1.2cm。067は口径8.7cm・器高1.3cm。068は復元口径8.7cm・器高1.1cm。069・070・071・072・073は土師器坏。070以外は回転糸切り底で板状圧痕が認められる。069は復元口径14.3cm・器高3.4cm。070は復元口径14.9cm・器高2.9cm。071は復元口径15.2cm・器高3.4cm。072は口径15.3cm・器高3.2cm。073は復元口径15.8cm・器高3.3cm。074・075・076は瓦器碗。どれも、内外面はヘラミガキ調整で、外面下位では指頭による圧痕を加える。074は完形で、口径16.6cm・器高6.1cm。075は復元口径17.2cm・器高6.8cm。076は復元口径17.4cm・器高5.5cm。077は須恵質土器鉢。内外面ともに横ナデ調整。復元口径26.8cm。078は土師質土器鍋で、復元口径48.0cm。口縁端部は刻み目を施し、外面は縦横にハケ目調整を加える。内面上位に指頭による押圧を加えている。

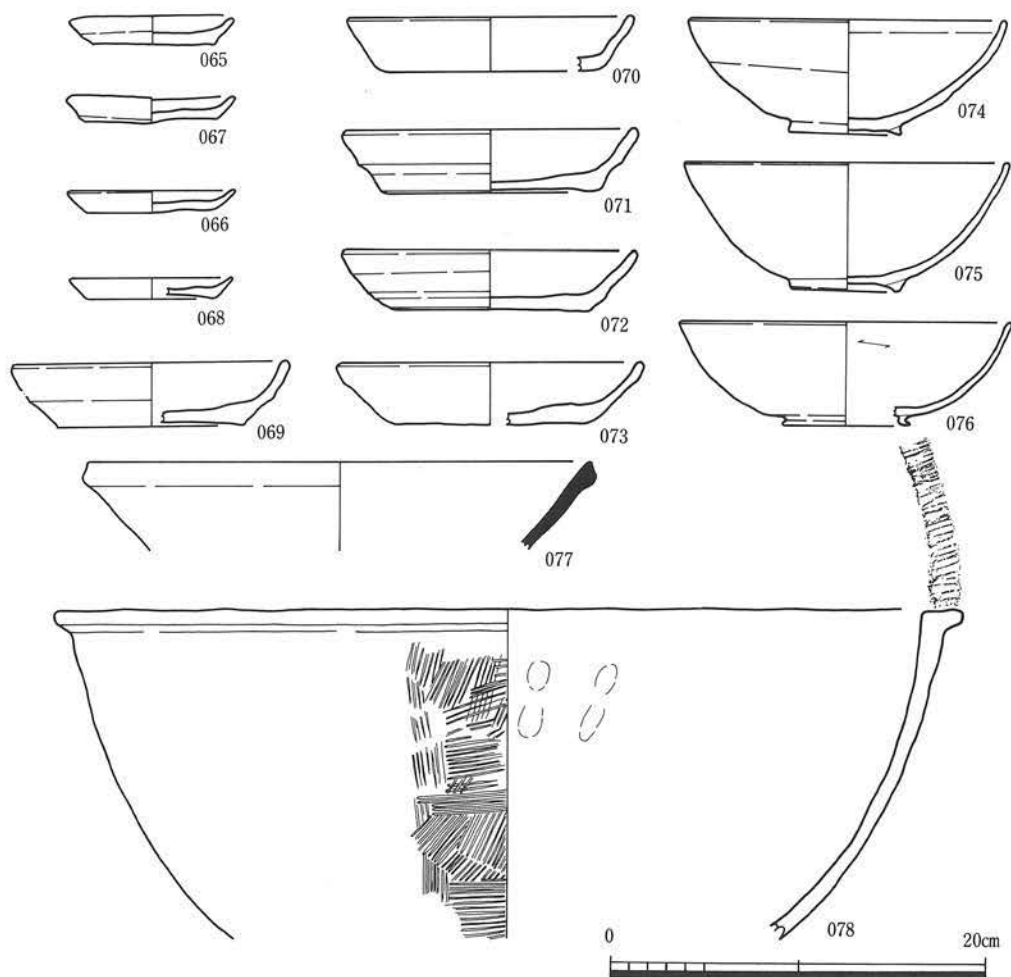


Fig. 51 SK224 出土遺物実測図 (S = ¼)

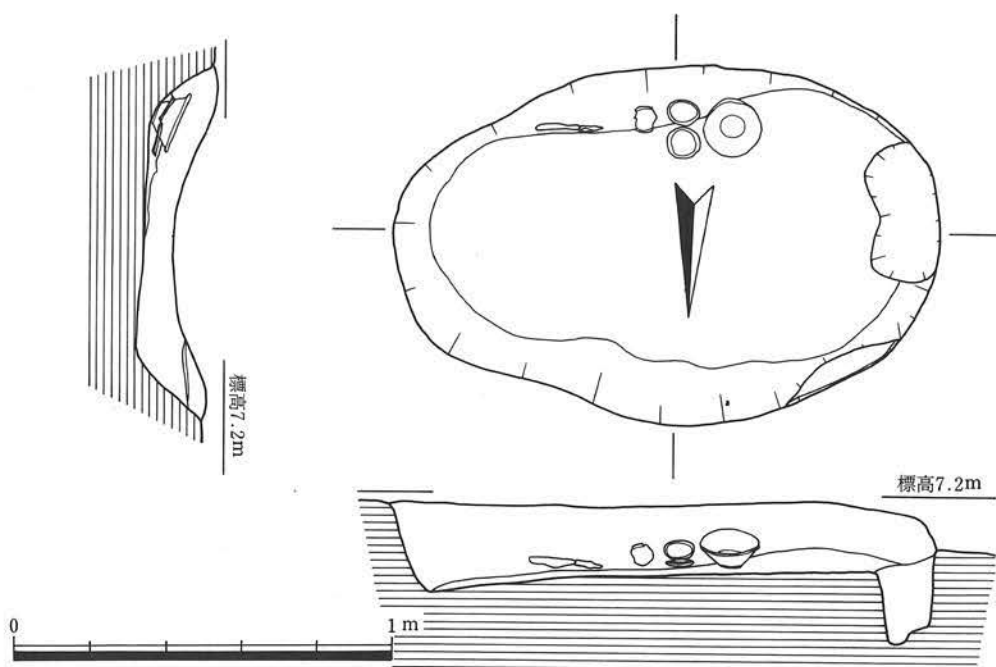


Fig. 52 SP232 実測図 (S = $\frac{1}{20}$)

(5) 土墳墓と出土遺物

SP232土墳墓 (Fig. 52)

AI-53区画に検出した。長径1.45m・短径0.95m・深さ0.25mで、長楕円形の平面形をなす。明褐色系の埋土で、断面形は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、東側に若干傾斜している。中央南端で副葬品が検出された。副葬品が沈み込んだものかどうかは判断しがたい。釘がないことや壁の立ち上がりから、木棺を用いずにそのまま埋葬したか、木蓋のみを使用したものではないかと思われる。土師器小皿の一つは、破損したままで副葬されていた。

SP232出土遺物 (Fig. 53)

079・080・081は土師器小皿。糸切り底で、板状圧痕が認められる。口径8.7cm・器高0.9～1.1cm。082は白磁碗。口径15.4cm・器高6.5cm。高台削り出しで、体部下位から露胎している。内面に一条の沈線がまわる。083は鉄製品。断面形からは、ノミ状の工具類かと思われる。

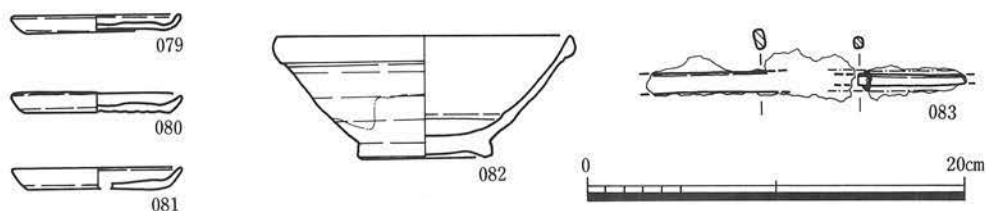


Fig. 53 SP232 出土遺物実測図 (S = $\frac{1}{4}$)

VI. 小 結

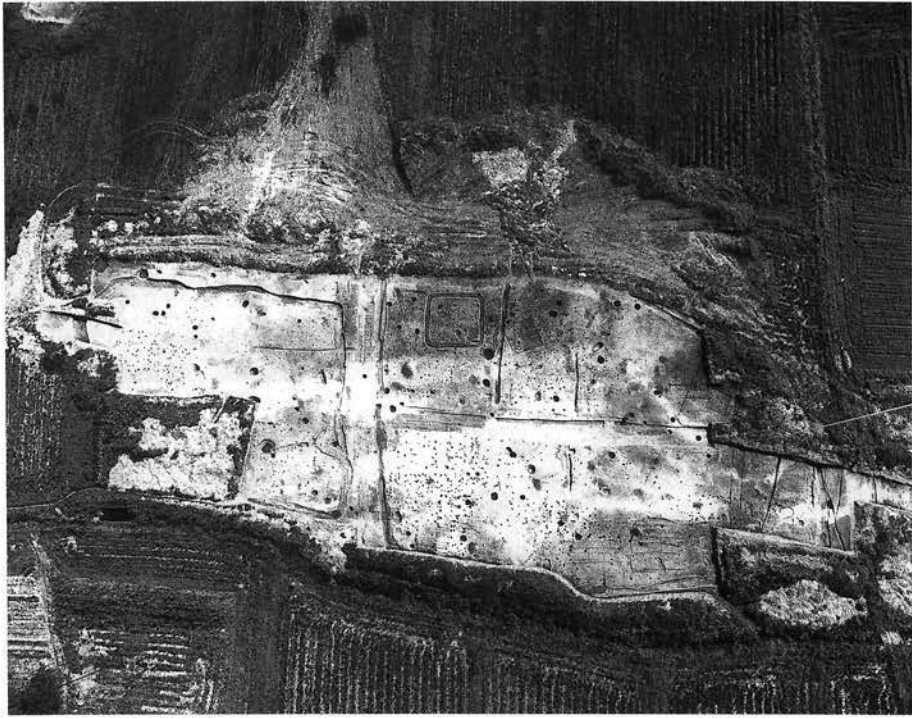
本村遺跡 1・2 区の調査記録を記述してきたが、紙数の制限によって記載できない遺構・遺物が多く、十分な調査報告になっていない。古墳時代遺跡についてはほぼ水準に達した調査を行えたことを感じているが、中世遺跡については井戸の調査で大きな問題点がある。調査区の湧水点が高く井戸として分類したものの半数以上が完掘できなかったため、構造に関してきわめて不十分な調査となった。また、全体的に有効な遺物が回収できなかったこととあいまって、数期に分離可能な井戸群を建物群の時期に対応して把握できていない。また、中世遺物の報告は限定的に行われる「定性分析」にしか耐えないものであることを付け加えておく。

調査成果で最も注目すべきは、近接して群郭的な複数の方形区画の存在であろう。尾崎利田遺跡Ⅵ区でも全長28m以上・幅 2 m前後の溝が検出されていて同様な方形区画が存在した可能性がある。これらはほぼ同時期かごく近接した年代として把握できる。これらの方形区画は、その内部の掘立柱建物（複数）・井戸・土壇等の存在から中世の居館あるいは屋敷という性格が想定されるが、このような例はきわめて興味深く、条里制地割との関係や当時の集落構造のあり方を含めて今後の研究の進展を期待したい。

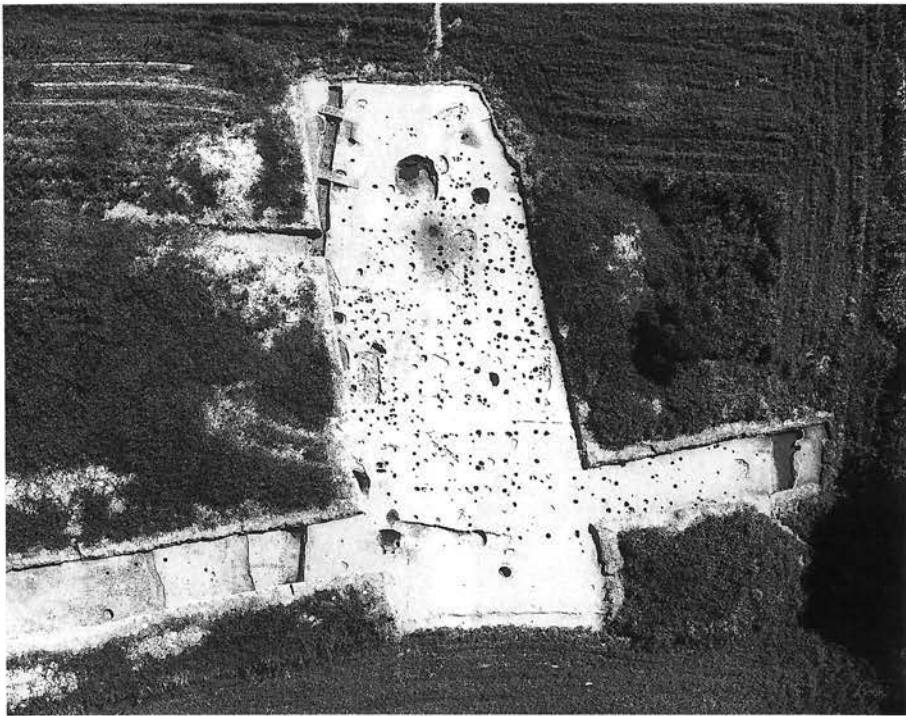
方形区画Ⅱに伴う掘立柱建物群を方位角偏差によって分析すると、①西偏 5°30'～9°②西偏 10°30'～18'に分離でき、建物の重複関係による検証でも有意な結果を得た。方形区画Ⅱに先行するSR164と建物群の切り合い関係から、②群→①群の先後関係をとるものと考えられる。①群は 2 間 3 間以上のもの 2 棟・2 間 2 間以上のもの 5 棟、②群では 2 間 3 間以上のもの 4 棟・2 間 2 間以上のもの 4 棟であり、おそらく大小 7～8 棟の建物群で方形区画Ⅱは機能していたのだろう。また、方形区画Ⅱ内部の井戸群は、方形区画開始前のもの（これも 2 期に分離できる確率は大きい）と方形区画に伴うものに分離でき、さらに 2 期にわかれる建物群に対応する井戸群が分離できるものと考えられる。各期の建物群に 1～2 基の井戸が対応する可能性が高いと判断できる。

参考文献

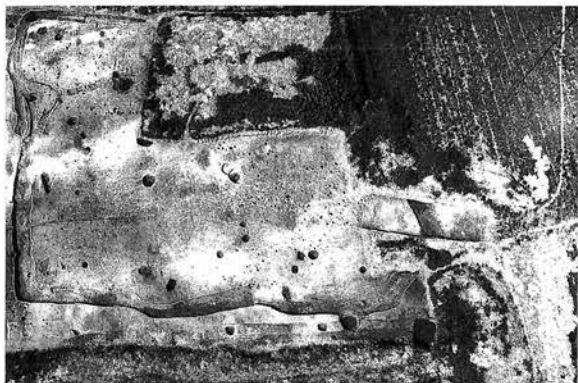
佐賀県文化財調査報告書第55集	『尾崎利田遺跡』	昭和55年3月
佐賀市文化財調査報告書第13集	『琵琶原遺跡』	昭和56年3月
佐賀市文化財調査報告書第16集	『泉遺跡』	昭和61年3月
佐賀市文化財調査報告書第18集	『泉三本栗遺跡』	昭和62年3月
佐賀市文化財調査報告書第20集	『上和泉遺跡』	昭和63年3月
佐賀市文化財調査報告書第21集	『上和泉遺跡』	昭和63年3月
佐賀市文化財調査報告書第24集	『立野遺跡ほか』	平成元年3月
佐賀市文化財調査報告書第25集	『大日遺跡』	平成元年3月
佐賀市文化財調査報告書第26集	『村徳永遺跡』	平成元年3月
佐賀市文化財調査報告書第28集	『古村遺跡ほか』	平成2年3月
佐賀市文化財調査報告書第31集	『村徳永遺跡』	平成2年3月



PL. 1-1 本村遺跡1区全景



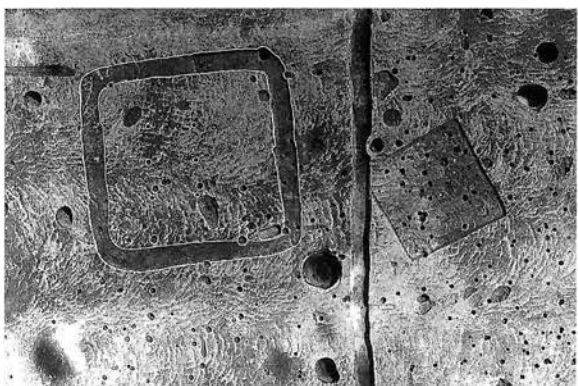
PL. 1-2 本村遺跡2区全景



PL. 2-1 方形区画 I 全景



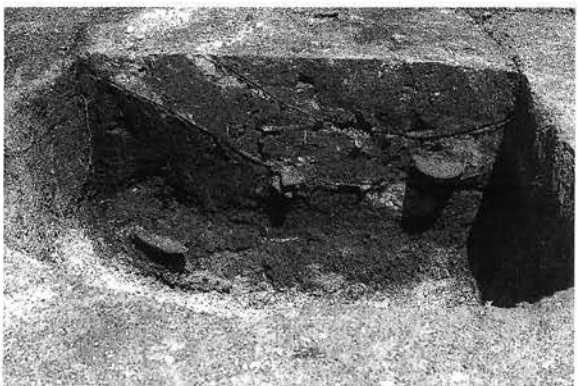
PL. 2-2 方形区画 II 全景



PL. 2-3 SR104SH180 掘立柱建物Ⅱ群



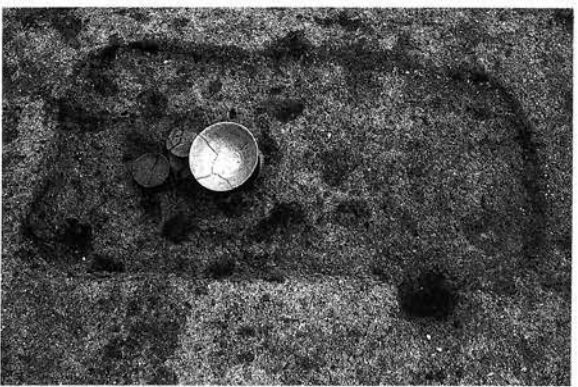
PL. 2-4 SK162 遺物出土状況



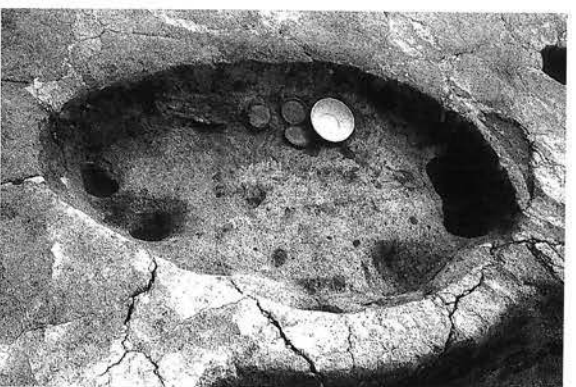
PL. 2-5 SK141 土層新面



PL. 2-6 P1001 遺物出土状況



PL. 2-7 SP170



PL. 2-8 SP232

本村遺跡収蔵品目録

番 号	名 称	種 別	時 代	量 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 機 名	出土年月	発掘図録	コナナ科	A・Bの別
HMR-1-001	坏	土 師 器	鎌倉・室町	2 0	口径14.2㎝ 底径11.5㎝ 器高 2.7	SE001	1989.08	1-303	1	A
HMR-1-002	碗 (口縁部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.0㎝ 底径 — 器高 6.1㎝	SE001	1989.08	1-310	1	A
HMR-1-003	碗 (口縁部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.0㎝ 底径 — 器高 5.6㎝	SE001	1989.08	1-311	1	A
HMR-1-004	坏 (底部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.2 器高 2.0㎝	SE003	1989.08	3-315	1	A
HMR-1-005	碗 (底部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 6.8㎝ 器高 3.7㎝	SE003	1989.08	3-316	1	A
HMR-1-006	碗 (口縁部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.8㎝ 底径 — 器高 4.9㎝	SE003	1989.08	3-318	1	A
HMR-1-007	碗 (底部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 6.9 器高 2.5㎝	SE003	1989.08	3-317	1	A
HMR-1-008	小皿	青 磁	鎌倉・室町	4 5	口径10.4㎝ 底径 5.3㎝ 器高 2.3	SE003	1989.08	3-319	1	A
HMR-1-009	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径26.2㎝ 底径 — 器高 6.3㎝	SK004	1989.08	19-126	1	B
HMR-1-010	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径33.8㎝ 底径 — 器高 6.1㎝	SK004	1989.08	19-127	1	B
HMR-1-011	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	9 5	口径 9.8 底径 7.6 器高 0.9	SE006	1989.08	4-324	1	A
HMR-1-012	坏	土 師 器	鎌倉・室町	8 0	口径15.1 底径 8.6 器高 4.0	SE006	1989.08	4-325	1	A
HMR-1-013	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	完形	口径 8.7 底径 6.7 器高 1.3	SE007	1989.08	57-13	1	A
HMR-1-014	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径 8.8㎝ 底径 6.8㎝ 器高 1.4	SE007	1989.08	57-12	1	A
HMR-1-015	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	5 0	口径 9.1 底径 7.0 器高 1.8	SE007	1989.08	57-11	1	A
HMR-1-016	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径 9.2㎝ 底径 7.7㎝ 器高 1.3	SE007	1989.08	57-10	1	A
HMR-1-017	坏	土 師 器	鎌倉・室町	完形	口径15.1 底径10.1 器高 3.4	SE007	1989.08	57-19	1	A
HMR-1-018	坏	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径15.5㎝ 底径10.7㎝ 器高 3.2	SE007	1989.08	57-17	1	A
HMR-1-019	坏	土 師 器	鎌倉・室町	7 5	口径16.0 丸底 器高 4.3	SE007	1989.08	57-18	1	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残 存 率(%)	法 量 (cm.g)	遺 構 名	出土年月	発掘図	コナリ科	A・Bの別
HNR-1-020	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	9 5	口径 9.5 底径 8.4 器高 2.1	SE007	1889.08	57-15	1	A
HNR-1-021	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径10.3 底径 7.9 器高 1.9	SE007	1889.08	57-16	1	A
HNR-1-022	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	2 5	口径11.2 底径 — 器高 2.0	SE007	1889.08	57-14	1	A
HNR-1-023	碗	土 師 器	鎌倉・室町	7 0	口径16.2 底径 6.8 器高 5.8	SE007	1889.08	45-31	1	A
HNR-1-024	碗	瓦 器	鎌倉・室町	7 0	口径16.0 底径 — 器高 4.5	SE007	1889.08	55-38	1	A
HNR-1-025	碗	瓦 器	鎌倉・室町	9 5	口径16.0 底径 7.4 器高 5.8	SE007	1889.08	45-29	1	A
HNR-1-026	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.3 底径 7.6 器高 6.5	SE007	1889.08	56-25	1	A
HNR-1-027	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.4 底径 8.0 器高 6.1	SE007	1889.08	58-24	1	A
HNR-1-028	碗	瓦 器	鎌倉・室町	9 5	口径16.4 底径 7.7 器高 6.2	SE007	1889.08	58-26	1	B
HNR-1-029	碗	瓦 器	鎌倉・室町	5 0	口径16.8 底径 7.8 器高 6.8	SE007	1889.08	45-30	1	B
HNR-1-030	碗	瓦 器	鎌倉・室町	9 0	口径16.6 底径 7.7 器高 6.4	SE007	1889.08	58-27	1	A
HNR-1-031	碗	瓦 器	鎌倉・室町	9 0	口径16.5 底径 7.6 器高 6.3	SE007	1889.08	56-28	1	A
HNR-1-032	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.6 底径 8.0 器高 6.3	SE007	1889.08	56-23	1	A
HNR-1-033	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.8 底径 8.0 器高 6.2	SE007	1889.08	56-22	1	A
HNR-1-034	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.8 底径 7.3 器高 6.4	SE007	1889.08	58-21	1	A
HNR-1-035	碗	瓦 器	鎌倉・室町	8 0	口径17.0 底径 7.8 器高 6.4	SE007	1889.08	57-20	1	A
HNR-1-036	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径28.4 底径 — 器高 7.9 底径 —	SE007	1889.08	57-37	1	A
HNR-1-037	石鍋	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高11.4 底径 —	SE007	1889.08	45-36	1	A
HNR-1-038	碗	瓦 器	鎌倉・室町	3 0	口径16.9 底径 6.4 器高 6.3	SE009	1889.08	5-326	1	B

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘時期	結合部位材料	コナリ材料	A・Bの別
HMR-1-039	鉢 (底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径10.0 器高 6.0 觔	SE009	1989.08	5-327	—	1	B
HMR-1-040	杯	土 師 器	鎌倉・室町	完形	口径14.6 底径 7.0 器高 3.2	SE010	1989.08	6-92	—	2	B
HMR-1-041	碗	土 師 器	鎌倉・室町	80	口径16.0 底径 5.3 器高 4.9	SE010	1989.08	6-93	—	2	B
HMR-1-042	碗 (口縁部破片)	磁 器	鎌倉・室町	不明	口径15.4 底径 — 器高 4.6 觔	SE010	1989.08	6-94	—	2	B
HMR-1-043	碗	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径14.8 底径 — 器高 5.7	SE010	1989.08	6-95	—	2	B
HMR-1-044	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	80	口径 8.4 底径 6.8 器高 1.5	SK026	1989.08	20-276	—	2	B
HMR-1-045	小皿	白 磁	鎌倉・室町	45	口径10.2 底径 4.7 器高 2.9	SK026	1989.08	20-277	—	2	B
HMR-1-046	鉢 (口縁部破片)	瓦質土器	鎌倉・室町	不明	口径26.4 底径 — 器高 3.8 觔	SK026	1989.08	20-278	—	2	B
HMR-1-047	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径28.2 底径 — 器高 6.7	SK026	1989.08	20-279	—	2	B
HMR-1-048	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 9.0 底径 — 器高 1.2 觔	SK028	1989.08	21-103	—	2	B
HMR-1-049	碗 (底部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 1.4 觔	SK028	1989.08	21-107	—	2	B
HMR-1-050	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径26.0 底径 — 器高 4.9 觔	SK028	1989.08	21-106	—	2	B
HMR-1-051	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	不明	口径18.2 底径 — 器高 4.5 觔	SK029	1989.08	66-55	—	2	B
HMR-1-052	高杯 (脚部)	土 師 器	古 墳	60	口径 — 底径11.6 器高 7.4	SK029	1989.08	65-62	—	2	B
HMR-1-053	埴	土 師 器	古 墳	20	口径 9.2 底径 — 器高 9.0 觔	SK029	1989.08	66-57	—	2	B
HMR-1-054	杯	土 師 器	鎌倉・室町	50	口径15.4 底径 — 器高 3.3 觔	SK032	1989.08	21-105	—	2	B
HMR-1-055	碗	瓦 器	鎌倉・室町	80	口径16.2 底径 6.2 器高 5.6	SK038	1989.08	21-104	—	2	B
HMR-1-056	台付皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径11.4 底径 — 器高 1.1	SK042	1989.08	21-102	—	2	B
HMR-1-057	杯 (底部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 6.6 器高 3.5 觔	SK042	1989.08	21-99	—	2	B

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	黒 身 率 (%)	法 量 (cm.g)	運 搬 名	出 土 年 月	発 掘 時 期	結合部番号	コンクリート	A・Bの別
HMR-1-058	碗 (底部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 8.6 器高 2.0	SK042	1989.08	21-101	—	2	B
HMR-1-059	壺 (口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径18.2 底径 — 器高 3.4	SK042	1989.08	21-100	—	2	B
HMR-1-060	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	ほぼ完存	口径 9.0 底径 6.0 器高 2.2	SA050	1989.08	74-248	—	2	B
HMR-1-061	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径 6.5 底径 5.4 器高 1.4	SD101	1989.07	84-182	14-061	2	A
HMR-1-062	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	30	口径 8.2 底径 7.0 器高 1.1	SD101	1989.07	84-179	14-062	2	A
HMR-1-063	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	完形	口径 8.1 底径 7.6 器高 1.1	SD101	1989.07	84-177	14-063	2	A
HMR-1-064	坏	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径12.2 底径 8.0 器高 3.4	SD101	1989.07	84-178	14-064	2	A
HMR-1-065	坏	土 師 器	鎌倉・室町	15	口径12.3 底径 8.7 器高 2.8	SD101	1989.07	84-180	14-065	2	A
HMR-1-066	坏	土 師 器	鎌倉・室町	15	口径12.9 底径 9.4 器高 3.2	SD101	1989.07	84-181	14-066	2	B
HMR-1-067	坏	土 師 器	鎌倉・室町	25	口径13.7 底径 8.9 器高 2.5	SD101	1989.07	85-188	14-067	2	B
HMR-1-068	坏	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径15.0 底径 丸底 器高 2.4	SD101	1989.07	83-193	14-068	2	A
HMR-1-069	碗	瓦 器	鎌倉・室町	25	口径18.0 底径 6.6 器高 5.2	SD101	1989.07	76-195	14-069	2	A
HMR-1-070	碗	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 5.2 器高 5.6	SD101	1989.07	87-200	14-070	2	A
HMR-1-071	碗	青 磁	鎌倉・室町	25	口径15.8 底径 5.2 器高 6.9	SD101	1989.07	86-184	14-071	2	A
HMR-1-072	碗 (口縁部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径17.0 底径 — 器高 4.6	SD101	1989.07	87-198	14-072	2	A
HMR-1-073	碗 (底部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.4 器高 3.7	SD101	1989.07	83-191	14-073	2	A
HMR-1-074	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径24.0 底径 — 器高 5.8	SD101	1989.07	82-213	14-074	2	A
HMR-1-075	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径27.8 底径 — 器高 3.3	SD101	1989.07	76-194	14-075	2	A
HMR-1-076	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径32.5 底径 — 器高 5.9	SD101	1989.07	78-210	14-076	2	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘Pig番号	コナリ番号	A・Bの別
HMR-1-077	擂鉢 (底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径12.2 器高 5.2	SD101	1989.07	86-183	2	B
HMR-1-078	甕 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径20.5 底径 — 器高 5.5	SD101	1989.07	80-214	2	A
HMR-1-079	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径28.0 底径 — 器高 5.0	SD101	1989.07	79-201	2	A
HMR-1-080	碗 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径31.0 底径 — 器高 6.0	SD101	1989.07	78-209	2	A
HMR-1-081	甕 (口縁部破片)	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径27.2 底径 — 器高 4.8	SD101	1989.07	83-192	2	A
HMR-1-082	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径28.0 底径 — 器高 3.8	SD101	1989.07	75-204	2	A
HMR-1-083	石鍋 (底部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 6.8	SD101	1989.07	87-199	2	A
HMR-1-084	甕 (口縁部破片)	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径 8.7 底径 — 器高 5.8	SD101	1989.07	76-197	2	A
HMR-1-085	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径35.4 底径 — 器高 6.0	SD102	1989.07	88-220	2	A
HMR-1-086	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	6 5	口径 8.3 底径 5.0 器高 2.1	SD102	1989.07	89-218	2	A
HMR-1-087	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	2 5	口径 9.8 底径 8.4 器高 1.3	SD104	1989.07	47-268	2	A
HMR-1-088	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 9.8 底径 7.8 器高 1.6	SD104	1989.07	49-356	2	B
HMR-1-089	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径 9.4 底径 7.4 器高 1.5	SD104	1989.07	47-289	2	A
HMR-1-090	小皿	白 磁	鎌倉・室町	2 5	口径10.9 底径 6.0 器高 2.8	SD104	1989.07	48-261	2	A
HMR-1-091	小皿 (口縁部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径11.2 底径 — 器高 2.8	SD104	1989.07	48-262	2	A
HMR-1-092	碗	青 磁	鎌倉・室町	2 0	口径16.0 底径 5.2 器高 6.2	SD104	1989.07	50-257	2	A
HMR-1-093	碗	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.0 底径 — 器高 5.5	SD104	1989.07	50-260	2	A
HMR-1-094	碗 (底部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 5.8 器高 5.2	SD104	1989.07	50-258	2	A
HMR-1-095	碗	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.0 底径 — 器高 5.8	SD104	1989.07	48-263	2	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	運 搬 名	出土年月	発掘時期	報告日	コナリ科	A・Bの別
HMR-1-096	碗 (底部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 5.7 器高 3.5	SD104	1989.07	50-259	17-096	1	A
HMR-1-097	鍋 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径30.6 底径 — 器高 5.7	SD104	1989.07	47-270	17-097	2	A
HMR-1-098	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径28.4 底径 — 器高 3.6	SD104	1989.07	47-272	17-098	2	A
HMR-1-099	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径27.0 底径 — 器高 6.9	SD104	1989.07	48-264	17-099	2	A
HMR-1-100	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径29.0 底径 — 器高 7.5	SD104	1989.07	48-265	17-100	2	A
HMR-1-101	鉢 (底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 8.6 器高 2.1	SD104	1989.07	47-267	17-101	2	A
HMR-1-102	鉢 (底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径10.5 器高 3.8	SD104	1989.07	47-266	17-102	2	A
HMR-1-103	甕 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高10.2	SD104	1989.07	46-274	17-103	2	A
HMR-1-104	甕 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径28.6 底径 — 器高 5.5	SD104	1989.07	48-273	17-104	2	A
HMR-1-105	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径24.8 底径 — 器高 5.8	SD104	1989.07	49-253	17-105	2	A
HMR-1-106	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径13.8 底径 — 器高 6.2	SD104	1989.07	49-254	17-106	2	A
HMR-1-107	壺 (底部破片)	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径14.8 器高 8.9	SD104	1989.07	46-275	17-107	2	A
HMR-1-108	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径45.8 底径 — 器高 5.4	SD112	1989.08	52-223	—	2	B
HMR-1-109	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径34.0 底径 — 器高 5.7	SD112	1989.08	52-224	—	2	B
HMR-1-110	鍋	土師質土器	鎌倉・室町	95	口径30.8 底径 5.6 器高14.5	SD114	1989.08	32-216	39-110	3	A
HMR-1-111	坏	土 師 器	鎌倉・室町	30	口径15.0 底径 9.8 器高 3.6	SD116	1989.08	34-233	—	3	B
HMR-1-112	鍋 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径33.2 底径 — 器高 7.7	SD116	1989.08	34-234	—	3	B
HMR-1-113	鍋 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径45.0 底径 — 器高 9.8	SD116	1989.08	33-235	—	3	B
HMR-1-114	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径31.4 底径 — 器高 8.4	SD117	1989.08	53-215	17-114	3	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	表 示 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	系圖番号	結合部Fig番号	コンテナ番号	A・Bの別
HMR-1-115	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径14.7㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	SD118	1989.08	51-228	17-115	3	A
HMR-1-116	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 6.0㎝	SD118	1989.08	51-229	17-116	3	A
HMR-1-117	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 5.4㎝	SD118	1989.08	51-230	17-117	3	A
HMR-1-118	碗	瓦 器	鎌倉・室町	50	口径17.3㎝ 底径 7.9㎝ 器高 5.6	SD119	1989.08	39-160	—	3	B
HMR-1-119	鉢	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 3.0㎝	SD119	1989.08	39-161	—	3	B
HMR-1-120	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 6.4㎝ 底径 — 器高 2.5㎝	SE120	1989.07	7-121	29-120	3	A
HMR-1-121	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径16.0㎝ 底径 4.2 器高 5.0	SE120	1989.07	7-118	29-121	3	A
HMR-1-122	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.4 底径 7.1 器高 5.8	SE120	1989.07	7-122	29-122	3	A
HMR-1-123	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径17.6㎝ 底径 — 器高 4.0㎝	SE120	1989.07	7-119	—	3	B
HMR-1-124	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径17.0㎝ 底径 7.8 器高 6.6	SE120	1989.07	7-120	29-124	3	A
HMR-1-125	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 9.4㎝ 底径 7.6 器高 1.5㎝	SE121	1989.08	9-117	29-125	3	A
HMR-1-126	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	完形	口径 9.5 底径 7.7 器高 1.0	SE121	1989.08	8-114	29-126	3	A
HMR-1-127	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径 9.4㎝ 底径 7.9 器高 1.2	SE121	1989.08	8-115	29-127	3	A
HMR-1-128	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径13.2㎝ 底径 — 器高 1.2㎝	SE121	1989.08	9-116	29-128	3	A
HMR-1-129	坏	土 師 器	鎌倉・室町	80	口径15.8 底径10.0 器高 3.5	SE121	1989.08	8-109	29-129	3	A
HMR-1-130	碗	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径15.8㎝ 底径 — 器高 6.6㎝	SE121	1989.08	8-108	—	3	B
HMR-1-131	碗	瓦 器	鎌倉・室町	40	口径16.4㎝ 底径 6.9 器高 5.5	SE121	1989.08	8-111	29-131	3	A
HMR-1-132	碗	瓦 器	鎌倉・室町	40	口径16.0㎝ 底径 6.9 器高 5.6	SE121	1989.08	8-113	29-132	3	A
HMR-1-133	蓋 (口縁部破片)	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径12.2㎝ 底径 — 器高 4.2㎝	SE121	1989.08	8-110	29-133	3	A

本村遺跡(1区)I種

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法	量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘時期	結合部位番号	コンクリート	A・Bの別
HMR-1-134	鍋 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径32.0㎝ 底径 — 器高 8.2㎝	SE 1 2 1		1989.08	8-112	29-134	3	A
HMR-1-135	坏	土 師 器	鎌倉・室町	ほぼ完存	口径15.5 底径11.5 器高 4.6	SK 1 2 2		1989.07	11-328	—	3	B
HMR-1-136	碗	青 磁	鎌倉・室町	6 0	口径15.3 底径 6.6 器高 5.5	SK 1 2 2		1989.07	10-96	—	3	B
HMR-1-137	碗	瓦 器	鎌倉・室町	6 0	口径16.0 底径 7.0 器高 6.3	SK 1 2 2		1989.07	10-97	—	3	B
HMR-1-138	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径23.0㎝ 底径 — 器高 9.9㎝	SK 1 2 2		1989.07	10-98	—	3	B
HMR-1-139	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	9 0	口径 8.2 底径 6.8 器高 1.0	SE 1 2 3		1989.07	12-330	29-139	4	A
HMR-1-140	坏 (底部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.6 器高 0.9㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-332	—	4	B
HMR-1-141	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	2 5	口径10.0㎝ 底径 — 器高 1.9	SE 1 2 3		1989.07	12-329	29-141	4	A
HMR-1-142	碗 (口縁部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径15.8㎝ 底径 — 器高 3.2㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-333	—	4	B
HMR-1-143	碗 (底部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.2 器高 1.6㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-334	—	4	B
HMR-1-144	碗	瓦 器	鎌倉・室町	8 5	口径15.9 底径 6.9 器高 5.8	SE 1 2 3		1989.07	12-335	29-144	4	A
HMR-1-145	碗 (口縁部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 3.3㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-336	29-145	4	A
HMR-1-146	碗 (底部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.2 器高 2.9㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-337	29-146	4	A
HMR-1-147	石鍋 (底部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 5.5㎝	SE 1 2 3		1989.07	12-331	—	4	B
HMR-1-148	坏	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径13.7㎝ 底径 9.6 器高 2.5㎝	SE 1 2 4		1989.07	7-124	—	4	B
HMR-1-149	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	ほぼ完形	口径10.1 底径 8.5 器高 1.7	SE 1 2 4		1989.07	7-125	—	4	B
HMR-1-150	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径16.0㎝ 底径 6.4 器高 4.5	SE 1 2 4		1989.07	7-123	—	4	B
HMR-1-151	碗	瓦 器	鎌倉・室町	2 0	口径15.9㎝ 底径 7.0㎝ 器高 5.6	SE 1 2 8		1989.07	13-339	—	4	B
HMR-1-152	石鍋 (口縁部破片)	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径33.4㎝ 底径 — 器高 8.4㎝	SE 1 2 8		1989.07	13-338	—	4	B

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	厚 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘図番号	コンテナー	A・Bの別
HNR-1-153	碗 (口縁部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径15.0㎝ 底径 — 器高 4.1㎝	SE134	1989.08	31-153	4	A
HNR-1-154	碗 (口縁部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径16.1㎝ 底径 — 器高 5.1㎝	SE134	1989.08	31-154	4	A
HNR-1-155	碗 (底部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.6 器高 1.3㎝	SE134	1989.08	31-155	4	A
HNR-1-156	鉢 (口縁部破片)	瓦質土器	鎌倉・室町	不明	口径32.0㎝ 底径 — 器高 6.3㎝	SE134	1989.08	31-156	4	A
HNR-1-157	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径33.2㎝ 底径 — 器高10.0㎝	SE134	1989.08	31-157	4	A
HNR-1-158	石鍋	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径21.5㎝ 底径 — 器高 3.8㎝	SE134	1989.08	31-158	4	A
HNR-1-159	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 8.0㎝ 底径 6.0 器高 1.3㎝	SK141	1989.07	33-159	4	A
HNR-1-160	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	35	口径 8.1㎝ 底径 6.2 器高 1.3	SK141	1989.07	33-160	4	A
HNR-1-161	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径 8.3㎝ 底径 6.6 器高 1.4	SK141	1989.07	33-161	4	A
HNR-1-162	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径 8.4㎝ 底径 6.1 器高 1.6	SK141	1989.07	33-162	4	A
HNR-1-163	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	35	口径 8.5㎝ 底径 7.4 器高 1.5	SK141	1989.07	33-163	4	A
HNR-1-164	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	85	口径 8.6㎝ 底径 6.6 器高 1.4	SK141	1989.07	33-164	4	A
HNR-1-165	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	45	口径 8.7㎝ 底径 6.9 器高 1.4	SK141	1989.07	33-165	4	A
HNR-1-166	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径 8.7㎝ 底径 — 器高 1.1	SK141	1989.07	33-166	4	A
HNR-1-167	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径 8.8 底径 7.3 器高 1.5	SK141	1989.07	33-167	4	A
HNR-1-168	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	70	口径 8.8㎝ 底径 6.5 器高 1.4	SK141	1989.07	33-168	4	A
HNR-1-169	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	70	口径 8.9㎝ 底径 6.9 器高 1.5	SK141	1989.07	33-169	4	A
HNR-1-170	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 9.0㎝ 底径 — 器高 1.6	SK141	1989.07	33-170	4	A
HNR-1-171	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径 9.2㎝ 底径 7.2 器高 1.5	SK141	1989.07	33-171	4	A

本村遺跡(1区)I種

番号	名称	種別	時代	容量(%)	法	量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
HMR-1-172	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	50	口径9.2 底径7.0 器高1.5	SK141		1989.07	24-260	33-172	A
HMR-1-173	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	40	口径9.2 底径6.8 器高1.6	SK141		1989.07	24-263	33-173	A
HMR-1-174	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	30	口径9.3 底径7.4 器高1.3	SK141		1989.07	23-265	33-174	A
HMR-1-175	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径9.7 底径7.1 器高1.5	SK141		1989.07	23-266	33-175	A
HMR-1-176	坏	土 師 器	鎌倉・室町	25	口径10.6 底径 器高2.6	SK141		1989.07	19-128	33-176	A
HMR-1-177	坏	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径15.3 底径10.6 器高3.2	SK141		1989.07	23-268	33-177	A
HMR-1-178	坏	土 師 器	鎌倉・室町	80	口径15.5 底径 器高4.1	SK141		1989.07	22-274	33-178	A
HMR-1-179	坏	土 師 器	鎌倉・室町	65	口径15.7 底径 器高3.6	SK141		1989.07	23-272	33-179	A
HMR-1-180	小皿	瓦	鎌倉・室町	80	口径9.8 底径7.3 器高1.7	SK141		1989.07	19-131	33-180	A
HMR-1-181	碗	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径15.0 底径6.8 器高5.9	SK141		1989.07	26-133	33-181	A
HMR-1-182	碗	瓦	鎌倉・室町	85	口径16.0 底径7.6 器高5.5	SK141		1989.07	19-132	33-182	A
HMR-1-183	碗	瓦	鎌倉・室町	70	口径16.0 底径7.2 器高6.6	SK141		1989.07	22-273	33-183	A
HMR-1-184	碗	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径16.0 底径6.9 器高6.0	SK141		1989.07	22-275	33-184	A
HMR-1-185	碗 (口縁部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径14.4 底径 器高5.2 底径 器高5.2	SK141		1989.07	23-271	33-185	A
HMR-1-186	碗 (底部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径 底径7.2 器高2.7 底径 器高2.7	SK141		1989.07	23-270	33-186	A
HMR-1-187	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径24.4 底径 器高6.7 底径 器高6.7	SK142		1989.07	26-137	—	B
HMR-1-188	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径7.7 底径5.8 器高1.5	SK143		1989.07	26-139	—	B
HMR-1-189	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	35	口径8.4 底径7.3 器高0.9	SK143		1989.07	26-142	—	B
HMR-1-190	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径8.5 底径7.4 器高1.1	SK143		1989.07	26-138	—	B

本村遺跡(1区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
HNR-1-191	小皿	土師器	鎌倉・室町	30	口径8.7㎝ 底径7.7㎝ 器高1.0	SK143	1989.07	26-141	—	4	B
HNR-1-192	小皿	土師器	鎌倉・室町	40	口径9.2㎝ 底径8.2㎝ 器高1.1	SK143	1989.07	26-140	—	4	B
HNR-1-193	杯	土師器	鎌倉・室町	不明	口径11.8㎝ 底径6.8㎝ 器高2.6	SK143	1989.07	26-143	—	4	B
HNR-1-194	刀子	鉄製品	鎌倉・室町	不明	残存長12.0 幅2.8	SK143	1989.07	90-351	—	別置	B
HNR-1-195	小皿	土師器	鎌倉・室町	35	口径8.0㎝ 底径5.0㎝ 器高1.7	SK144	1989.07	27-283	—	4	B
HNR-1-196	杯	土師器	鎌倉・室町	40	口径8.8㎝ 底径7.5㎝ 器高1.4	SK144	1989.07	27-281	—	4	B
HNR-1-197	杯	土師器	鎌倉・室町	35	口径12.2㎝ 底径7.6㎝ 器高3.7	SK144	1989.07	27-282	—	4	B
HNR-1-198	杯	瓦	鎌倉・室町	25	口径11.2㎝ 底径8.0㎝ 器高3.4	SK144	1989.07	27-285	—	4	B
HNR-1-199	杯	土師器	鎌倉・室町	30	口径13.3㎝ 底径10.2㎝ 器高3.9	SK144	1989.07	27-284	—	4	B
HNR-1-200	皿	青磁	鎌倉・室町	45	口径11.1㎝ 底径5.3㎝ 器高2.2	SK148	1989.08	28-286	—	4	B
HNR-1-201	碗	青磁	鎌倉・室町	不明	口径16.7㎝ 底径— 器高5.6㎝	SK148	1989.08	28-287	—	4	B
HNR-1-202	碗	青磁	鎌倉・室町	45	口径16.5㎝ 底径5.4㎝ 器高7.1	SK148	1989.08	28-288	—	4	B
HNR-1-203	鉢(底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径10.4㎝ 器高3.2㎝	SB153	1989.08	69-251	20-203	4	A
HNR-1-204	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径8.5㎝ 底径7.3㎝ 器高1.8	SB154	1989.08	67-252	20-204	4	A
HNR-1-205	小皿	土師器	鎌倉・室町	95	口径8.7㎝ 底径7.7㎝ 器高1.7	SB154	1989.08	67-253	20-205	4	A
HNR-1-206	小皿	土師器	鎌倉・室町	50	口径8.8㎝ 底径7.8㎝ 器高1.8	SB154	1989.08	67-254	20-206	4	A
HNR-1-207	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径9.0㎝ 底径7.4㎝ 器高1.1	SB155	1989.08	68-255	20-207	4	A
HNR-1-208	小皿	土師器	鎌倉・室町	30	口径8.3㎝ 底径7.0㎝ 器高0.8	SD160	1989.07	38-154	41-208	4	A
HNR-1-209	小皿	土師器	鎌倉・室町	40	口径8.4㎝ 底径6.2㎝ 器高1.1	SD160	1989.07	38-153	41-209	4	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	報告Fig番号	コンテナー番号	A・Bの別
HMR-1-210	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	25	口径9.2㎝ 底径7.8㎝ 器高1.0	SD160	1989.07	38-155	41-210	4	A
HMR-1-211	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	70	口径9.3 底径7.3 器高0.9	SD160	1989.07	38-152	41-211	4	A
HMR-1-212	坏	土 師 器	鎌倉・室町	20	口径11.8㎝ 底径8.4㎝ 器高1.8	SD160	1989.07	38-156	41-212	4	A
HMR-1-213	碗	土 師 器	鎌倉・室町	完存	口径16.4 底径7.3 器高6.1	SD160	1989.07	37-148	41-213	4	A
HMR-1-214	碗	土 師 器	鎌倉・室町	45	口径8.2㎝ 底径7.0 器高5.2	SD160	1989.07	37-149	41-214	4	A
HMR-1-215	碗	瓦 器	鎌倉・室町	40	口径16.3㎝ 底径7.2 器高5.4	SD160	1989.07	37-150	41-215	4	A
HMR-1-216	碗	瓦 器	鎌倉・室町	35	口径15.7㎝ 底径7.0 器高5.4	SD160	1989.07	40-162	41-216	4	A
HMR-1-217	碗	瓦 器	鎌倉・室町	50	口径15.7㎝ 底径7.0 器高5.6	SD160	1989.07	40-163	—	4	B
HMR-1-218	碗	瓦 器	鎌倉・室町	60	口径15.7㎝ 底径6.9 器高5.2	SD160	1989.07	40-164	41-218	4	A
HMR-1-219	碗	瓦 器	鎌倉・室町	20	口径15.4㎝ 底径 — 器高4.9	SD160	1989.07	40-165	—	4	B
HMR-1-220	碗	瓦 器	鎌倉・室町	25	口径15.4㎝ 底径7.3 器高5.9	SD160	1989.07	41-166	—	4	B
HMR-1-221	碗	瓦 器	鎌倉・室町	85	口径14.8 底径6.4 器高6.2	SD160	1989.07	41-167	41-221	4	A
HMR-1-222	碗	瓦 器	鎌倉・室町	40	口径13.8㎝ 底径5.5 器高5.4	SD160	1989.07	41-168	41-222	4	A
HMR-1-223	碗	瓦 器	鎌倉・室町	40	口径14.8㎝ 底径 — 器高5.0	SD160	1989.07	41-169	—	4	B
HMR-1-224	碗	瓦 器	鎌倉・室町	30	口径15.4㎝ 底径7.1 器高6.0	SD160	1989.07	42-170	41-224	4	A
HMR-1-225	碗	瓦 器	鎌倉・室町	70	口径16.0 底径6.8 器高5.7	SD160	1989.07	42-171	41-225	4	A
HMR-1-226	碗	瓦 器	鎌倉・室町	25	口径16.3㎝ 底径7.6 器高6.3	SD160	1989.07	42-172	41-226	4	A
HMR-1-227	碗	瓦 器	鎌倉・室町	60	口径16.3㎝ 底径7.2 器高5.6	SD160	1989.07	42-173	41-227	4	A
HMR-1-228	碗	瓦 器	鎌倉・室町	85	口径16.2㎝ 底径7.1 器高5.6	SD160	1989.07	43-174	41-228	4	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	実測資料	発掘ig番号	コナリ番号	A・Bの別
HNR-1-229	碗	瓦 器	鎌倉・室町	5 0	口径18.6㎝ 底径 7.7 器高 8.1	SD 1 6 0	1989. 07	43-175	41-229	4	A
HNR-1-230	碗	瓦 器	鎌倉・室町	3 0	口径18.3㎝ 底径 6.8 器高 8.0	SD 1 6 0	1989. 07	43-176	41-230	4	A
HNR-1-231	碗	白 磁	鎌倉・室町	4 0	口径17.5㎝ 底径 7.5 器高 7.3	SD 1 6 0	1989. 07	38-151	41-231	4	A
HNR-1-232	碗	白 磁	鎌倉・室町	2 5	口径 — 底径 6.4 器高 6.8㎝	SD 1 6 0	1989. 07	39-157	—	4	B
HNR-1-233	鉢	土師質土器	鎌倉・室町	2 5	口径45.4㎝ 底径12.2 器高20.0	SD 1 6 0	1989. 07	36-247	41-233	4	A
HNR-1-234	甕 (口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 5.8㎝	SD 1 6 0	1989. 07	39-158	—	4	B
HNR-1-235	甕 (口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 — 器高 7.0㎝	SD 1 6 0	1989. 07	39-159	—	4	B
HNR-1-236	高坏 (坏部)	土 師 器	古 墳	不明	口径19.4㎝ 底径 — 器高 5.9㎝	SK 1 6 1	1989. 08	66-56	9-236	5	A
HNR-1-237	埴	土 師 器	古 墳	3 0	口径 8.6㎝ 底径 — 器高 8.8㎝	SK 1 6 1	1989. 08	66-58	9-237	5	A
HNR-1-238	埴	土 師 器	古 墳	9 0	口径 9.0㎝ 丸底 器高 9.2	SK 1 6 1	1989. 08	66-59	9-238	5	A
HNR-1-239	埴	土 師 器	古 墳	7 0	口径 — 底径 — 器高 8.3㎝	SK 1 6 1	1989. 08	65-61	9-239	5	A
HNR-1-240	甕	土 師 器	古 墳	不明	口径18.2㎝ 底径 — 器高21.1㎝	SK 1 6 2	1989. 08	65-64	9-240	5	A
HNR-1-241	手捏	土 師 器	古 墳	完形	口径 3.6 丸底 器高 3.3	SK 1 6 2	1989. 08	65-65	9-241	5	A
HNR-1-242	埴	土 師 器	古 墳	完形	口径 8.2 丸底 器高 8.4	SK 1 6 2	1989. 08	65-63	9-242	5	A
HNR-1-243	埴	土 師 器	古 墳	9 0	口径 8.8 丸底 器高 8.1	SK 1 6 3	1989. 08	62-67	—	5	B
HNR-1-244	高坏 (脚部)	土 師 器	古 墳	6 0	口径 — 底径15.9 器高10.1㎝	SK 1 6 3	1989. 08	62-70	—	5	B
HNR-1-245	鉢	土 師 器	古 墳	4 0	口径10.8㎝ 底径 — 器高 6.7	SK 1 6 3	1989. 08	62-69	—	5	B
HNR-1-246	手捏	土 師 器	古 墳	完形	口径 4.2 丸底 器高 3.2	SK 1 6 3	1989. 08	65-66	—	5	B
HNR-1-247	皿	土 師 器	平 安	2 0	口径 9.4㎝ 底径 8.1㎝ 器高 1.5	SR 1 6 4	1989. 07	72-241	38-247	5	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	数 量(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
HNR-1-248	皿	土 師 器	平 安	2 0	口径10.8㎝ 底径 7.0㎝ 器高 1.4	SR164	1989.07	71-244	38-248	5 A
HNR-1-249	皿	土 師 器	平 安	2 0	口径11.0㎝ 底径 8.5㎝ 器高 1.7	SR164	1989.07	72-238	38-249	5 A
HNR-1-250	皿	土 師 器	平 安	9 0	口径10.9 底径 7.7 器高 1.7	SR164	1989.07	72-237	38-250	5 A
HNR-1-251	碗 (底部破片)	土 師 器	平 安	不明	口径 — 底径 7.5 器高 2.4㎝	SR164	1989.07	71-246	38-251	5 A
HNR-1-252	碗 (底部破片)	土 師 器	平 安	不明	口径 — 底径 6.8 器高 2.6㎝	SR164	1989.07	71-243	38-252	5 A
HNR-1-253	碗 (底部破片)	土 師 器	平 安	不明	口径 — 底径 8.6 器高 2.2㎝	SR164	1989.07	71-245	38-253	5 A
HNR-1-254	碗 (底部破片)	土 師 器	平 安	不明	口径 — 底径 8.4 器高 2.2㎝	SR164	1989.07	72-240	38-254	5 A
HNR-1-255	碗 (底部破片)	土 師 器	平 安	不明	口径 — 底径 6.8 器高 1.7㎝	SR164	1989.07	72-239	38-255	5 A
HNR-1-256	碗	黒色土器	平 安	2 5	口径14.2㎝ 底径 6.3 器高 5.4	SR164	1989.07	72-236	38-256	5 A
HNR-1-257	碗 (口縁部破片)	白 磁	平 安	不明	口径18.8㎝ 底径 — 器高 2.1㎝	SR164	1989.07	71-242	38-257	5 A
HNR-1-258	角釘	鉄 製 品	平 安	不明	長さ 5.8㎝	SR164	1989.07	90-352	38-258 別 置	A
HNR-1-259	角釘	鉄 製 品	平 安	不明	長さ 8.0㎝	SR164	1989.07	90-353	38-259 別 置	A
HNR-1-260	皿	土 師 器	鎌倉・室町	4 5	口径 9.1㎝ 底径 6.5㎝ 器高 1.0	SK166	1989.08	29-290	— 5 B	B
HNR-1-261	坏	土 師 器	鎌倉・室町	2 0	口径15.1㎝ 底径 8.8㎝ 器高 3.5	SK166	1989.08	29-354	— 5 B	B
HNR-1-262	坏	土 師 器	鎌倉・室町	4 5	口径14.7㎝ 底径10.0㎝ 器高 3.4	SK166	1989.08	29-291	— 5 B	B
HNR-1-263	坏	土 師 器	鎌倉・室町	7 0	口径15.3㎝ 底径 9.8㎝ 器高 3.8	SK166	1989.08	29-289	— 5 A	A
HNR-1-264	碗 (底部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 6.7㎝ 器高 1.4㎝	SK166	1989.08	29-292	— 5 B	B
HNR-1-265	皿	土 師 器	鎌倉・室町	完存	口径 9.7 底径 7.5 器高 1.8	SK167	1989.08	30-283	— 5 B	B
HNR-1-266	坏	土 師 器	鎌倉・室町	5 0	口径12.2㎝ 底径 9.2㎝ 器高 2.4	SK167	1989.08	30-295	— 5 B	B

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘層	附随品	コンテナ番号	A・Bの別
HNR-1-267	杯	土 師 器	鎌倉・室町	35	口径16.0㎝ 底径6.4㎝ 器高6.7	SK167	1989.08	30-294	—	5	B
HNR-1-268	鉢 (口縁部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径24.9㎝ 底径— 器高4.5㎝	SK167	1989.08	30-296	—	5	B
HNR-1-269	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径33.6㎝ 底径— 器高9.1㎝	SK167	1989.08	30-297	—	5	B
HNR-1-270	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	70	口径10.2 底径7.8 器高1.4	SK169	1989.08	25-136	—	5	B
HNR-1-271	碗 (口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径14.6㎝ 底径— 器高4.0㎝	SK169	1989.08	25-147	—	5	B
HNR-1-272	碗	瓦 器	鎌倉・室町	90	口径11.6 底径6.2 器高4.3	SK169	1989.08	25-146	—	5	B
HNR-1-273	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	85	口径8.5 底径7.1 器高1.4	SP170	1989.08	73-304	36-273	5	A
HNR-1-274	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	90	口径8.7 底径7.5 器高1.4	SP170	1989.08	73-305	36-274	5	A
HNR-1-275	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	完存	口径8.2 底径7.5 器高1.3	SP170	1989.08	73-306	36-275	5	A
HNR-1-276	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	60	口径8.3 底径7.2 器高1.3	SP170	1989.08	73-307	36-276	5	A
HNR-1-277	碗	甕 磁	鎌倉・室町	完存	口径16.7 底径6.3 器高6.8	SP170	1989.08	73-303	—	5	B
HNR-1-278	鉢 (底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径7.0㎝ 器高2.6㎝	SE174	1989.08	16-355	36-278	5	A
HNR-1-279	鉢 (口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	70	口径33.3 底径— 器高13.2㎝	SE174	1989.08	16-348	—	5	B
HNR-1-280	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	60	口径17.8㎝ 底径— 器高4.5㎝	SE177	1989.08	58-75	11-280	6	A
HNR-1-281	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	25	口径17.8㎝ 底径— 器高5.0㎝	SE177	1989.08	58-73	11-281	6	A
HNR-1-282	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	80	口径18.4 底径— 器高7.7㎝	SE177	1989.08	58-74	11-282	6	A
HNR-1-283	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	15	口径18.0㎝ 底径— 器高4.3㎝	SE177	1989.08	58-72	11-283	6	A
HNR-1-284	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	30	口径20.6㎝ 底径— 器高6.4㎝	SE177	1989.08	59-90	11-284	6	A
HNR-1-285	高杯 (坏部)	土 師 器	古 墳	20	口径20.4㎝ 底径— 器高4.5	SE177	1989.08	58-71	11-285	6	A

本村遺跡(1区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	厚 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
HNR-1-286	高坏(脚部)	土 師 器	古 墳	8 0	口径 — 底径12.9 器高 8.0	SE177	1989.08	58-76	11-286	A
HNR-1-287	高坏(脚部)	土 師 器	古 墳	6 0	口径 — 底径12.0 器高 8.7	SE177	1989.08	59-87	11-287	A
HNR-1-288	高坏(脚部)	土 師 器	古 墳	9 0	口径 — 底径12.9 器高 8.5	SE177	1989.08	58-77	11-288	A
HNR-1-289	高坏(脚部)	土 師 器	古 墳	6 0	口径 — 底径12.6 器高 7.2	SE177	1989.08	60-78	11-289	A
HNR-1-290	高坏	土 師 器	古 墳	9 0	口径18.6 底径11.2 器高13.6	SE177	1989.08	60-79	11-290	A
HNR-1-291	埴	土 師 器	古 墳	不明	口径 — 底径 — 器高 6.0	SE177	1989.08	59-91	11-291	A
HNR-1-292	埴	土 師 器	古 墳	2 5	口径 7.7 底径 — 器高 7.6	SE177	1989.08	59-86	11-292	A
HNR-1-293	埴	土 師 器	古 墳	9 5	口径 8.4 底径 — 器高 8.5	SE177	1989.08	60-83	11-293	A
HNR-1-294	埴	土 師 器	古 墳	7 0	口径 9.2 底径 — 器高10.1	SE177	1989.08	59-84	11-294	A
HNR-1-295	埴	土 師 器	古 墳	6 0	口径10.8 底径 — 器高 9.9	SE177	1989.08	60-82	11-295	A
HNR-1-296	鉢(口縁部破片)	土 師 器	古 墳	不明	口径25.6 底径 — 器高 7.5	SE177	1989.08	60-80	11-296	A
HNR-1-297	鉢(口縁部破片)	土 師 器	古 墳	不明	口径20.8 底径 — 器高 7.1	SE177	1989.08	60-81	11-297	A
HNR-1-298	手捏	土 師 器	古 墳	9 5	口径 6.6 底径 3.6 器高 6.0	SE177	1989.08	59-85	11-298	A
HNR-1-299	土製匙	土 師 器	古 墳	不明	長さ 4.3	SE177	1989.08	59-89	11-299	A
HNR-1-300	埴	土 師 器	古 墳	5 0	口径 9.2 底径 — 器高 9.6	SK178	1989.08	66-60	—	B
HNR-1-301	碗(口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	1 0	口径12.6 底径 — 器高 3.4	SK179	1989.08	31-300	—	B
HNR-1-302	坏	土 師 器	鎌倉・室町	1 0	口径19.1 底径14.4 器高 2.9	SK179	1989.08	31-299	—	B
HNR-1-303	碗捏	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径14.6 底径 — 器高 5.0	SK179	1989.08	31-298	—	B
HNR-1-304	支脚	土師質土器	鎌倉・室町	不明	長さ12.9 最大径3.6 最小径2.0	SK179	1989.08	31-302	—	B

本村遺跡(1区)I種

番号	名称	種別	時代	保存率(%)	法	量 (cm.g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナナ番号	A・Bの別
HMR-1-305	器台(裾部)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径— 裾部径12.4 器高16.7	SK179		1989.08	31-301	6	B
HMR-1-306	高坏(坏部)	土師器	古墳	不明	口径17.8 底径— 器高5.8	SH180		1989.08	64-53	6	A
HMR-1-307	鉢	土師器	古墳	15	口径14.2 底径— 器高15.0	SH180		1989.08	64-54	6	A
HMR-1-308	高坏(坏部)	土師器	古墳	不明	口径15.8 底径— 器高5.3	SH181		1989.08	61-46	6	A
HMR-1-309	高坏(坏部)	土師器	古墳	60	口径18.2 底径— 器高5.7	SH181		1989.08	64-52	6	A
HMR-1-310	坏(坏部)	土師器	古墳	70	口径18.8 底径— 器高5.6	SH181		1989.08	61-48	6	A
HMR-1-311	高坏(坏部)	土師器	古墳	不明	口径21.8 底径— 器高5.5	SH181		1989.08	63-42	6	A
HMR-1-312	高坏(坏部)	土師器	古墳	80	口径21.6 底径— 器高6.6	SH181		1989.08	63-43	6	A
HMR-1-313	高坏(脚部)	土師器	古墳	40	口径— 底径— 器高8.2	SH181		1989.08	64-51	6	A
HMR-1-314	埴	土師器	古墳	80	口径7.8 底径— 器高6.9	SH181		1989.08	64-50	6	A
HMR-1-315	埴(手柄)	土師器	古墳	50	口径8.8 底径— 器高8.7	SH181		1989.08	63-40	6	A
HMR-1-316	鉢	土師器	古墳	20	口径12.6 底径— 器高7.3	SH181		1989.08	61-45	6	A
HMR-1-317	鉢	土師器	古墳	20	口径17.3 底径— 器高6.5	SH181		1989.08	61-44	6	B
HMR-1-318	甕	土師器	古墳	80	口径16.5 底径— 器高13.2	SH181		1989.08	61-49	6	B
HMR-1-319	甕(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径17.6 底径— 器高7.5	SH181		1989.08	61-47	6	B
HMR-1-320	甕	土師器	古墳	不明	口径24.6 底径— 器高21.5	SH181		1989.08	63-41	6	A
HMR-1-321	碗(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径10.6 底径— 器高3.2	SK182		1989.08	25-145	7	B
HMR-1-322	鉢(底部破片)	土師器	古墳	不明	口径— 底径15.6 器高5.0	SK182		1989.08	25-144	7	B
HMR-1-323	碗	瓦	鎌倉・室町	完存	口径17.1 底径7.2 器高6.0	SE189		1989.08	17-349	7	B

本村遺跡(1区)I種

地 区 名	種 別	時 代	遺 構 名	出土年月	方法	袋 数	備 考
HMR-1	土師器・土師質土器破片	古墳～室町	SK004, SK026～028, SK032 SK034～038, SK125・138 SK141・143・144 SK147～149	1989. 7 ～ 8	8	23	
HMR-1	土師器破片	古墳～室町	SK161～169, SK172・173 SK176～178, SK182	1989. 7 ～ 8	9	18	
HMR-1	土師器・瓦器・土師質土器・青磁 白磁・陶器破片	鎌倉・室町	SD101～103	1989. 7 ～ 8	10	19	
HMR-1	土師器・瓦器・土師質土器・青磁 白磁・陶器破片	鎌倉・室町	SD104・112, SD114～119 SD126	1989. 7 ～ 8	11	21	
HMR-1	土師器・瓦器・青磁破片	鎌倉・室町	SD160	1989. 7	12	6	
HMR-1	土師器・瓦器・土師質土器破片	鎌倉・室町	SE001～003, SE008～012 SE016・019	1989. 7 ～ 8	13	17	
HMR-1	土師器・瓦器・土師質土器破片	鎌倉・室町	SE120～125, SE128～131 SE133～136, SE174	1989. 7 ～ 8	14	22	
HMR-1	土師器・瓦器破片	古墳～室町	SE175・177, SE187～195 SE197	1989. 7 ～ 8	15	17	
HMR-1	土師器破片	古墳～室町	SB154・155, SH180・181	1989. 8	16	17	
HMR-1	土師器・瓦器・土師質土器 滑石破片	鎌倉・室町	P1001～1009, P1011～1015 P1022・1025, P1027～1030 P1032, P1036～1038, P1040 P1046～1048, P1051・1053 P1054・1060・1064・1065 P1068・1070P1072～1074 P1076, SP171	1989. 7 ～ 8	17	44	
HMR-1	土師器破片	古墳～室町	SB020, SB152～157, SR184 SA050, 遺構上面, 表採	1989. 7 ～ 8	18	20	

本村遺跡(1区)II種

番号	名称	種別	時代	数量(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	調査番号	A・Bの別
HNR-2-001	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径8.0㎝ 底径6.5㎝ 器高1.1	SD208		1989.09	46-001	1-8	A
HNR-2-002	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径8.2㎝ 底径7.2㎝ 器高1.1	SD208		1989.09	46-002	1-5	A
HNR-2-003	小皿	土師器	鎌倉・室町	50	口径8.5㎝ 底径7.0㎝ 器高1.1	SD208		1989.09	46-003	1-3	A
HNR-2-004	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径8.5㎝ 底径6.9㎝ 器高1.1	SD208		1989.09	46-004	1-4	A
HNR-2-005	小皿	土師器	鎌倉・室町	残存	口径8.7 底径7.0 器高1.1	SD208		1989.09	46-005	1-2	A
HNR-2-006	小皿	土師器	鎌倉・室町	ほぼ完存	口径9.0 底径7.2 器高1.2	SD208		1989.09	46-006	1-1	A
HNR-2-007	坏	土師器	鎌倉・室町	25	口径13.8㎝ 底径8.6㎝ 器高3.1	SD208		1989.09	46-007	2-8	A
HNR-2-008	坏	土師器	鎌倉・室町	50	口径14.4㎝ 底径10.4㎝ 器高3.0	SD208		1989.09	46-008	2-9	A
HNR-2-009	坏	土師器	鎌倉・室町	85	口径15.5㎝ 底径12.3㎝ 器高3.6	SD208		1989.09	46-009	2-10	A
HNR-2-010	坏	土師器	鎌倉・室町	75	口径15.0 底径10.0 器高3.5	SD208		1989.09	46-010	2-12	A
HNR-2-011	坏	土師器	鎌倉・室町	40	口径15.1㎝ 底径10.8㎝ 器高3.9	SD208		1989.09	46-011	2-7	A
HNR-2-012	坏	土師器	鎌倉・室町	50	口径15.7㎝ 底径11.3 器高2.6	SD208		1989.09	46-012	1-34	A
HNR-2-013	坏	土師器	鎌倉・室町	60	口径15.5 底径11.2 器高2.8	SD208		1989.09	46-013	2-11	A
HNR-2-014	坏	土師器	鎌倉・室町	85	口径15.8 底径12.4 器高3.4	SD208		1989.09	—	2-13	B
HNR-2-015	坏	土師器	鎌倉・室町	90	口径15.8 底径11.0 器高2.8	SD208		1989.09	46-015	1-35	A
HNR-2-016	碗 (底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径— 底径12.0 器高2.9㎝	SD208		1989.09	—	3-19	B
HNR-2-017	碗 (底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径18.1㎝ 底径— 器高5.1	SD208		1989.09	46-017	6-36	A
HNR-2-018	碗	瓦	鎌倉・室町	70	口径16.4 底径6.4 器高6.1	SD208		1989.09	46-018	6-37	A
HNR-2-019	碗	瓦	鎌倉・室町	75	口径17.1 底径7.0 器高6.5	SD208		1989.09	46-019	6-38	A

本村遺跡(2区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 数(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コンテナ番号	A・Bの別
HNR-2-020	碗	瓦 器	鎌倉・室町	6 0	口径17.3 底径6.0 器高6.5	SD 2 0 8	1989. 09	6 -39	46-020	1 A
HNR-2-021	碗	瓦 器	鎌倉・室町	9 0	口径17.3 底径6.7 器高6.1	SD 2 0 8	1989. 09	6 -40	46-021	1 A
HNR-2-022	碗	瓦 器	鎌倉・室町	6 5	口径17.4 底径6.6 器高5.5	SD 2 0 8	1989. 09	6 -41	46-022	1 A
HNR-2-023	小皿	青 磁	鎌倉・室町	7 5	口径10.1 底径4.7 器高2.5	SD 2 0 8	1989. 09	5 -15	46-023	1 A
HNR-2-024	小皿	青 磁	鎌倉・室町	8 0	口径10.8 底径7.1 器高2.3	SD 2 0 8	1989. 09	5 -16	46-024	1 A
HNR-2-025	小皿	青 磁	鎌倉・室町	5 0	口径11.0 底径5.2 器高1.8	SD 2 0 8	1989. 09	5 -14	—	1 B
HNR-2-026	碗(底部破片)	青 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径5.0 器高3.8	SD 2 0 8	1989. 09	5 -17	—	1 B
HNR-2-027	小皿	白 磁	鎌倉・室町	6 5	口径10.6 底径4.0 器高2.6	SD 2 0 8	1989. 09	4 -18	46-027	1 A
HNR-2-028	四耳壺	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径10.0 底径7.1 器高 —	SD 2 0 8	1989. 09	8 -42	46-028	1 B
HNR-2-029	鉢	須恵質土器	鎌倉・室町	2 0	口径26.4 底径7.4 器高10.3	SD 2 0 8	1989. 09	4 -20	46-029	1 B
HNR-2-030	壺(底部破片)	陶 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径11.0 器高8.7	SD 2 0 8	1989. 09	3 -21	—	1 B
HNR-2-031	碗	瓦 器	鎌倉・室町	5 0	口径15.6 底径5.9 器高5.4	SD 2 1 0	1989. 09	8 -22	—	1 B
HNR-2-032	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	2 5	口径8.1 底径6.8 器高1.1	SE 2 1 1	1989. 09	10-43	49-032	1 A
HNR-2-033	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	1 5	口径8.4 底径6.4 器高1.2	SE 2 1 1	1989. 09	11-44	49-033	1 A
HNR-2-034	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 5	口径8.4 底径6.7 器高1.1	SE 2 1 1	1989. 09	11-45	49-034	1 A
HNR-2-035	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	5 0	口径8.3 底径7.5 器高1.1	SE 2 1 1	1989. 09	9 -23	49-035	1 A
HNR-2-036	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	6 0	口径8.4 底径7.2 器高1.3	SE 2 1 1	1989. 09	9 -26	49-036	1 A
HNR-2-037	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	4 5	口径8.7 底径7.4 器高1.4	SE 2 1 1	1989. 09	10-57	49-037	1 A
HNR-2-038	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径8.8 底径6.3 器高1.2	SE 2 1 1	1989. 09	11-47	49-038	1 A

本村遺跡(2区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残 存 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
HNR-2-039	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	7 5	口径 8.7# 底径 6.2 器高 1.2	SE 2 1 1	1989.09	9-28	49-039	A
HNR-2-040	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	8 0	口径 8.8 底径 6.6 器高 1.3	SE 2 1 1	1989.09	9-25	49-040	A
HNR-2-041	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径 8.9# 底径 7.1# 器高 1.2	SE 2 1 1	1989.09	9-27	49-041	A
HNR-2-042	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	4 0	口径 8.7# 底径 7.0# 器高 1.3	SE 2 1 1	1989.09	9-48	49-042	A
HNR-2-043	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	7 5	口径 8.9 底径 6.1 器高 1.3	SE 2 1 1	1989.09	9-24	49-043	A
HNR-2-044	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	2 0	口径 8.9# 底径 7.9# 器高 0.8	SE 2 1 1	1989.09	11-49	49-044	A
HNR-2-045	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 5	口径 8.4# 底径 6.7# 器高 1.1	SE 2 1 1	1989.09	11-50	49-045	A
HNR-2-046	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径 8.1# 底径 7.4# 器高 1.2	SE 2 1 1	1989.09	10-51	49-046	A
HNR-2-047	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	4 0	口径 9.1# 底径 8.6# 器高 1.0	SE 2 1 1	1989.09	11-52	49-047	A
HNR-2-048	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	8 0	口径 9.2# 底径 7.5# 器高 1.1	SE 2 1 1	1989.09	10-53	49-048	A
HNR-2-049	环	土 師 器	鎌倉・室町	3 0	口径12.0# 丸底 器高 2.6	SE 2 1 1	1989.09	11-54	49-049	A
HNR-2-050	环	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径14.5# 底径 — 器高 3.9	SE 2 1 1	1989.09	9-29	49-050	A
HNR-2-051	坏 (口縁部破片)	土 師 器	鎌倉・室町	不明	口径14.9# 底径 — 器高 2.5	SE 2 1 1	1989.09	11-55	—	B
HNR-2-052	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	2 0	口径 9.0# 底径 6.0# 器高 1.7	SE 2 1 1	1989.09	11-56	49-052	A
HNR-2-053	小皿	瓦 器	鎌倉・室町	5 0	口径 9.2# 底径 6.9# 器高 1.7	SE 2 1 1	1989.09	10-46	49-053	A
HNR-2-054	碗	瓦 器	鎌倉・室町	ほぼ完全	口径16.0 底径 6.8 器高 6.1	SE 2 1 1	1989.09	12-33	49-054	A
HNR-2-055	碗	瓦 器	鎌倉・室町	4 0	口径16.0# 底径 6.4# 器高 6.0	SE 2 1 1	1989.09	9-30	49-055	A
HNR-2-056	碗	瓦 器	鎌倉・室町	6 0	口径16.3 底径 7.6 器高 5.7	SE 2 1 1	1989.09	9-31	49-056	A
HNR-2-057	碗	瓦 器	鎌倉・室町	5 5	口径16.2 底径 6.0 器高 5.5	SE 2 1 1	1989.09	10-58	49-057	A

本村遺跡(2区)I種

番 号	名 称	種 別	時 代	高 さ (cm)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	類別	調査時期	コナリ時期	A・Bの別
HMR-2-058	碗	瓦 器	鎌倉・室町	4 5	口径16.4 底径 7.2 器高 5.3	SE 2 1 1	1989.09	11-59	49-058	2	A
HMR-2-059	碗	瓦 器	鎌倉・室町	7 0	口径16.6 底径 7.0 器高 6.7	SE 2 1 1	1989.09	9-32	49-059	2	A
HMR-2-060	碗 (底部破片)	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.0 器高 1.7 器高 4.0	SE 2 1 1	1989.09	11-80	—	2	B
HMR-2-061	碗	瓦 器	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 7.2 器高 4.0	SE 2 1 1	1989.09	10-61	—	2	B
HMR-2-062	碗 (口縁部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径12.9 底径 — 器高 2.0	SE 2 1 1	1989.09	11-62	49-062	2	A
HMR-2-063	碗 (底部破片)	白 磁	鎌倉・室町	不明	口径 — 底径 6.1 器高 2.3	SE 2 1 1	1989.09	11-63	49-063	2	A
HMR-2-064	不明石製品	滑石製品	鎌倉・室町	不明	最大長 6.1 最大幅 2.0	SE 2 1 1	1989.09	10-64	49-064	2	A
HMR-2-065	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	9 0	口径 8.4 底径 6.4 器高 1.5	SK 2 2 4	1989.09	15-65	51-065	2	A
HMR-2-066	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	6 0	口径 8.7 底径 6.6 器高 1.2	SK 2 2 4	1989.09	15-66	51-066	2	A
HMR-2-067	小皿	土 師 器	鎌倉・室町	8 0	口径 8.7 底径 7.0 器高 1.3	SK 2 2 4	1989.09	15-67	51-067	2	A
HMR-2-068	坏	土 師 器	鎌倉・室町	4 0	口径 8.7 底径 7.0 器高 1.1	SK 2 2 4	1989.09	15-68	51-068	2	A
HMR-2-069	坏	土 師 器	鎌倉・室町	4 0	口径14.3 底径 9.8 器高 3.4	SK 2 2 4	1989.09	15-69	51-069	2	A
HMR-2-070	坏	土 師 器	鎌倉・室町	2 0	口径14.9 底径11.4 器高 2.9	SK 2 2 4	1989.09	15-70	51-070	2	A
HMR-2-071	坏	土 師 器	鎌倉・室町	5 0	口径15.2 底径11.6 器高 3.4	SK 2 2 4	1989.09	14-71	51-071	2	A
HMR-2-072	坏	土 師 器	鎌倉・室町	8 0	口径15.3 底径10.6 器高 3.2	SK 2 2 4	1989.09	15-72	51-072	2	A
HMR-2-073	坏	土 師 器	鎌倉・室町	5 0	口径15.8 底径10.3 器高 3.3	SK 2 2 4	1989.09	14-73	51-073	2	A
HMR-2-074	碗	瓦 器	鎌倉・室町	完形	口径16.6 底径 6.0 器高 6.1	SK 2 2 4	1989.09	14-74	51-074	2	A
HMR-2-075	碗	瓦 器	鎌倉・室町	4 0	口径17.2 底径 5.8 器高 6.8	SK 2 2 4	1989.09	14-75	51-075	2	A
HMR-2-076	碗	瓦 器	鎌倉・室町	2 0	口径17.4 底径 6.8 器高 5.5	SK 2 2 4	1989.09	14-76	51-076	2	A

本村遺跡(2区)I種

[illegible]

本村遺跡(2区)I種

地 区 名	種 別	時 代	遺 構 名	出 土 年 月	コフナ	袋 数	備 考
HRM-2	土師器・瓦器・磁器破片	鎌倉・室町	SD207・208	1989.9	3	11	
HRM-2	土師器・瓦器破片	鎌倉・室町	SD208・209・210 SK217~225, SK231	1989.9	4	19	
HRM-2	土師器・瓦器破片	平安~室町	SE211~216, SB234, SK233 SK235, SP232	1989.9	5	22	
HRM-2	土師器破片	鎌倉・室町	P2007~2014, P2016~2062 表探	1989.9	6	57	

本村遺跡(2区)II種

佐賀市文化財調査報告書第29集

本村遺跡——1・2区の調査——

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 旬昭和堂印刷
佐賀市神野西4-1-32

